

Ⅲ 調査の結果

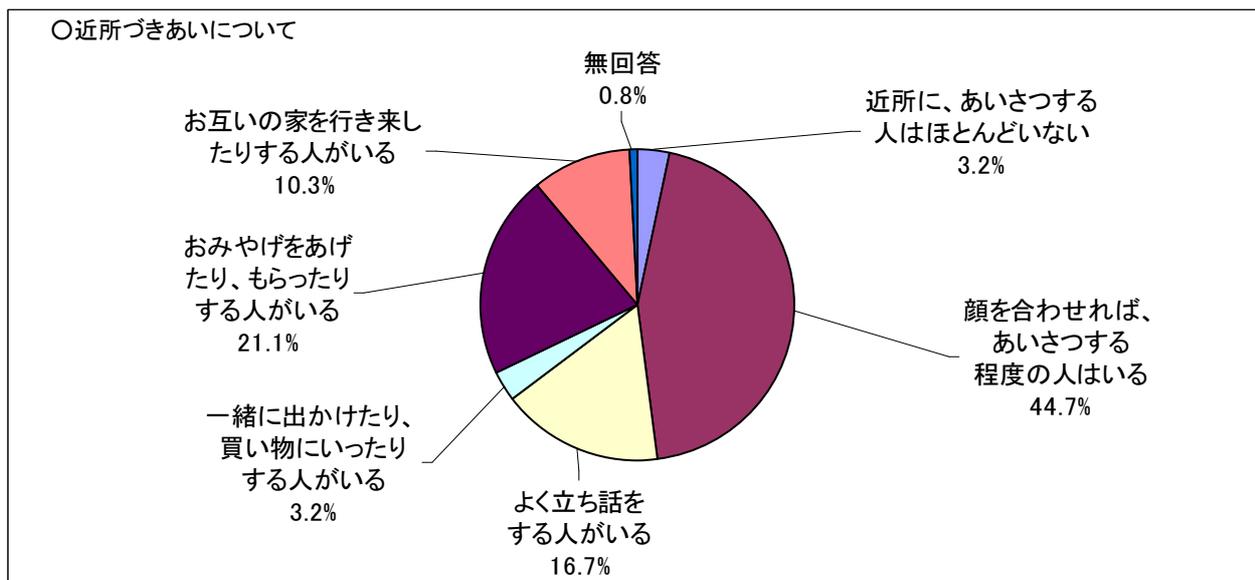
1 地域活動への参加意識

(1) 地域づきあいについて

問1 お住まいの地域において、あなたの近所づきあいの様子に一番近いのはどれですか。次の中から1つ選んで番号に○印をつけて下さい。

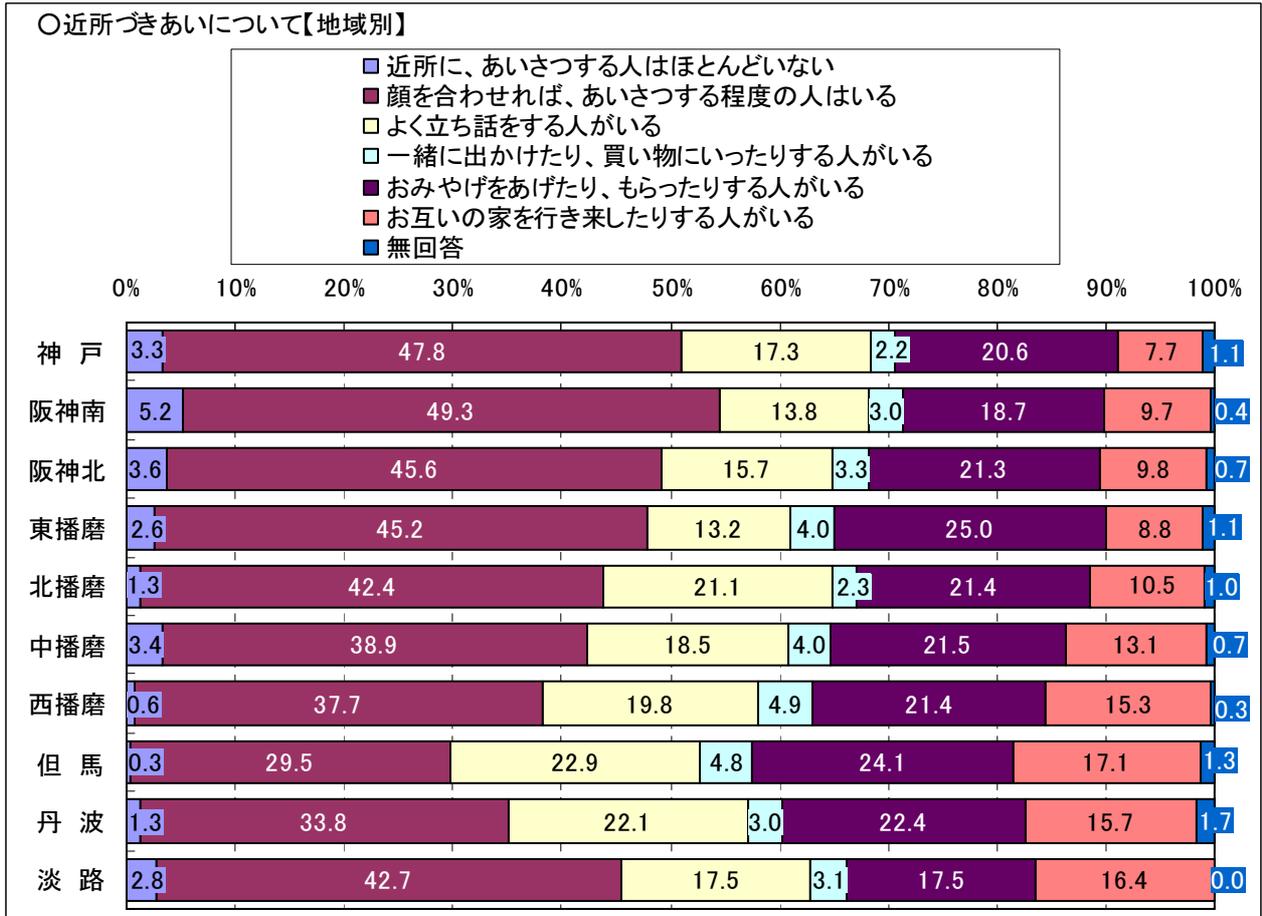
- 1 近所に、あいさつする人はほとんどいない
- 2 顔を合わせれば、あいさつする程度の人はいる
- 3 よく立ち話をする人がある
- 4 一緒に出かけたり、買い物にいったりする人がある
- 5 おみやげをあげたり、もらったりする人がある
- 6 お互いの家を行き来したりする人がある

○ 「顔を合わせれば、あいさつする程度の人はいる」(44.7%)が最も多く4割台半ばとなっており、次いで「おみやげをあげたり、もらったりする人がある」(21.1%)、「よく立ち話をする人がある」(16.7%)と続いている。一方で、最も少ないのは「近所に、あいさつする人はほとんどいない」、
「一緒に出かけたり、買い物にいったりする人がある」(ともに3.2%)となっている。



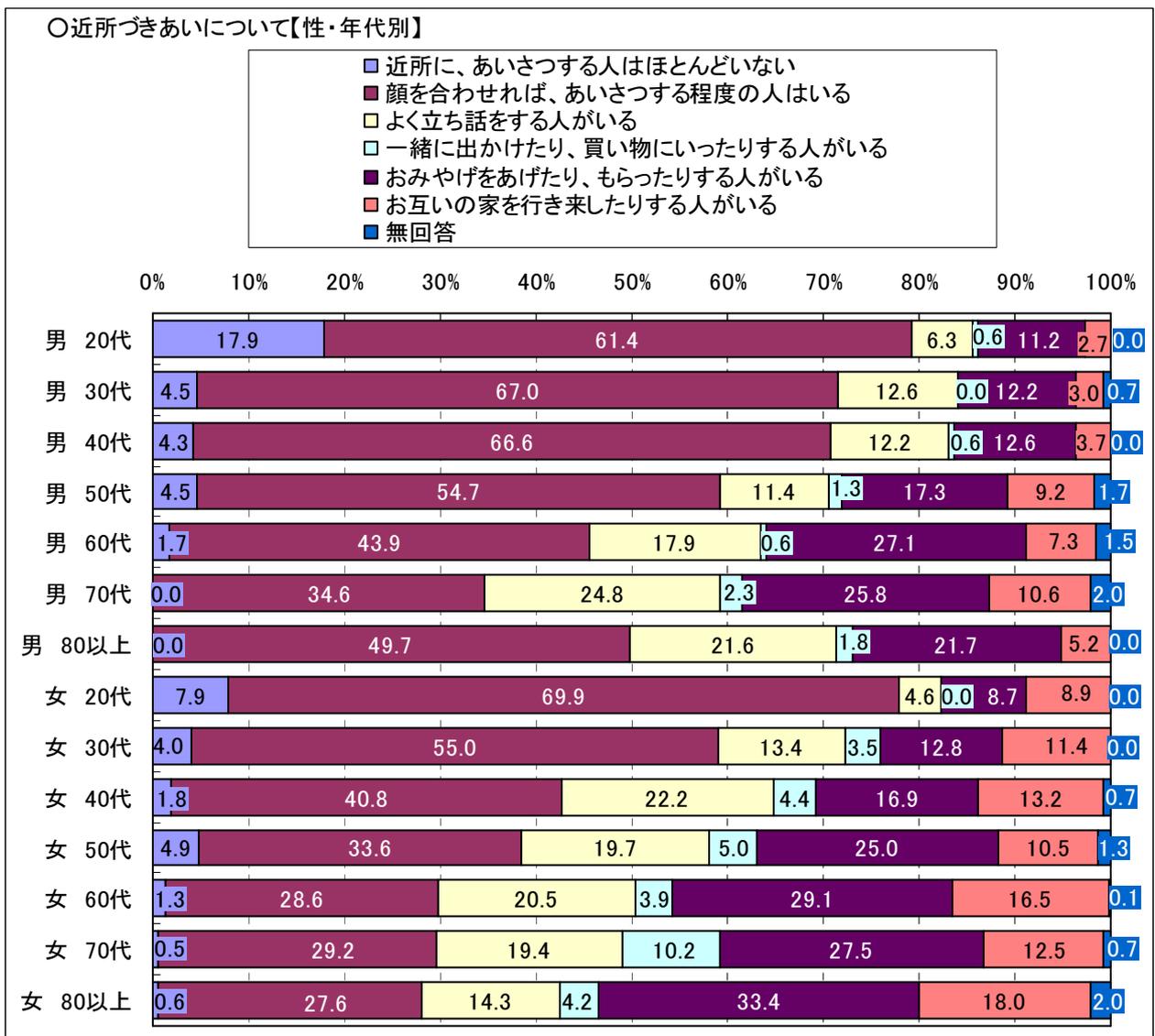
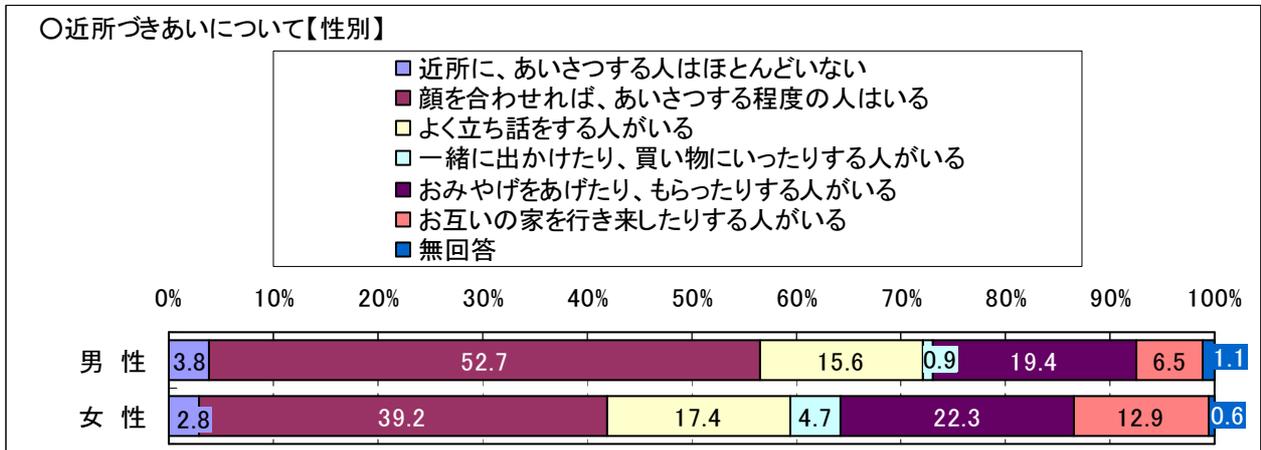
◆地域別

- 「顔を合わせれば、あいさつする程度の人はいる」をみると、阪神南(49.3%)、神戸(47.8%)、阪神北(45.6%)、東播磨(45.2%)、淡路(42.7%)、北播磨(42.4%)で4～5割弱となっており、中播磨(38.9%)、西播磨(37.7%)、丹波(33.8%)が3割台で続いているが、但馬(29.5%)は最も少なく3割に満たない。
- 「お互いの家を行き来したりする人がいる」では、但馬(17.1%)が最も多く、次いで淡路(16.4%)、丹波(15.7%)、西播磨(15.3%)、中播磨(13.5%)、北播磨(10.1%)で1割を超えているが、他地域では1割に満たず、神戸(7.7%)は最も少なくなっている。



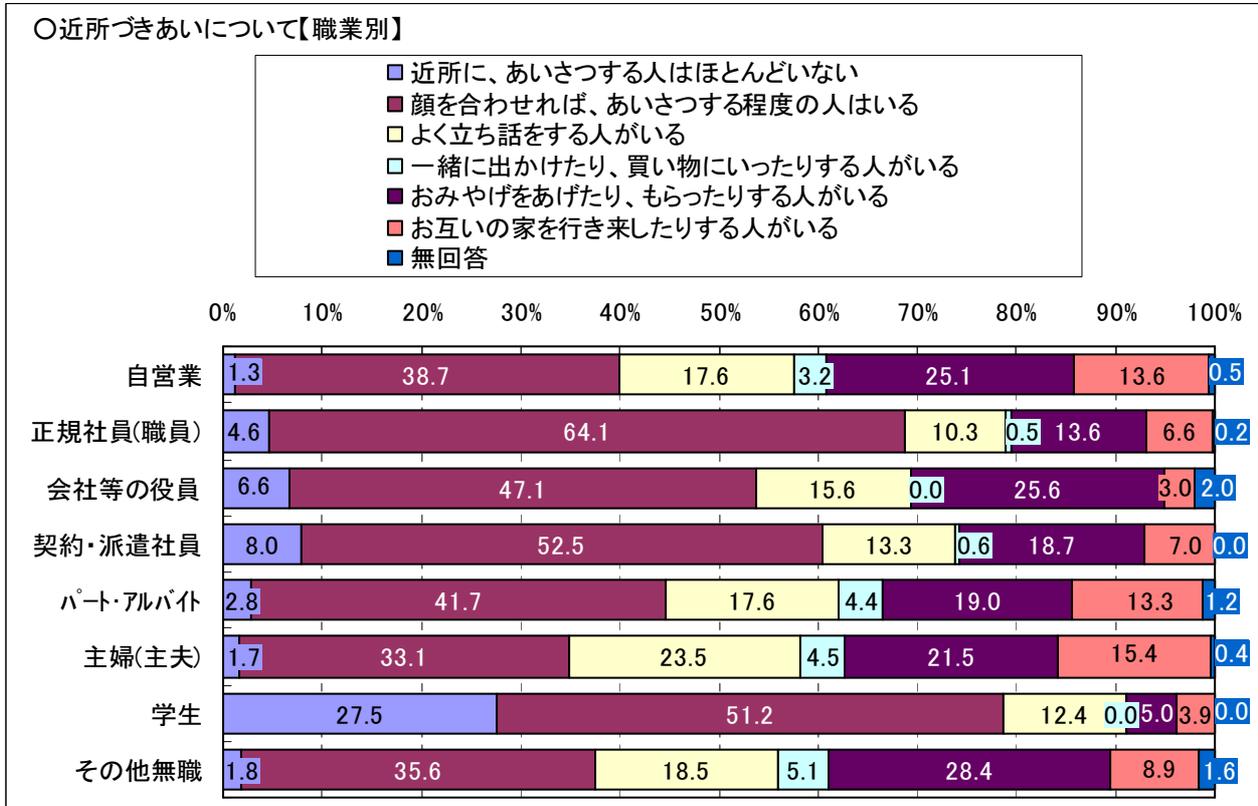
◆性別／性・年代別

- 性別でみると、「顔を合わせれば、あいさつする程度の人はいる」で、男性(52.7%)、女性(39.2%)となっており、男性が5割を超えているが、一方で「お互いの家を行き来したりする人がある」では、男性(6.5%)、女性(12.9%)となっており、また「おみやげをあげたり、もらったりする人がある」でも、男性(19.4%)、女性(22.3%)となり、反対に女性の割合が増加している。
- 性・年代別でみると、男女とも、年代が上がるほど「顔を合わせれば、あいさつをする程度の人はいる」が減少する一方、「お互いの家を行き来したりする人がある」が増加する傾向にある。



◆職業別

- 職業別をみると、「顔を合わせれば、あいさつする程度の人はいる」は、正規社員（職員）（64.1%）が最も多く6割を超える一方で、「お互いの家を行き来したりする人がいる」では主婦（主夫）（15.4%）、次いで自営業（13.6%）が多くなっている。



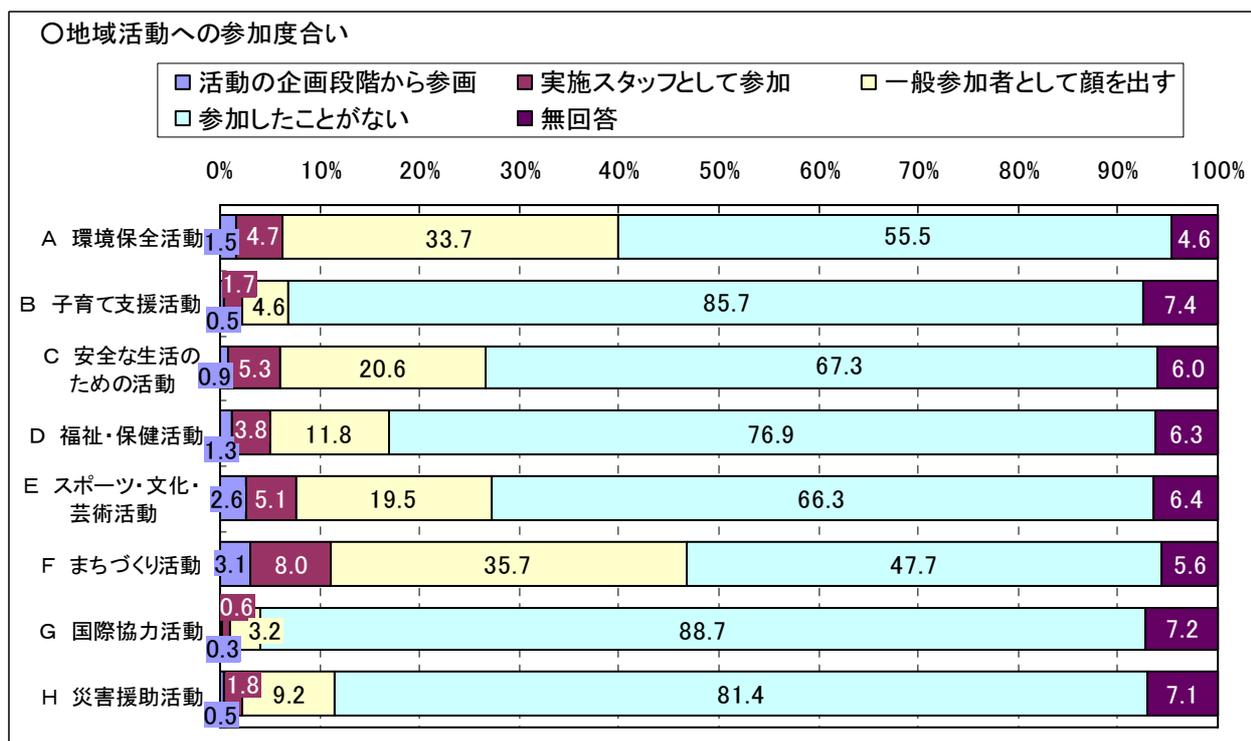
(2) 地域活動への参加度合い

問2 お住まいの地域における活動への参加についてお聞きします。過去おおむね1年間程度の期間において、次のA～Hの活動に参加したことがありますか。参加したことがある場合は、どのような立場で行いましたか。あなたの状況に一番近いものをそれぞれの活動ごとに1つ選んで、番号に○印をつけて下さい。

- A 環境保全活動（自然保護、環境美化、リサイクルなど）
- B 子育て支援活動（子育て相談、託児ボランティアなど）
- C 安全な生活のための活動（防犯、防災、交通安全運動など）
- D 福祉・保健活動（高齢者・障害者の生活支援、健康づくりなど）
- E スポーツ・文化・芸術活動（同好会・サークル活動、伝統文化の継承など）
- F まちづくり活動（地域の行事・イベント、まちおこしなど）
- G 国際協力活動（海外支援、日本にいる外国人の支援など）
- H 災害援助活動（支援物資の送付、災害発生時の救援など）

- 1：活動の企画段階から参画
- 2：実施スタッフとして参加
- 3：一般参加者として顔を出す
- 4：参加したことがない

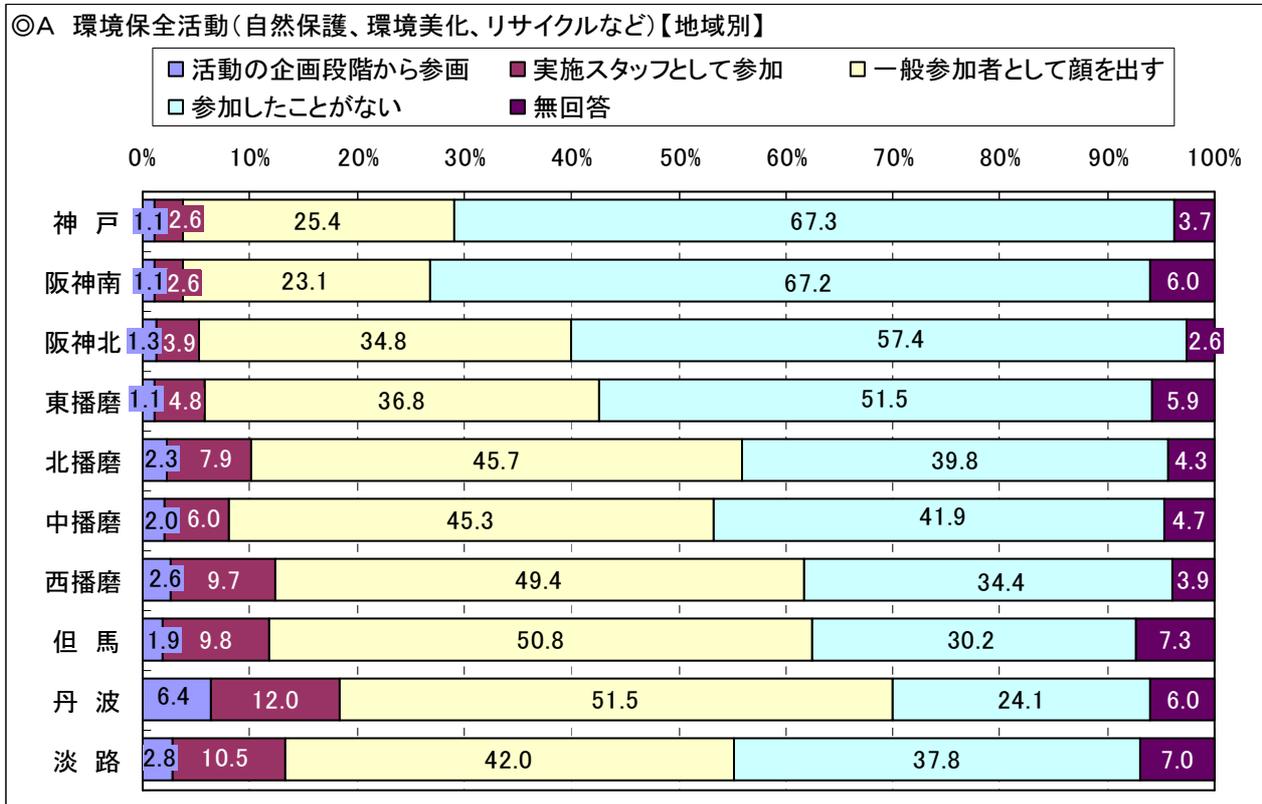
- 活動分野別に見た『活動の企画段階から参画』と『実施スタッフとして参加』は、最も多い「F まちづくり活動」でも、『活動の企画段階から参画』(3.1%)、『実施スタッフとして参加』(8.0%)に止まっている。『活動の企画段階から参画』では「E スポーツ・文化・芸術活動」(2.6%)、「A 環境保全活動」(1.5%)が、また、『実施スタッフとして参加』では、「C 安全な生活のための活動」(5.3%)、「E スポーツ・文化芸術活動」(5.1%)がそれぞれ続いている。
- 『一般参加者として顔を出す』では、「F まちづくり活動」(35.7%)、「A 環境保全活動」(33.7%)で3割を超えている。
- 一方で、『参加したことがない』では、「G 国際協力活動」(88.8%)、「B 子育て支援活動」(85.7%)、「H 災害援助活動」(81.4%)で多く、いずれも8割を上回っている。



◎A 環境保全活動（自然保護、環境美化、リサイクルなど）

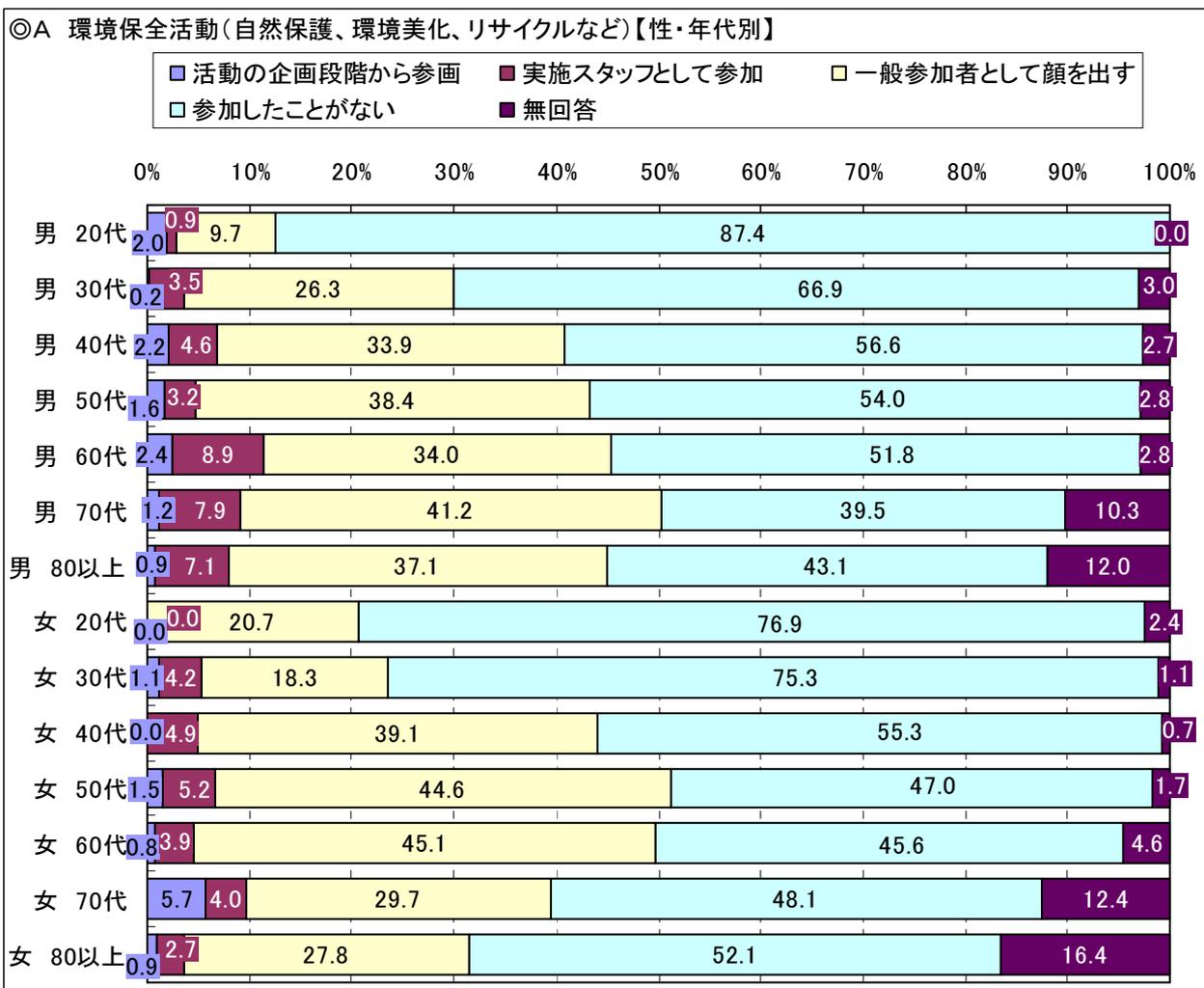
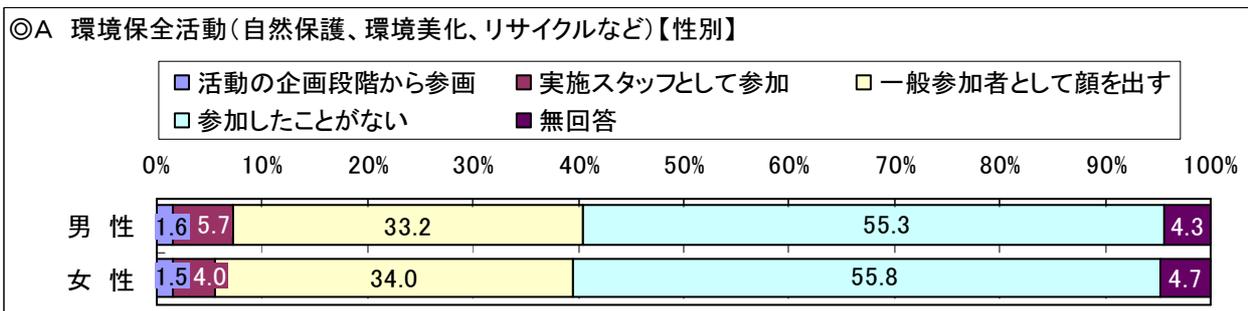
◆地域別

- 「実施スタッフとして参加」で、丹波(12.0%)が1割を超え、淡路(10.5%)、但馬(9.8%)、西播磨(9.7%)と順が続いている。一方で、神戸、阪神南(ともに2.6%)は少なくなっている。
- また、「一般参加者として顔を出す」でも、同じく丹波(51.5%)が5割を超え最も多く、但馬(50.8%)、西播磨(49.4%)と5割前後が続いている。一方で、阪神南(23.1%)、神戸(25.4%)は2割台に止まっている。



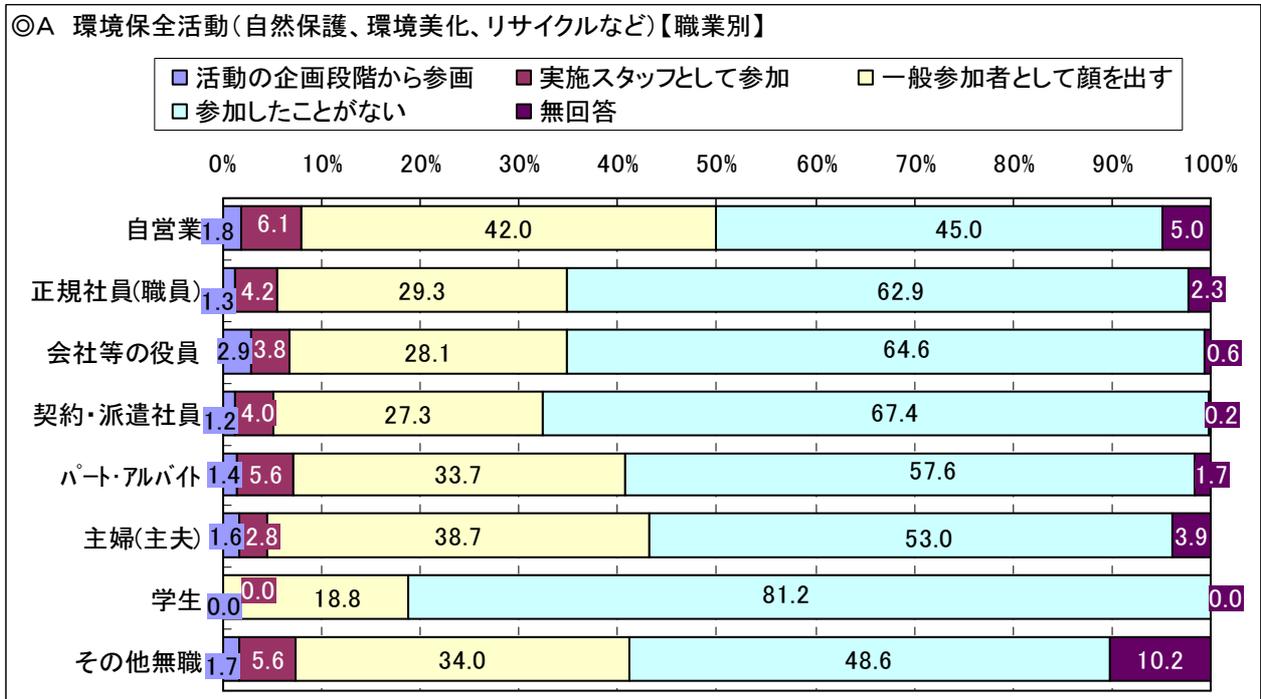
◆性別／性・年代別

- 性別では、特段の差はみられない。
- 性・年代別で見ると、「活動の企画段階から参画」で、男性は60代(2.4%)が最も多く、女性は70代(5.7%)が最も多くなっている。また、「実施スタッフとして参加」では、男性は60代(8.9%)、70代(7.9%)、80歳以上(7.1%)の順で多く、女性では50代(5.2%)、40代(4.9%)、30代(4.2%)の順で多くなっている。
- 「一般参加者として顔を出す」では、男性で70代(41.2%)が最も多く4割を超え、50代(38.4%)、80歳以上(37.1%)と順に続いており、女性では60代(45.1%)が最も多く、50代(44.6%)、40代(39.1%)と順に続いていく。
- 「参加したことがない」では、男女とも20代(男87.4%、女76.9%)が最も多く、30代(男66.9%、女75.3%)でも同様に多くなっている。



◆職業別

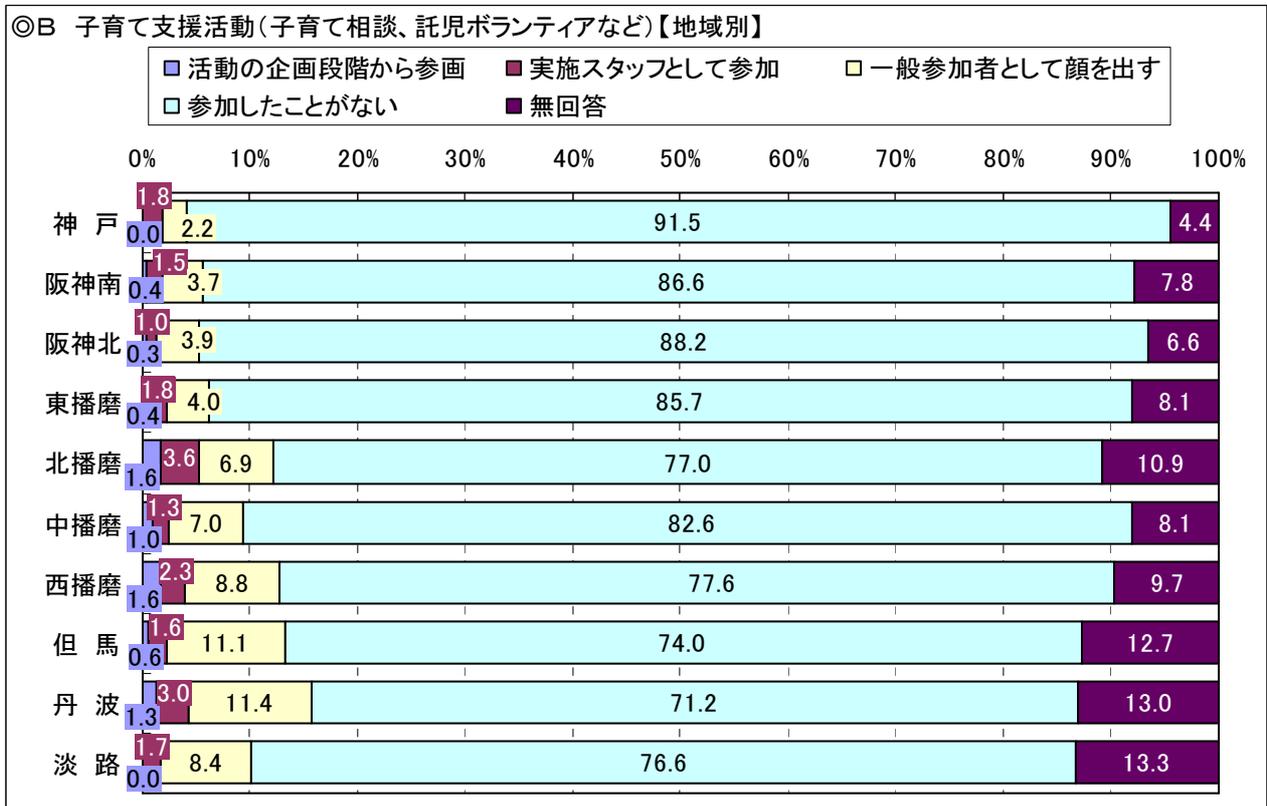
- 職業別では、「一般参加者として顔を出す」で、自営業(42.0%)が最も多く、次いで主婦(主夫)(38.7%)となっており、一方で「参加したことがない」では、学生(81.2%)が8割を超え最も多くなっている。



◎B 子育て支援活動（子育て相談、託児ボランティアなど）

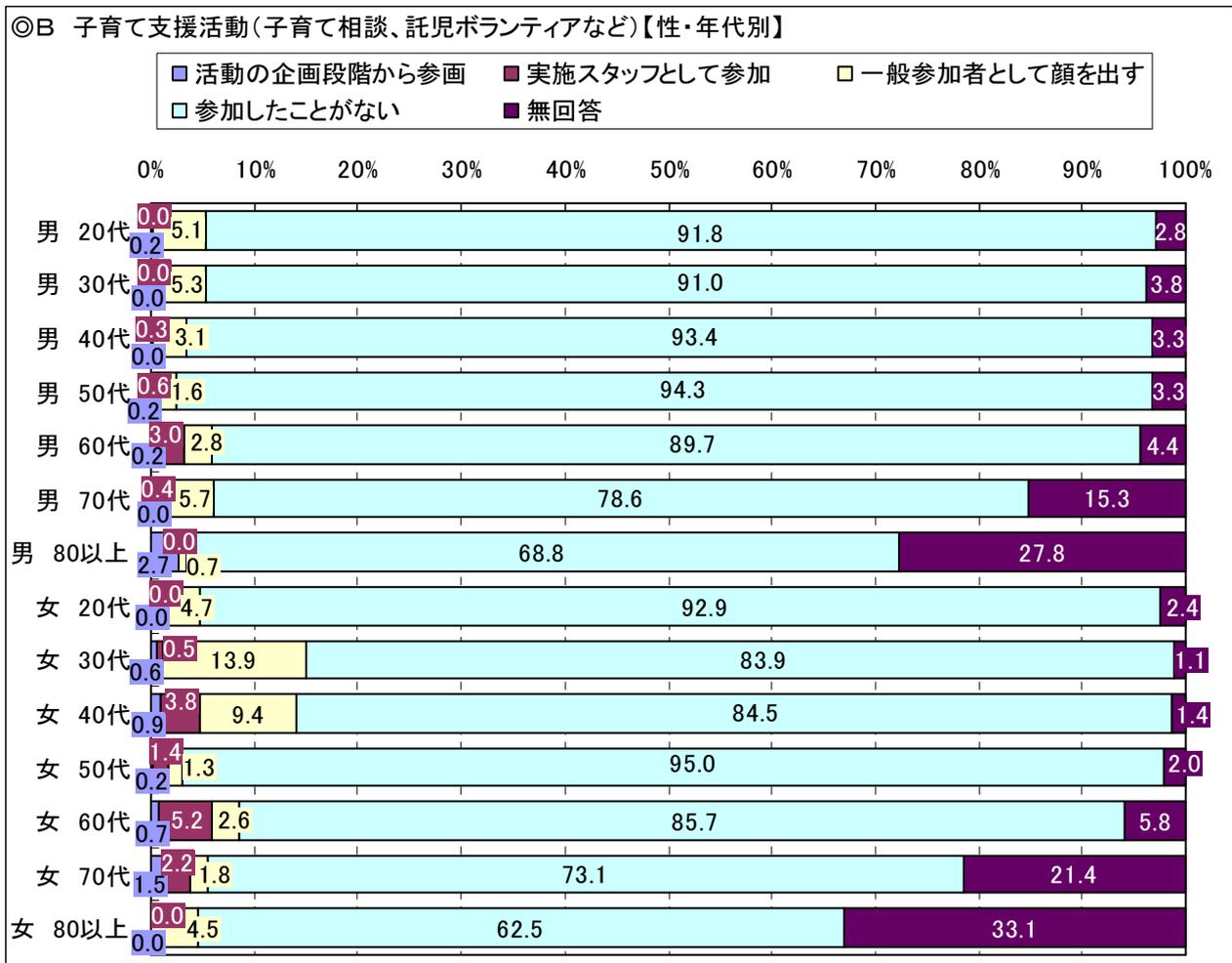
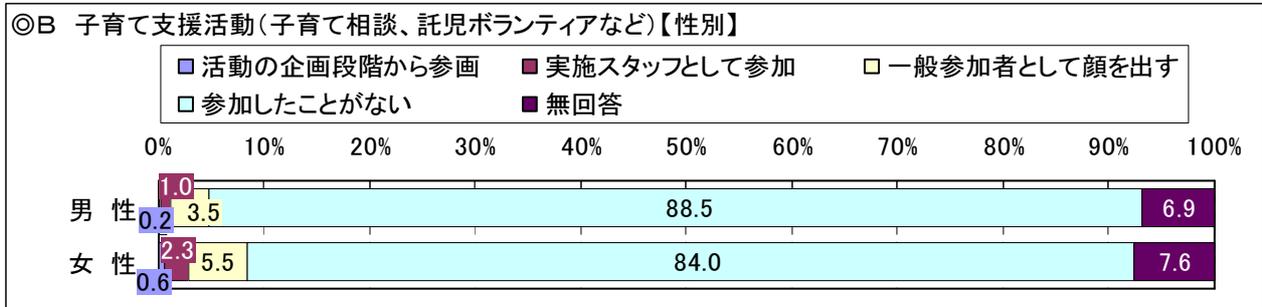
◆地域別

- 「活動の企画段階から参画」、「実施スタッフとして参加」では、いずれの地域も1割に満たず、「一般参加者として顔を出す」でも、最も多いのは丹波(11.4%)で、但馬(11.1%)とともに1割を上回っているが、その他の地域はいずれも1割に満たず、西播磨(8.8%)、淡路(8.4%)の順で続き、最も少ないのは神戸(2.2%)となっている。



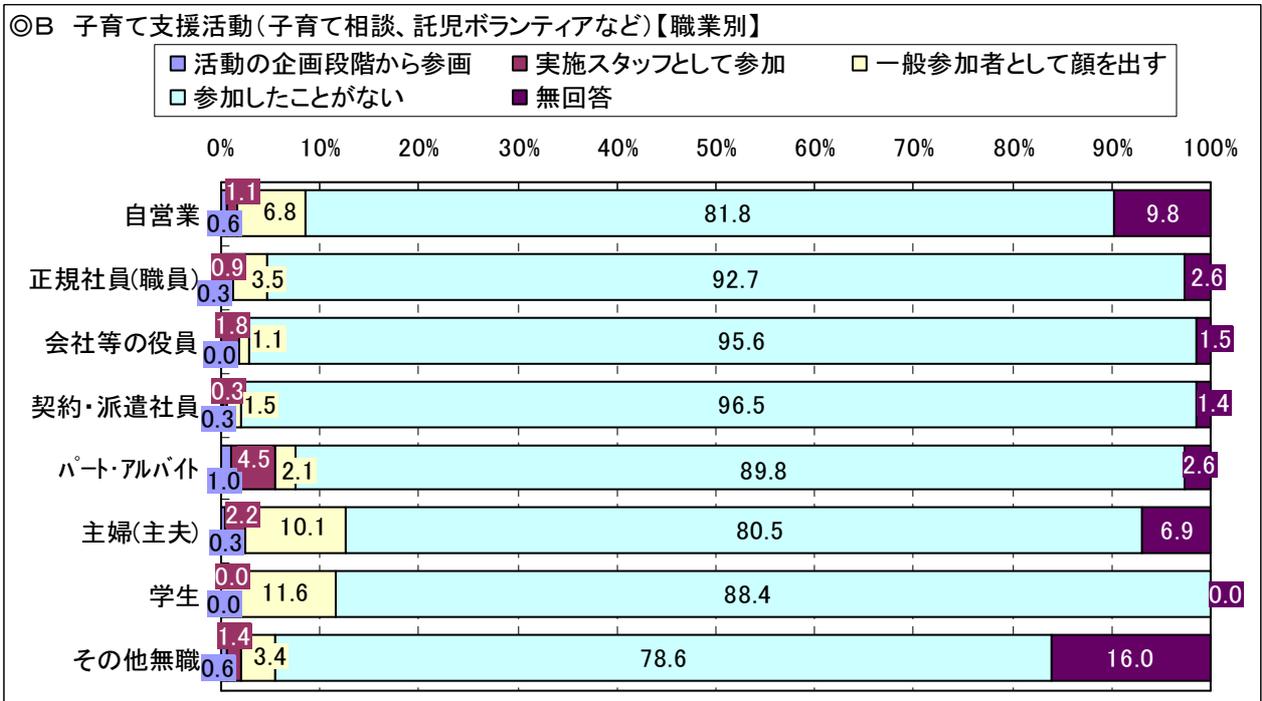
◆性別、性・年代別

- 性別では、大きな差はみられないが、「一般参加者として顔を出す」で、男性(3.5%)より女性(5.5%)が多くなっており、「参加したことがない」では男性(88.5%)が女性(84.0%)より4.5ポイント多くになっている。
- 性・年代別で見ると、「一般参加者として顔を出す」で、女性の30代(13.9%)が1割を超え最も多くなっており、40代(9.4%)も1割弱で続いている。



◆職業別

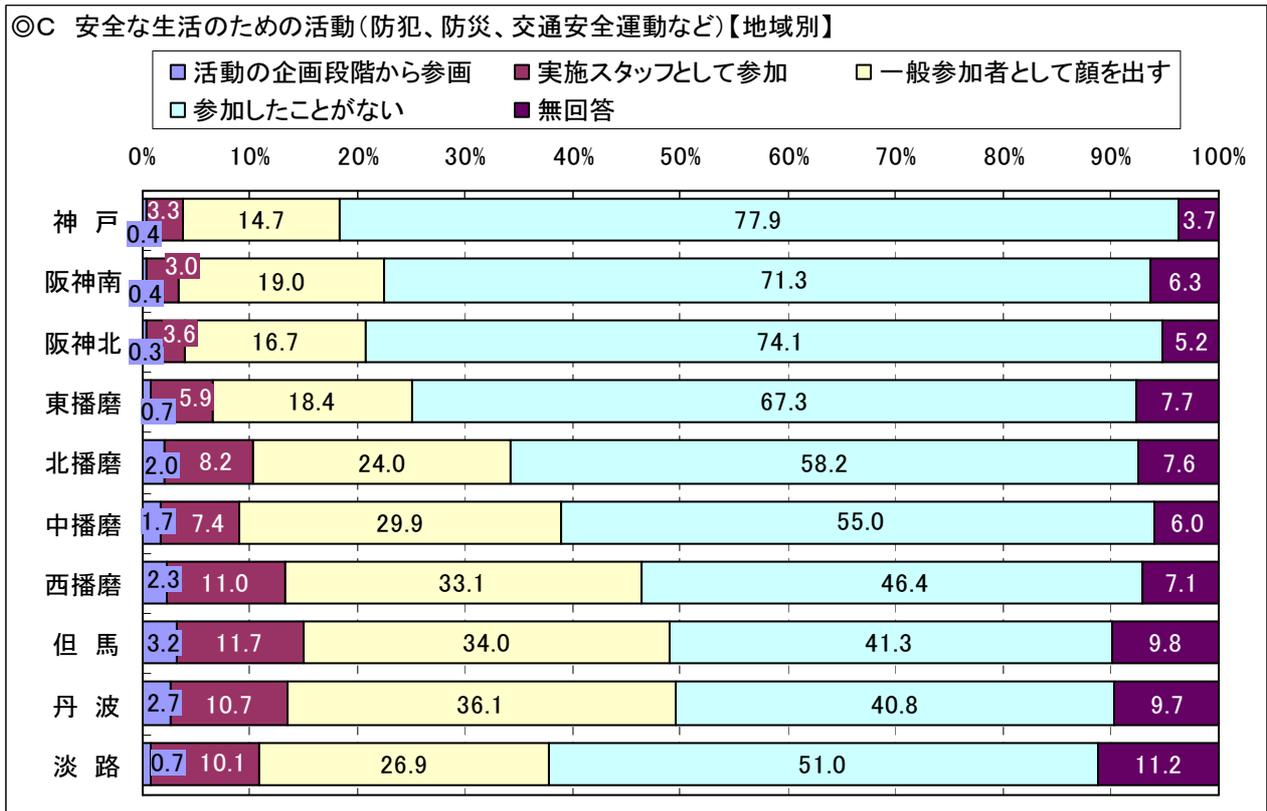
- 「実施スタッフとして参加」で、パート・アルバイト(4.5%)が他の職業に比べ多くなっているほか、「一般参加者として顔を出す」では、学生(11.6%)が最も多く、主婦(主夫)(10.1%)とともに1割を上回っている。



◎C 安全な生活のための活動（防犯、防災、交通安全運動など）

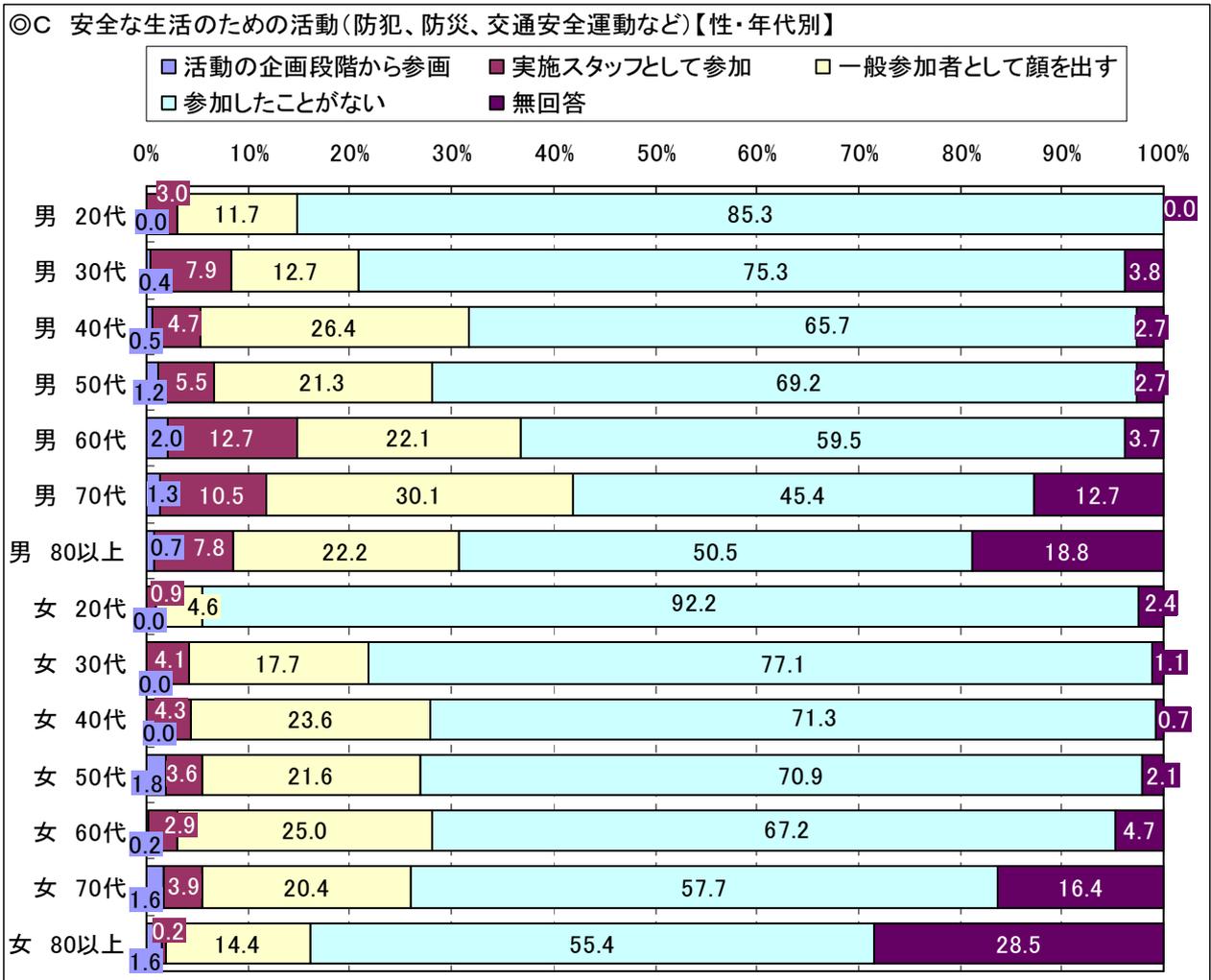
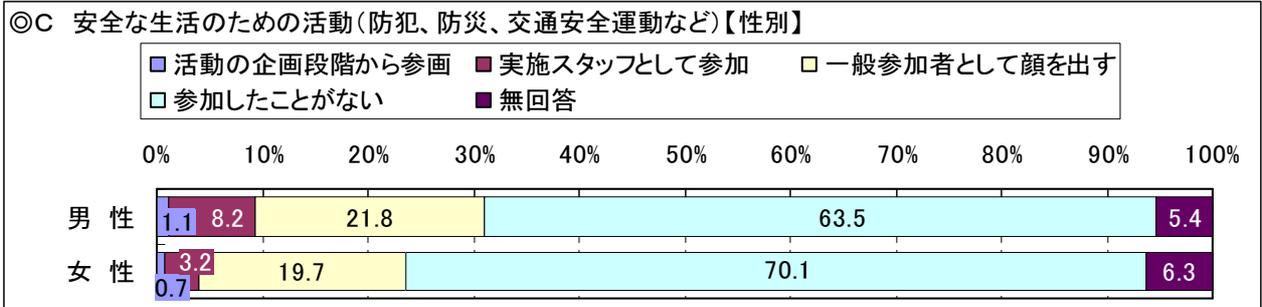
◆地域別

- 「活動の企画段階からの参画」では、但馬(3.2%)が最も多く、丹波(2.7%)、西播磨(2.3%)、北播磨(2.0%)が順に続いており、「実施スタッフとしての参加」でも、但馬(11.7%)、西播磨(11.0%)、丹波(10.7%)、淡路(10.1%)はいずれも1割を上回っている。
- 一方、「参加したことがない」では、神戸(77.9%)、阪神北(74.1%)、阪神南(71.3%)と7割を超え、阪神間がいずれも多くなっている。



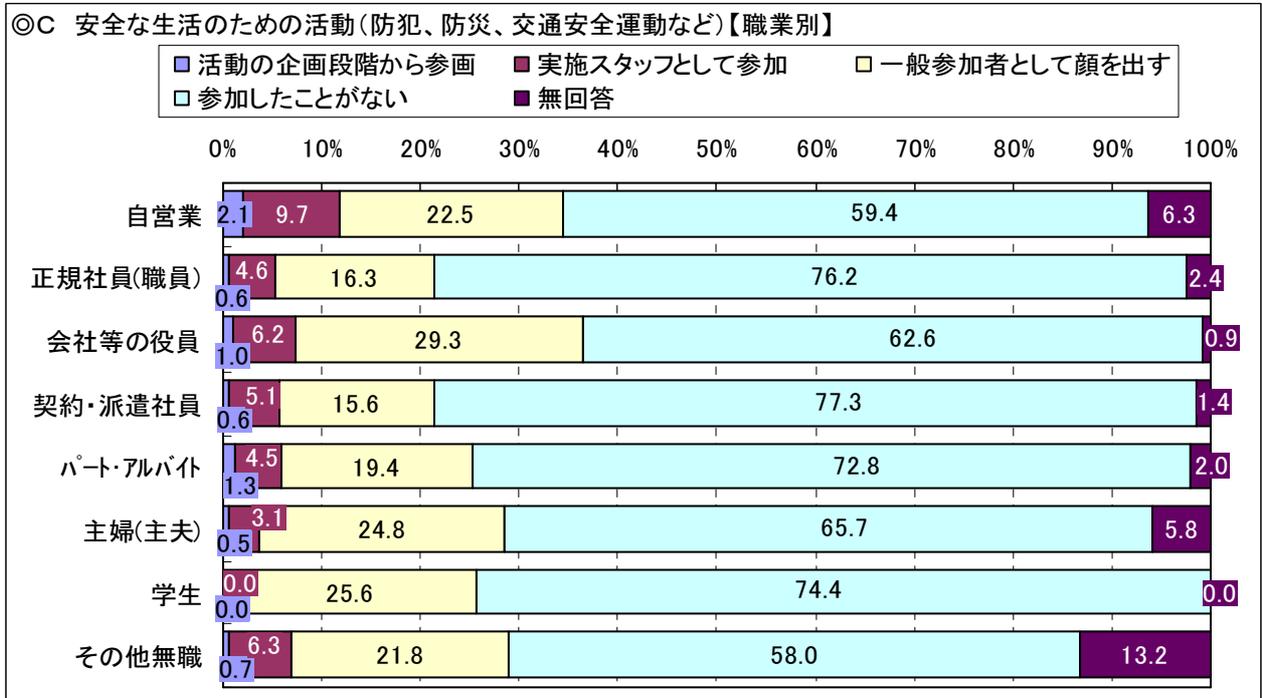
◆性別、性・年代別

- 性別で、大きな差はみられないが、「実施スタッフとして参加」で、男性(8.2%)が女性(3.2%)を5.0ポイント上回っている。
- 性・年代別で見ると、「実施スタッフとして参加」で、男性は60代(12.7%)、70代(10.5%)で1割を超え多くっており、女性は全ての年代で1割に満たない。
- 「参加したことがない」では、男女ともに20代(男85.3%、女92.2%)が他の世代に比べ多くなっているが、特に女性は9割を上回っている。



◆職業別

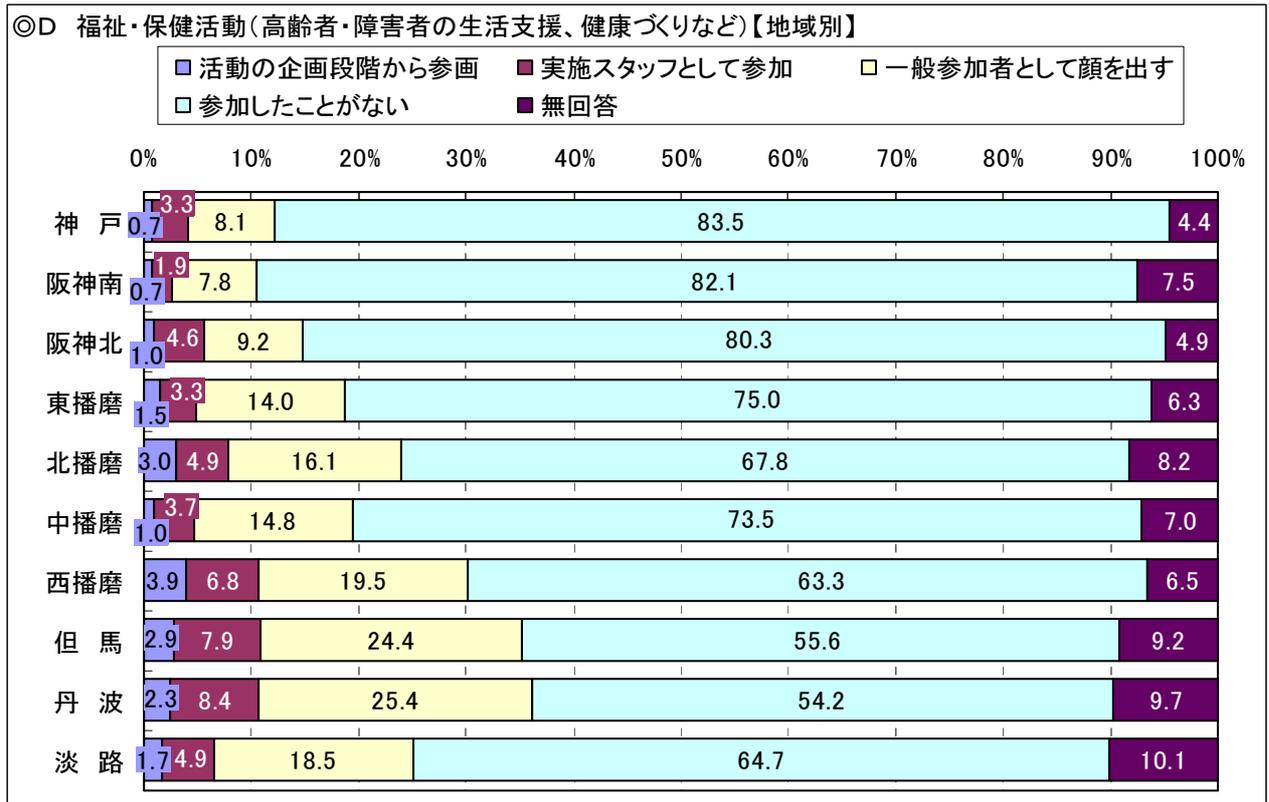
- 「活動の企画段階から参画」、「実施スタッフとして参加」のいずれも自営業(2.1%、9.7%)が最も多くなっており、反対に学生はいずれも該当なしとなっている。
- 「一般参加者として顔を出す」では、会社等の役員(29.3%)で最も多く約3割となっており、次いで学生(25.6%)、主婦(主夫)(24.8%)と続いている。



◎D 福祉・保健活動（高齢者・障害者の生活支援、健康づくりなど）

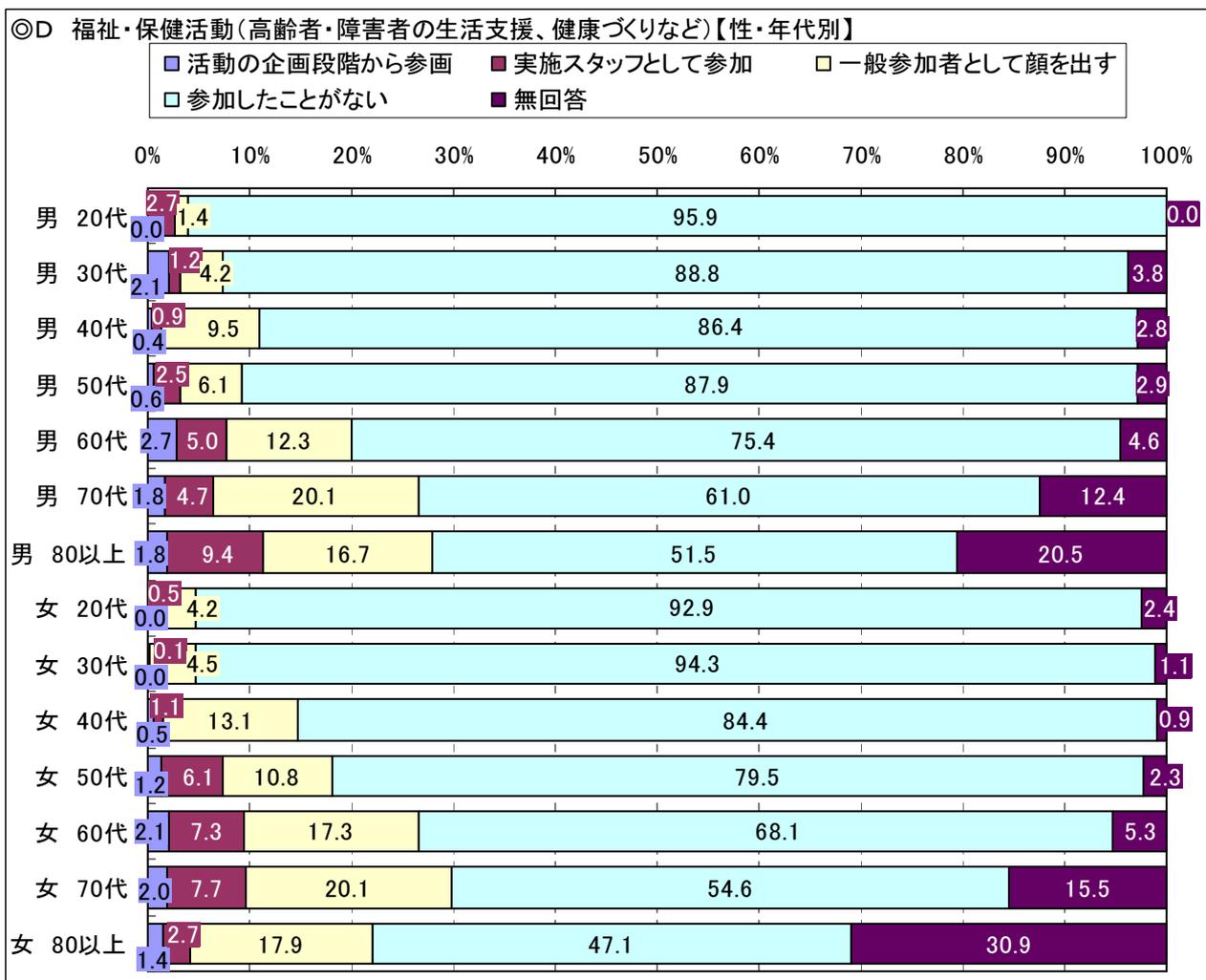
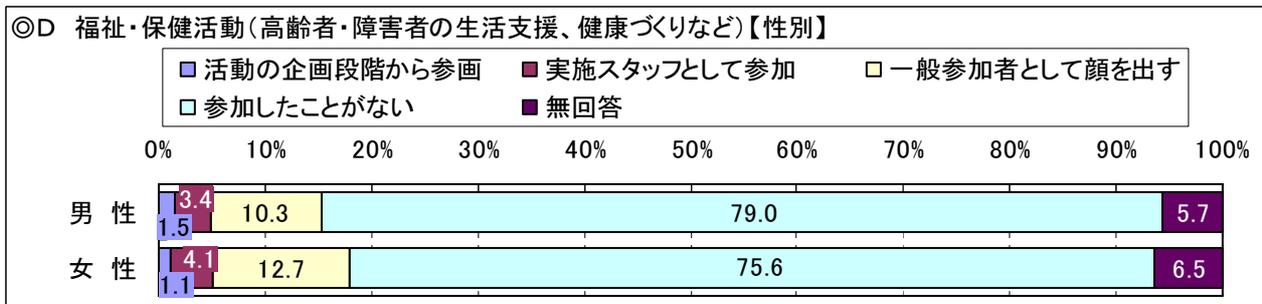
◆地域別

- 「活動の企画段階から参画」をみると、西播磨(3.9%)、北播磨(3.0%)、但馬(2.9%)が、「実施スタッフとして参加」では、丹波(8.4%)、但馬(7.9%)、西播磨(6.8%)が多くなっており、「一般参加者として顔を出す」でも、丹波(25.4%)と但馬(24.4%)は2割台半ばで、他の地域よりも多くなっている。
- 「参加したことがない」では、神戸(83.5%)、阪神南(82.1%)、阪神北(80.3%)といずれも8割を超え阪神間で多くなっている。



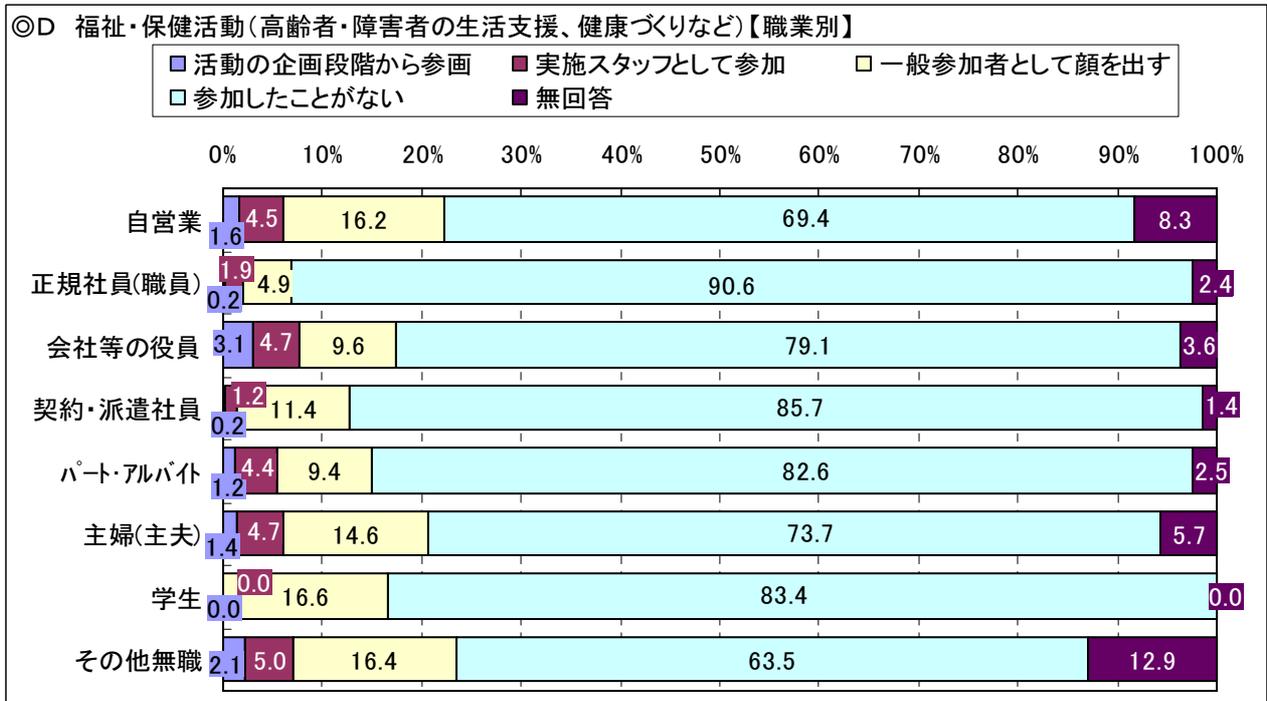
◆性別、性・年代別

- 性別で、特段の差はみられない。
- 性・年代別で見ると、「一般参加者として顔を出す」では、男女ともに70代(男20.1%、女20.1%)が最も多く、次いで80歳以上(男16.7%、女17.9%)、60代(男12.3%、女17.3%)と続いている。
- 「参加したことがない」では、男女ともに50代以下の世代で多くなっており、特に20代(男95.9%、女92.9%)と30代(男88.8%、女94.3%)では9割弱～9割半ばと非常に多くなっている。



◆職業別

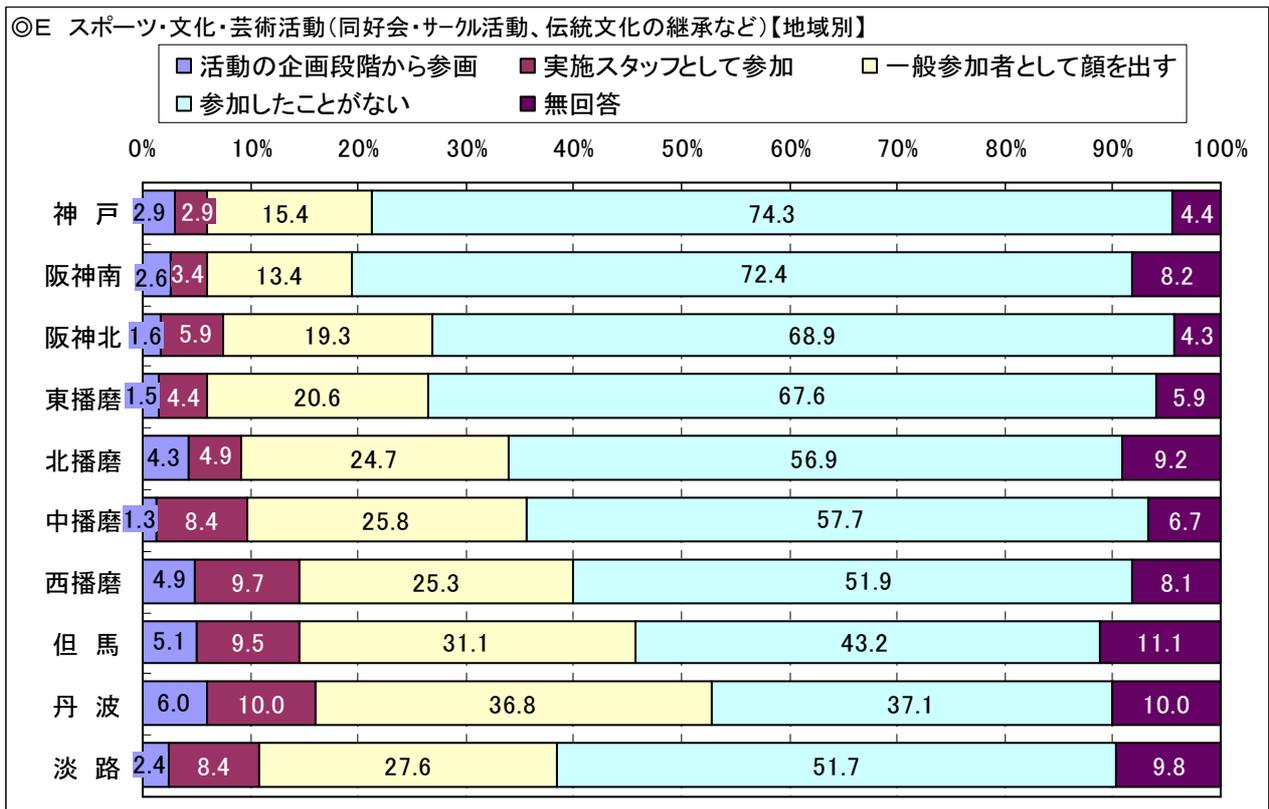
- 「実施スタッフとして参加」では、いずれも1割に満たないものの、その他無職(5.0%)はじめ、会社等の役員、主婦(主夫)(ともに4.7%)、自営業(4.5%)、パート・アルバイト(4.4%)で同様の水準を示しているが、一方で、正規社員(職員)(1.9%)、契約・派遣社員(1.2%)は少なく、学生では該当がない。
- 「一般参加者として顔を出す」では、学生(16.6%)が最も多く、その他無職(16.4%)、自営業(16.2%)の順で続いている。



◎E スポーツ・文化・芸術活動（同好会・サークル活動、伝統文化の継承など）

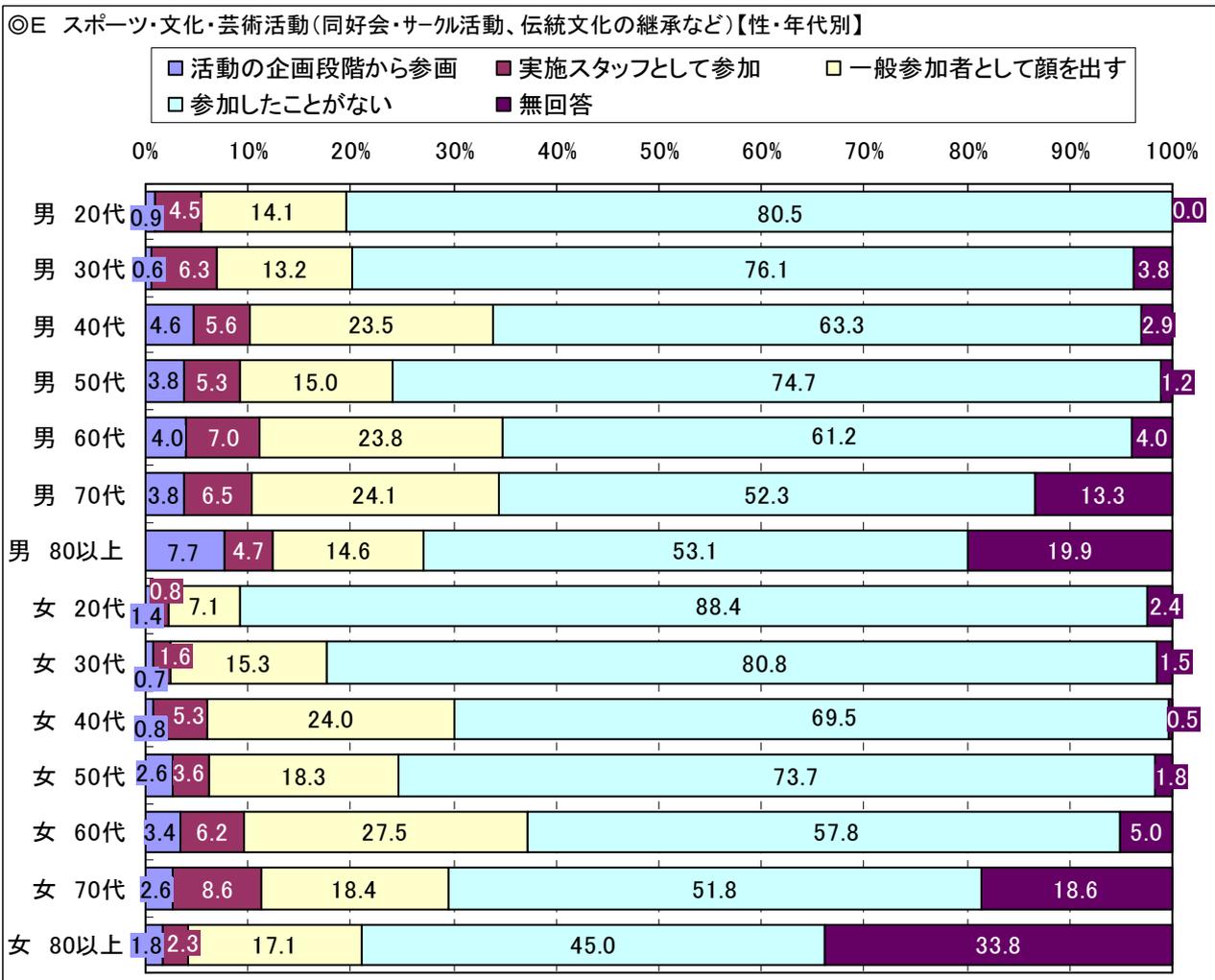
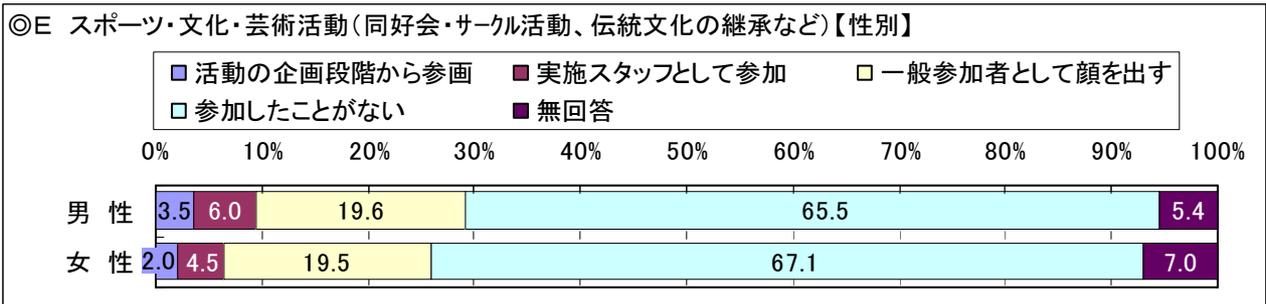
◆地域別

- 「活動の企画段階から参画」をみると、丹波(6.0%)、但馬(5.1%)、西播磨(4.9%)が、「実施スタッフとして参加」では、丹波(10.0%)、西播磨(9.7%)、但馬(9.5%)が多くなっており、「一般参加者として顔を出す」でも、丹波(36.8%)と但馬(31.1%)は3割を上回り、他の地域よりも多くなっている。
- 「参加したことがない」では、神戸(74.3%)、阪神南(72.4%)が7割を超えて多くなっている。



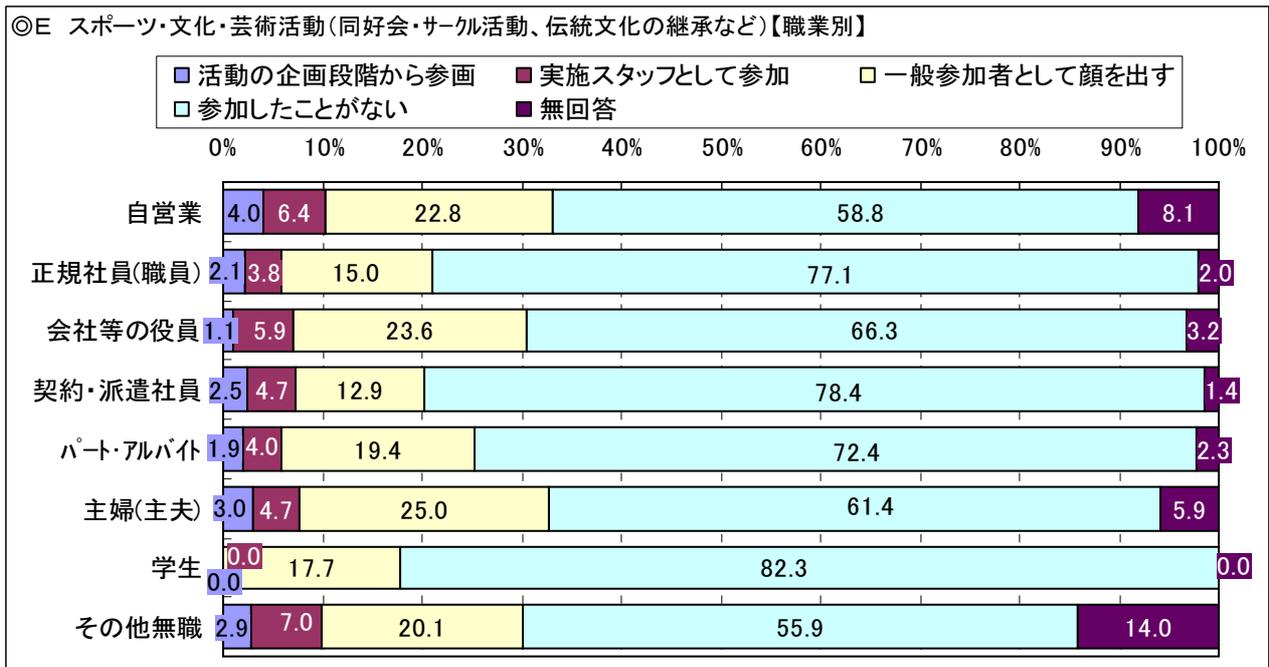
◆性別、性・年代別

- 性別で、特段の差はみられない。
- 性・年代別でみると、「活動の企画段階から参画」では、男性で 80 歳以上(7.7%)が最も多く、40 代(4.6%)が続いており、女性では 60 代(3.4%)が多く、50 代、70 代(ともに 2.6%)が続いている。また「実施スタッフとして参加として参加」でも、男性は 60 代(7.0%)が最も多く、次いで 70 代(6.5%)、女性では 70 代(8.6%)が最も多く、60 代(6.2%)が続いており高い年代で多くなっている。
- 「参加したことがない」では、男女ともに 50 代以下の世代で多く、特に女性の 20 代(88.4%)は 9 割弱になっている。



◆職業別

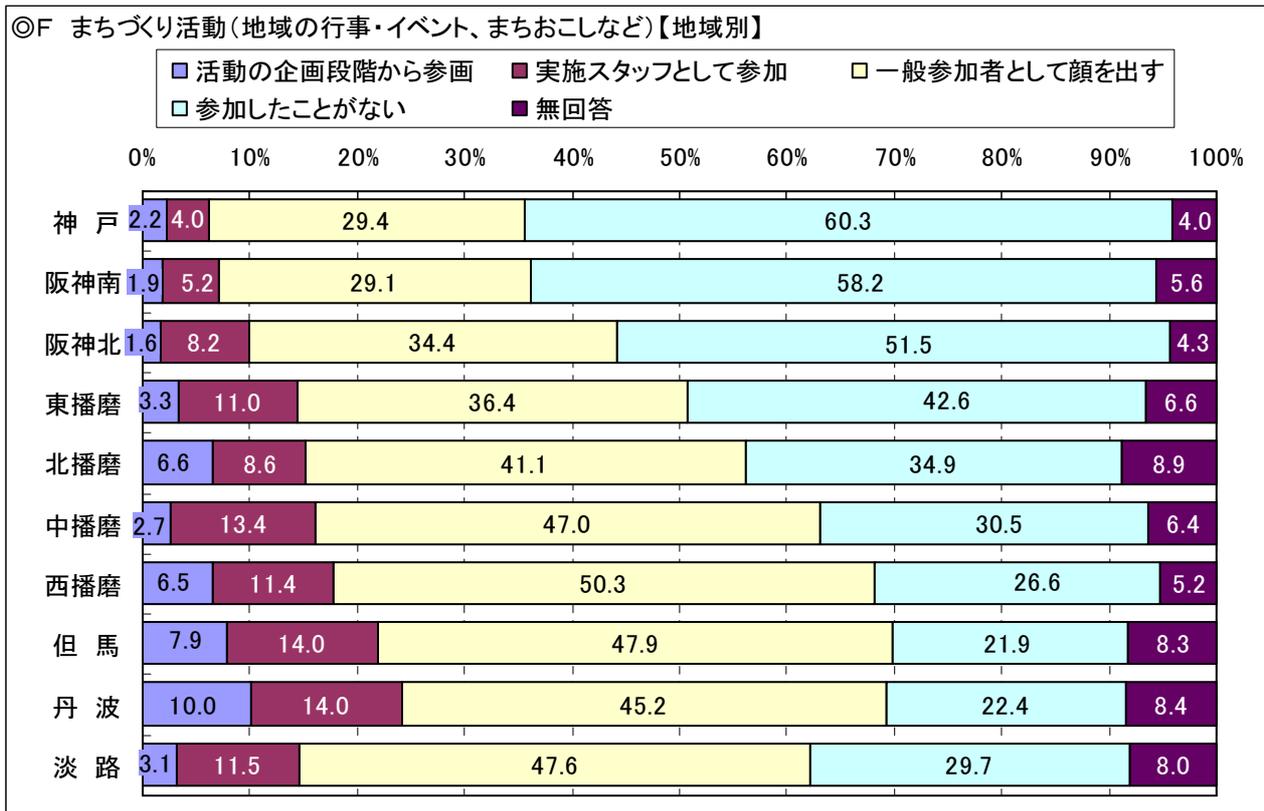
- 「活動の企画段階から参画」では、自営業(4.0%)が他の職業に比べ多く、「実施スタッフとして参加」では、その他無職(7.0%)が最も多くなっている。一方で、学生は「活動の企画段階から参画」、「実施スタッフとして参加」いずれも該当がない。
- 「一般参加者として顔を出す」では、主婦(主夫) (25.0%)が最も多く、次いで会社等の役員(23.6%)、自営業(22.8%)、その他無職(20.1%)が2割台で続いている。一方で、「参加したことがない」では、学生(82.3%)が8割を超え最も多くなっている。



◎F まちづくり活動（地域の行事・イベント、まちおこしなど）

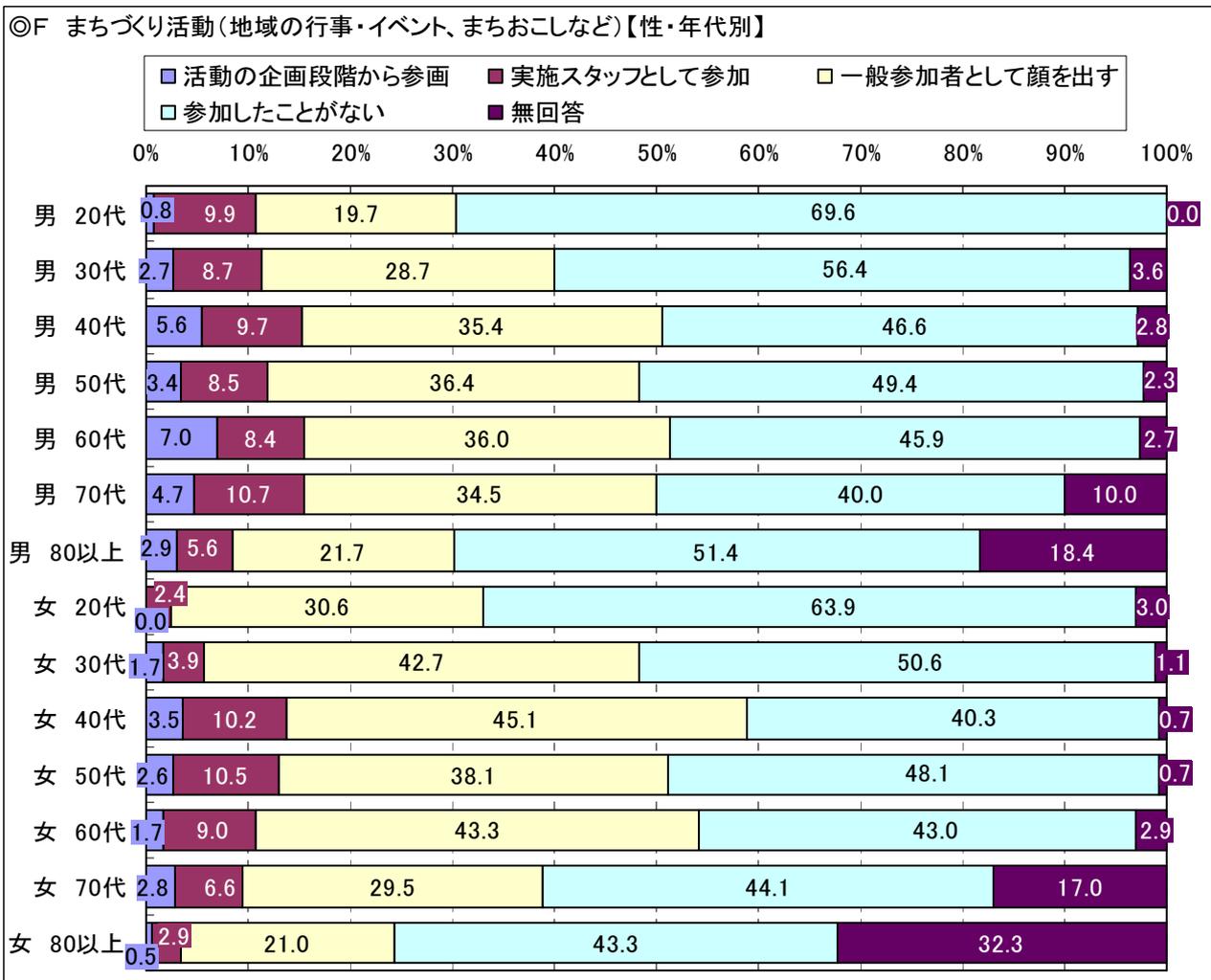
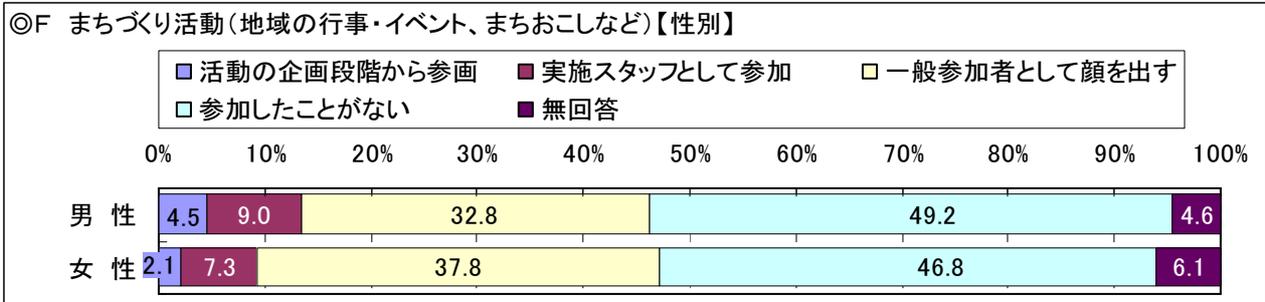
◆地域別

- 「活動の企画段階から参画」をみると、丹波(10.0%)、但馬(7.9%)、北播磨(6.6%)が、「実施スタッフとして参加」では、但馬、丹波(ともに14.0%)、中播磨(13.4%)、淡路(11.5%)が多くなっており、「一般参加者として顔を出す」では、西播磨(50.3%)が5割を上回るほか、但馬(47.9%)、淡路(47.6%)、中播磨(47.0%)が4割台後半で続く
- 「参加したことがない」では、神戸(60.3%)、阪神南(58.2%)が6割前後と多くなっている。



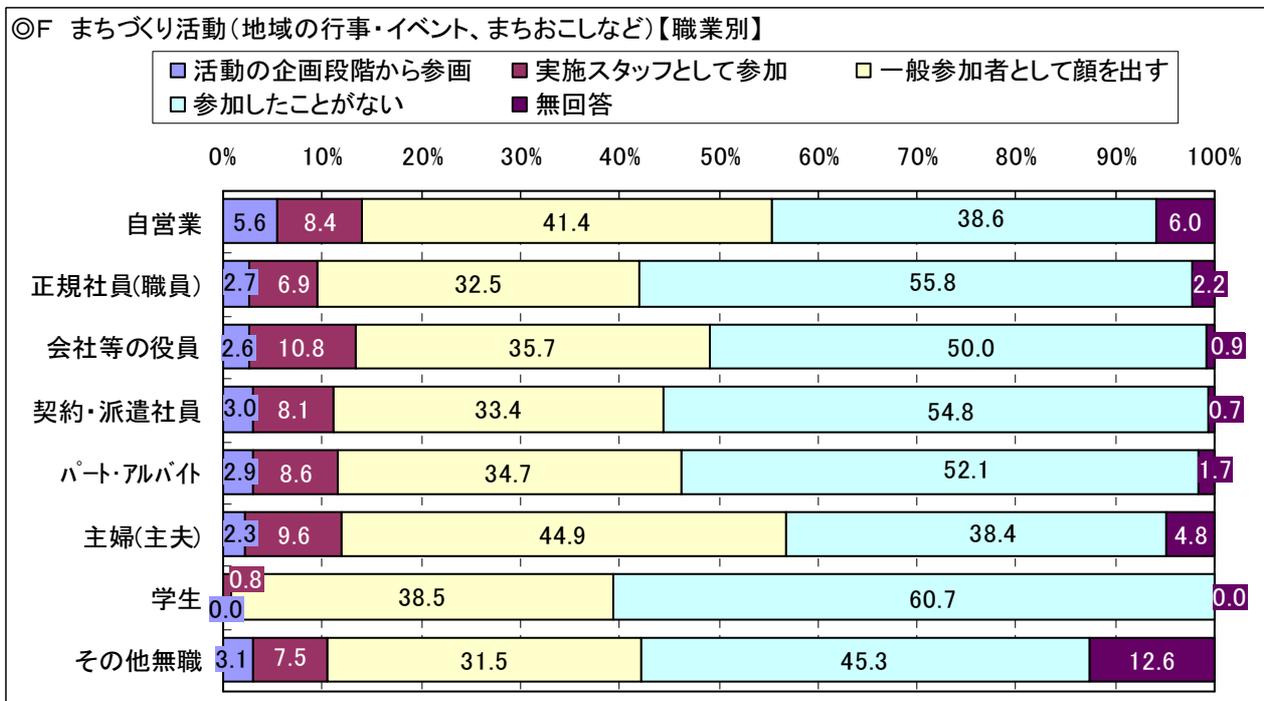
◆性別、性・年代別

- 性別で、特段の差はみられない。
- 性・年代別をみると、「実施スタッフとして参加」で、男性では 80 歳以上(5.6%)を除き、他の年代で概ね 1 割前後となっているが、女性では 20 代(2.4%)と 30 代(3.9%)で男性の同世代よりも少なくなっている。



◆職業別

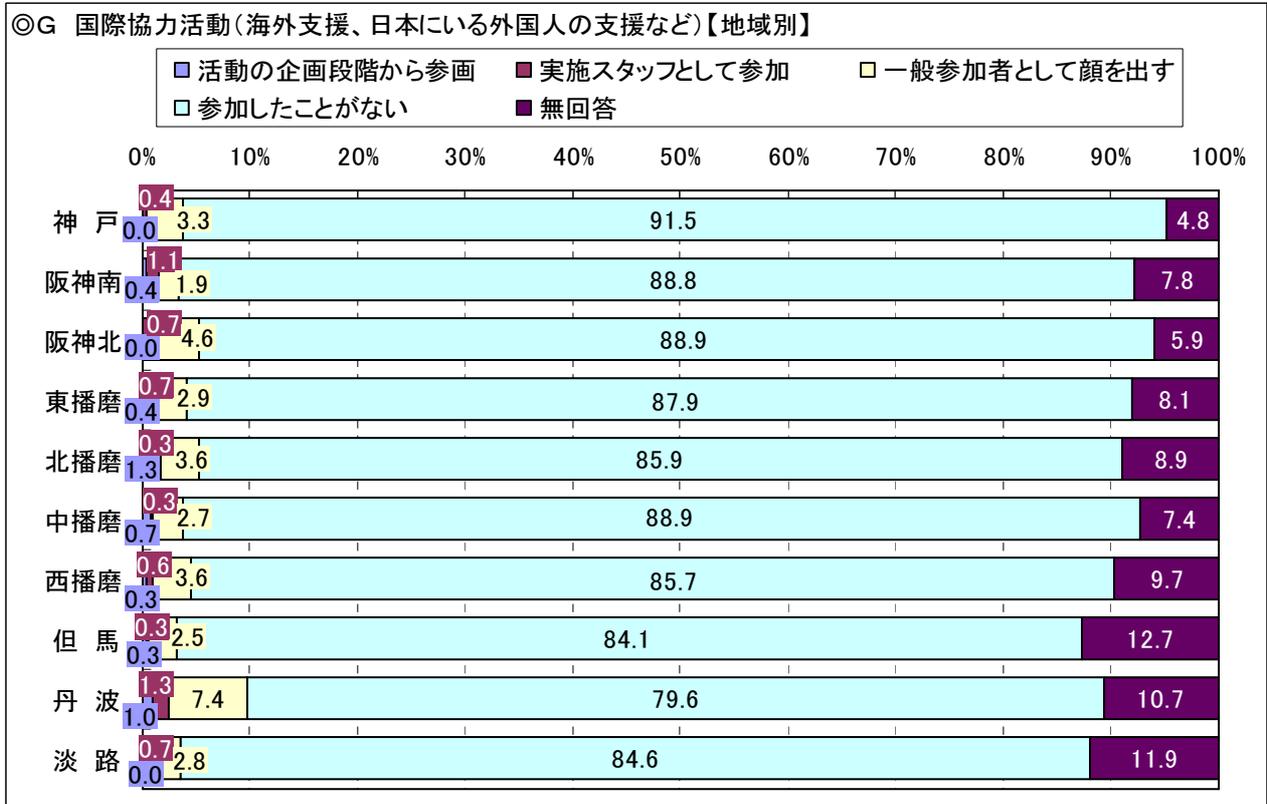
- 「活動の企画段階から参画」で、自営業(5.6%)が最も多くなっており、一方で学生では該当がない。また、「実施スタッフとして参加」では、会社等の役員(10.8%)が1割を超え、主婦(主夫)(9.6%)、パート・アルバイト(8.6%)と続いている。
- 「参加したことがない」では、学生(60.7%)が最も多く6割を上回っている。



◎G 国際協力活動（海外支援、日本にいる外国人の支援など）

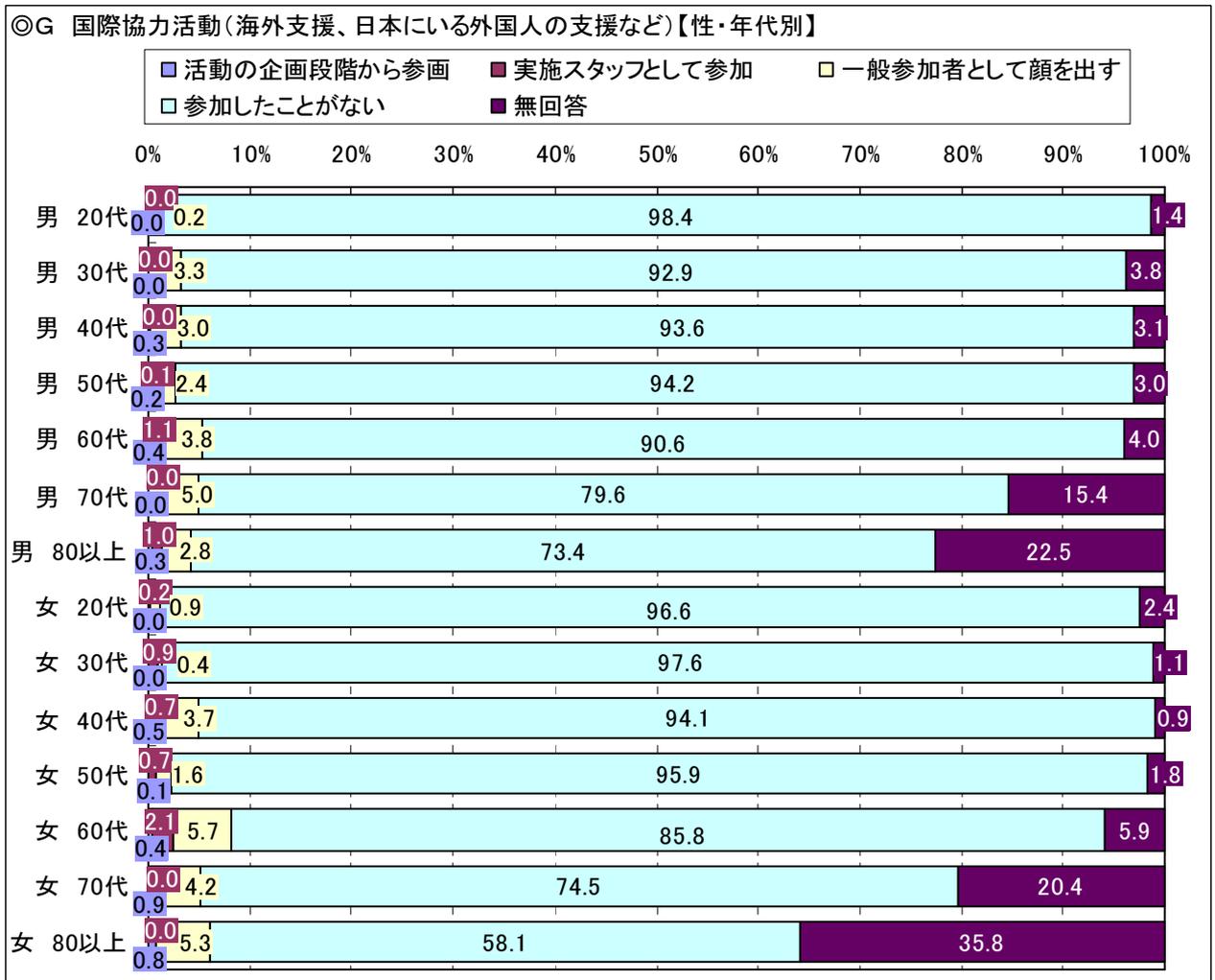
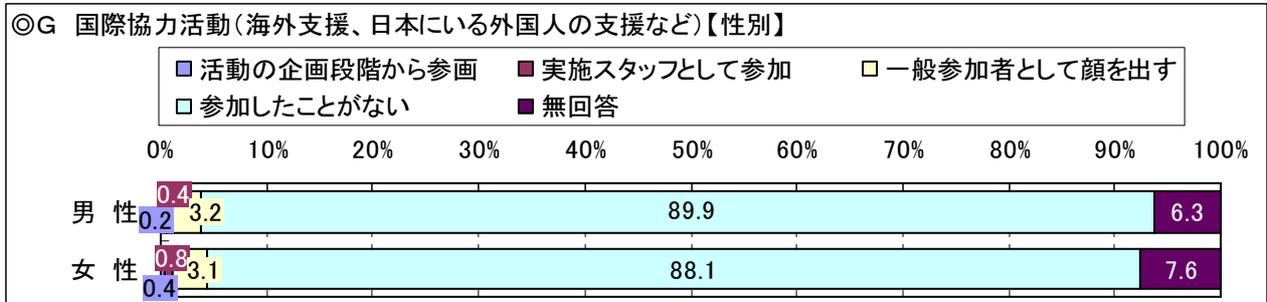
◆地域別

- 「一般参加者として顔を出す」で、丹波(7.4%)が多くなっているものの、「参加したことがない」では、丹波を除く9地域で8割台半ば～9割となっている。



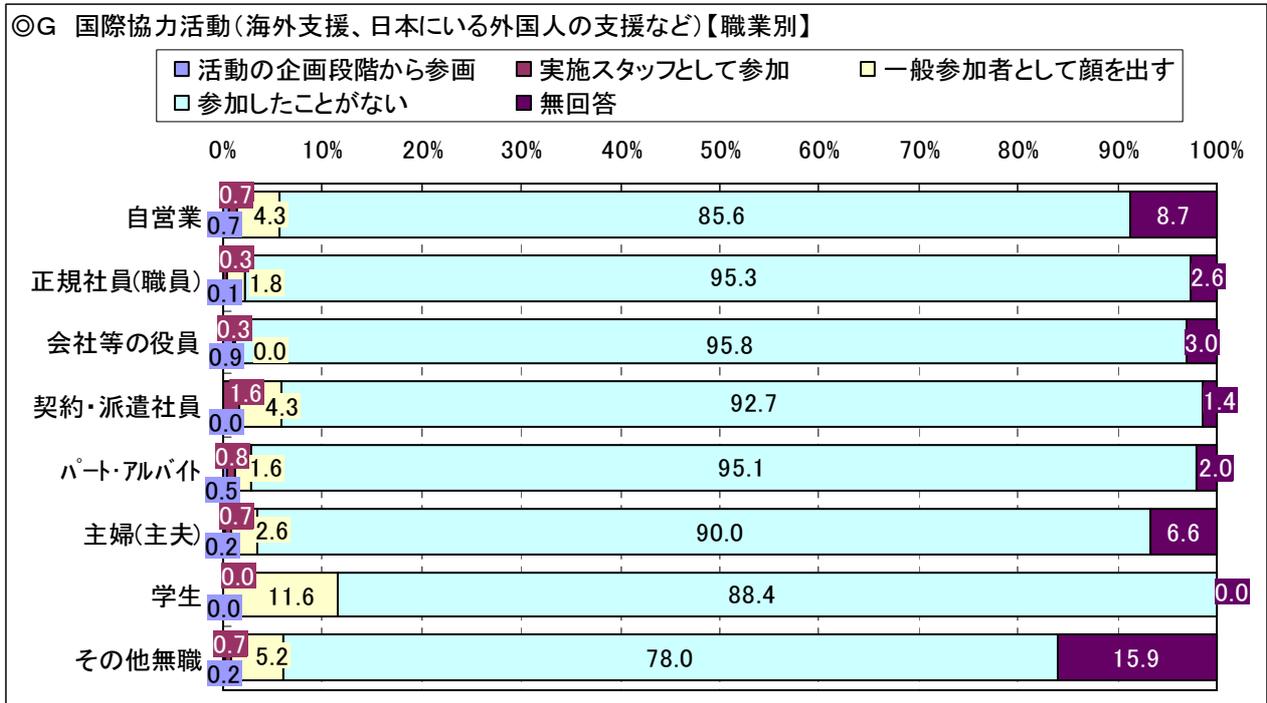
◆性別、性・年代別

- 性別では、特段の差はみられず、男女とも「参加したことがない」(男 89.9%、女 88.1%)が9割近くになっている。
- 性・年代別でも同様に、無回答を除けば、男女各年代ともに「参加したことがない」が非常に多くなっている。



◆職業別

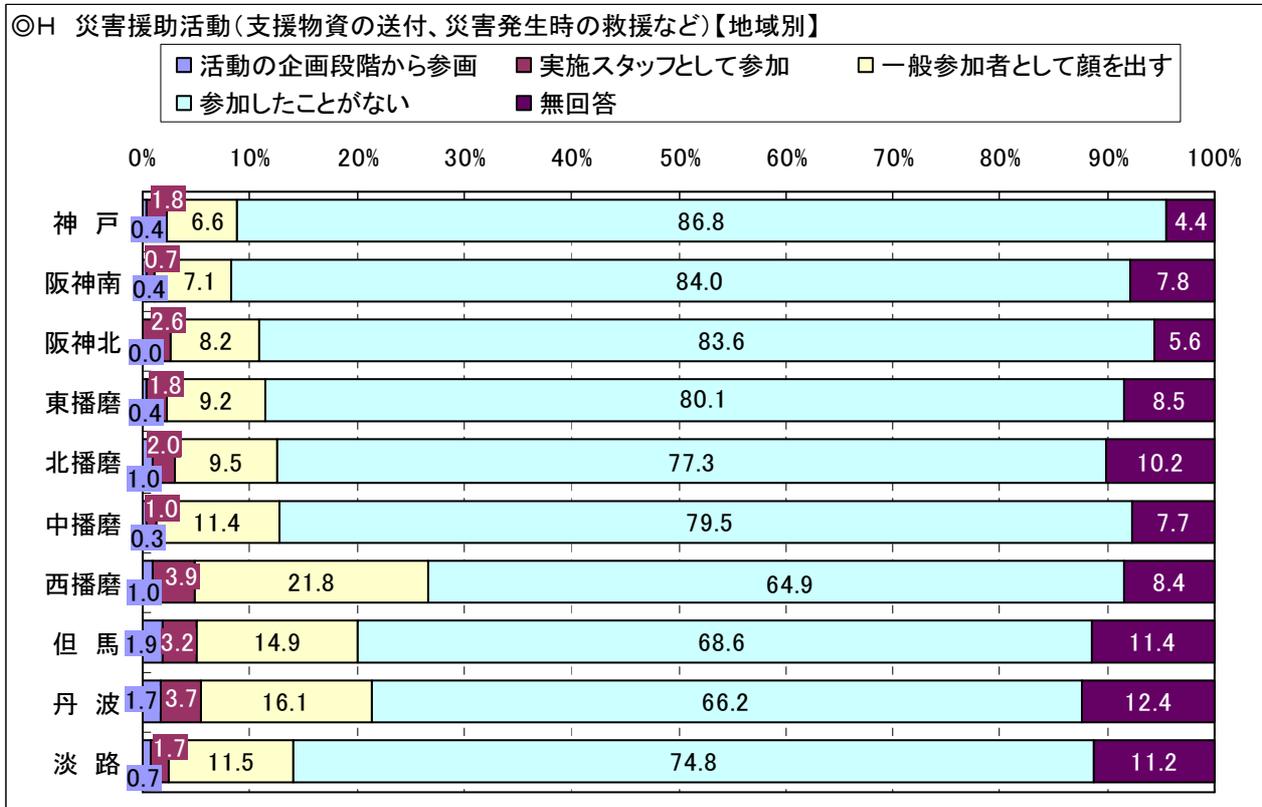
- 「一般参加者として顔を出す」で、学生(11.6%)が1割を超えているものの、他の職業はいずれも「参加したことがない」が8～9割台半ばとなっている。



◎H 災害援助活動（支援物資の送付、災害発生時の救援など）

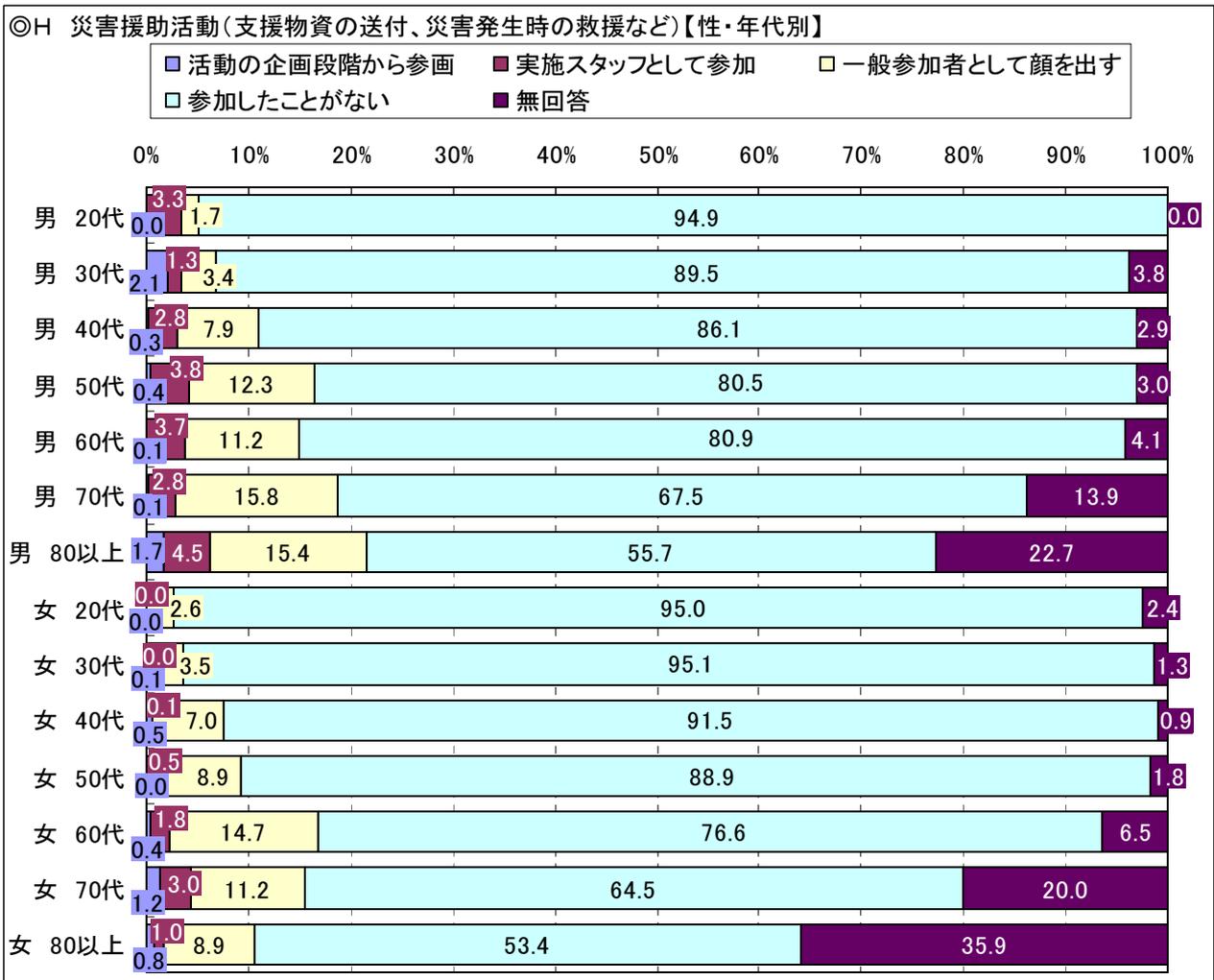
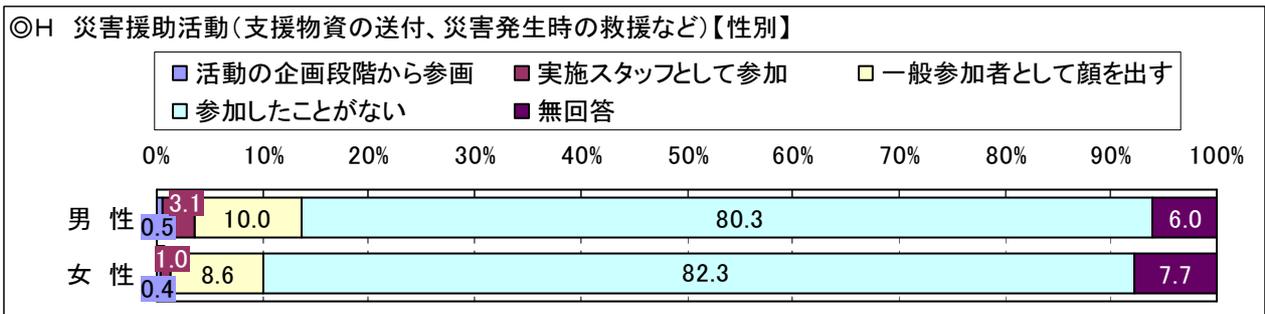
◆地域別

- 「実施スタッフとして参加」をみると、西播磨(3.9%)、丹波(3.7%)、但馬(3.2%)で多く、「一般参加者として顔を出す」では、西播磨(21.8%)が2割を超え、丹波(16.1%)、但馬(14.9%)が1割台半ばで続いている。



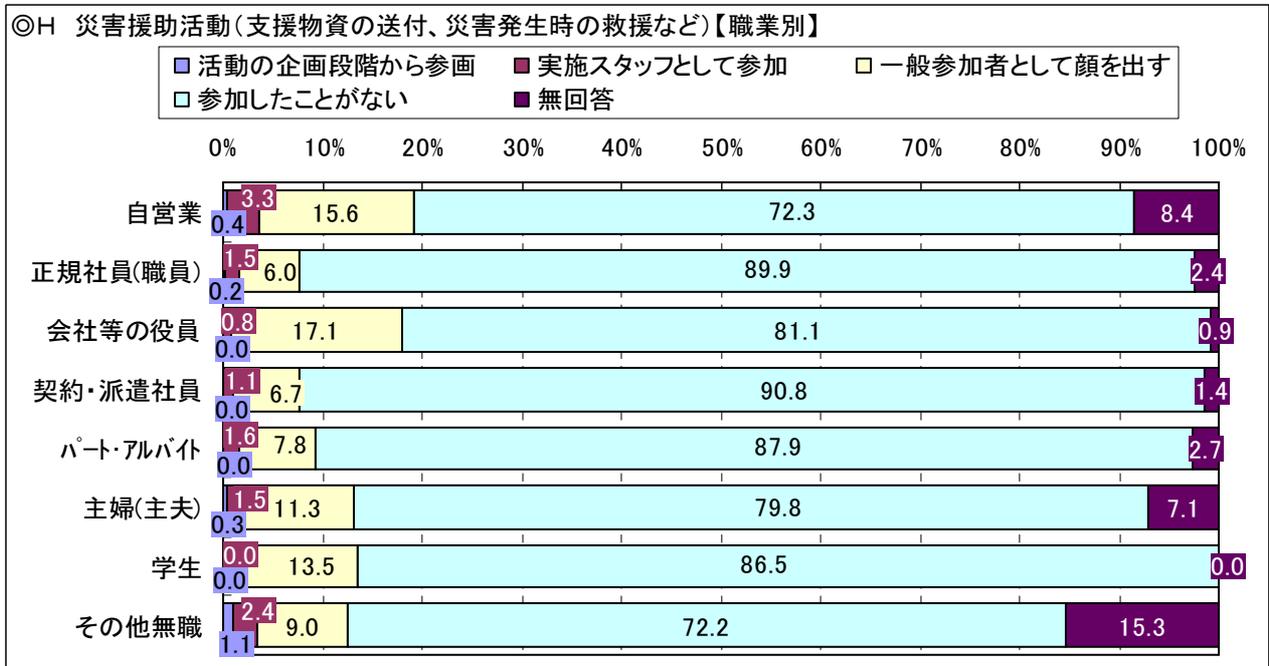
◆性別、性・年代別

- 性別では、特段の差はみられない。
- 性・年代別でみると、「実施スタッフとして参加」で、男性は 80 歳以上(4.5%)が最も多く、50 代(3.8%)、60 代(3.7%)と続いている一方、女性では 70 代(3.0%)で多くなっているものの、他の年代では非常に少なくなっている。
- 「参加したことがない」でみると、男性は 20 代(94.9%)が最も多く、60 代以上で 8 割を上回っており、女性は 30 代(95.1%)、20 代(95.0%)が多く、40 代以下で 9 割を上回っている。



◆職業別

- 「実施スタッフとして参加」では、自営業(3.3%)が最も多く、次いでその他無職(2.4%)となっている。また、「一般参加者として顔を出す」では、会社等の役員(17.1%)が最も多く、自営業(15.6%)、学生(13.5%)、主婦(主夫)(11.3%)が1割を超えている。

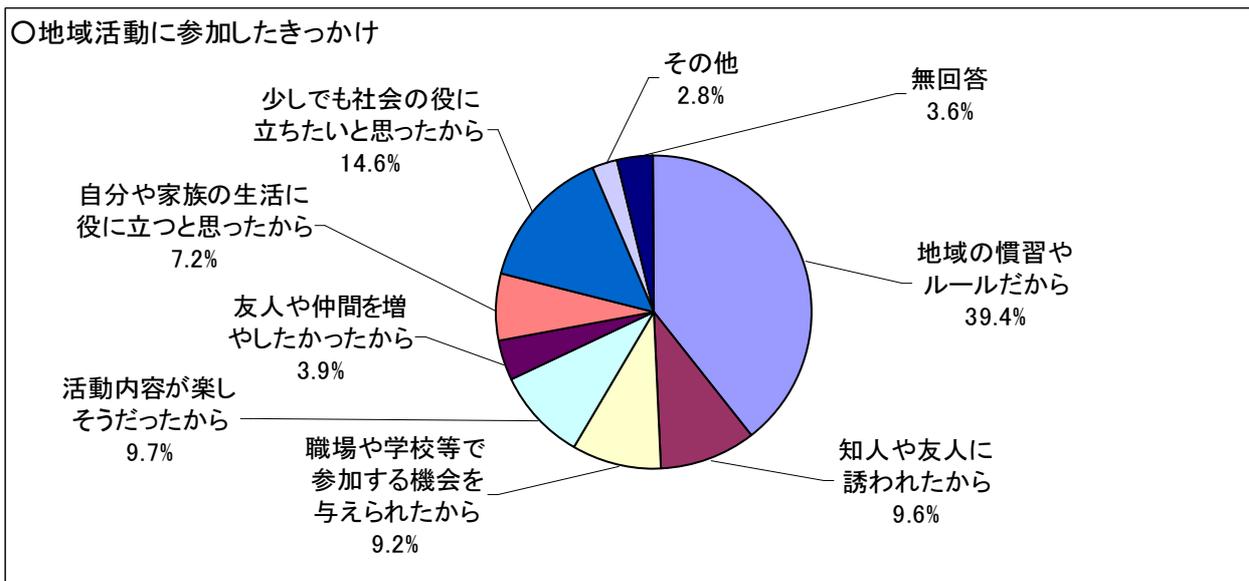


(3) 地域活動に参加したきっかけ

問3 問2で、A～Hの活動のいずれかで、1から3に○印をつけた方にお伺いします。その活動に参加したきっかけとしてあなたの考えに一番近いものを次の中から1つ選んで番号に○印をつけて下さい。なお、参加した活動が複数ある場合は、最も活動回数の多いものについてお答え下さい。

- 1 地域の慣習やルールだから
- 2 知人や友人に誘われたから
- 3 職場や学校等で参加する機会を与えられたから
- 4 活動内容が楽しそうだったから
- 5 友人や仲間を増やしたかったから
- 6 自分や家族の生活に役に立つと思ったから
- 7 少しでも社会の役に立ちたいと思ったから
- 8 その他（具体的に ）

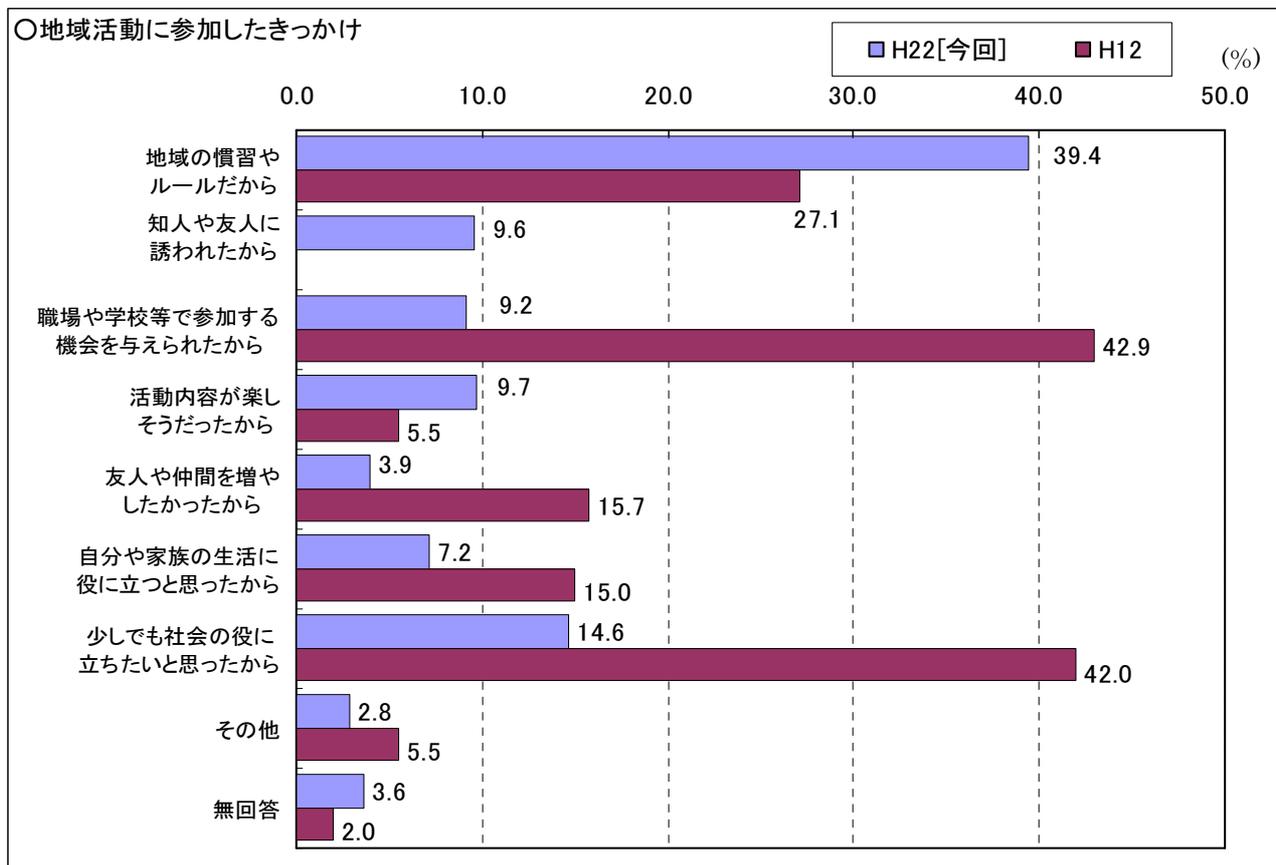
○ 地域活動に参加したきっかけは、「地域の慣習やルールだから」(39.4%)が最も多く約4割となっており、「少しでも社会の役に立ちたいと思ったから」(14.6%)、「活動内容が楽しそうだったから」(9.7%)、「知人や友人に誘われたから」(9.6%)、「職場や学校等で参加する機会を与えられたから」(9.2%)が1割前後で順に続いているが、「友人や仲間を増やしたかったから」(3.9%)は最も少なくなっている。



【参考：平成12年実施調査との比較】

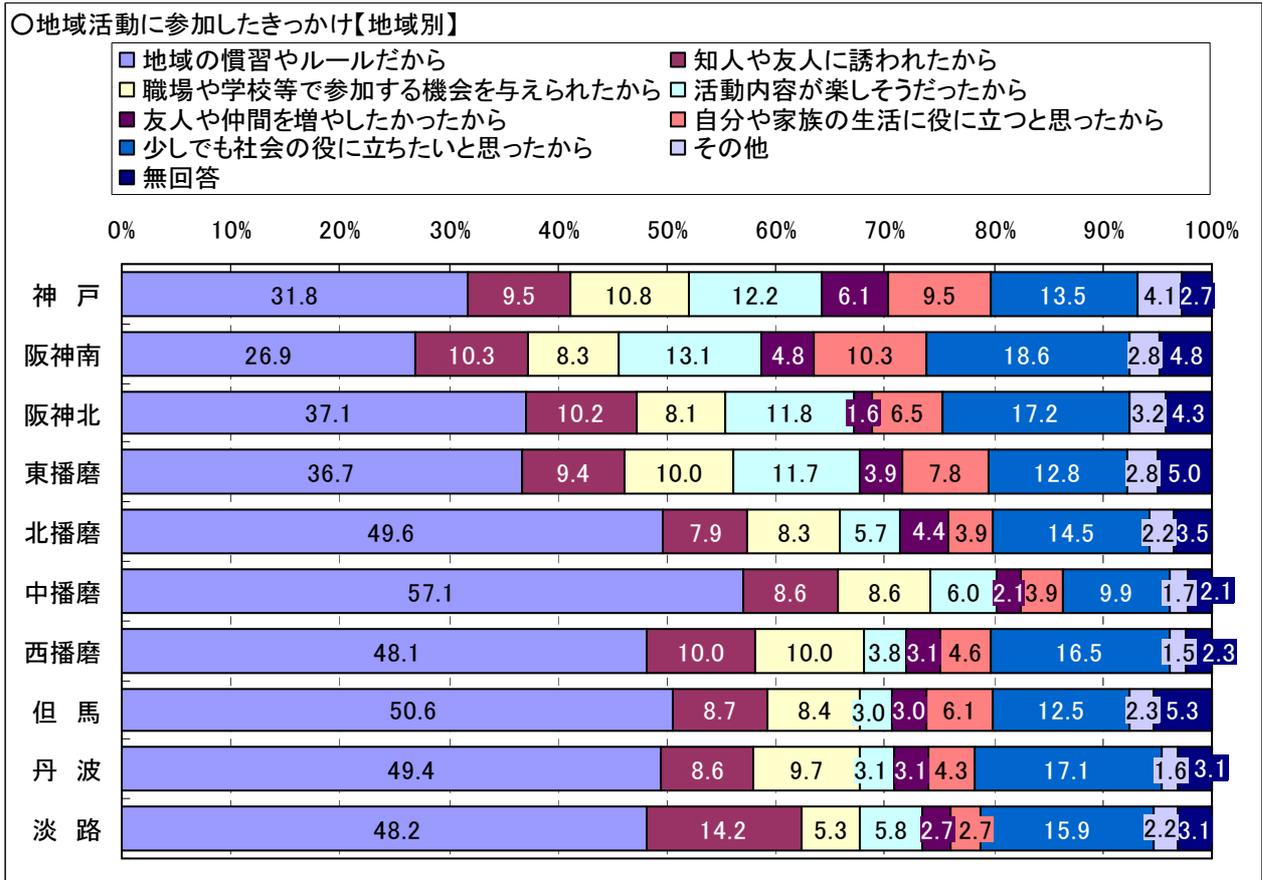
- 設問の内容や数が異なるため、正確な比較はできないが、参考までに本県が平成12年に実施した県民意識調査の結果と比較すると、今回は「職場や学校等で参加する機会を与えられたから」(42.9%)が最も多かったのに対し、今回は、「地域の慣習やルールだから」(39.4%)が最も多く約4割となっている。

※平成12年の調査では「知人や友人に誘われたから」の選択肢は設定していない。



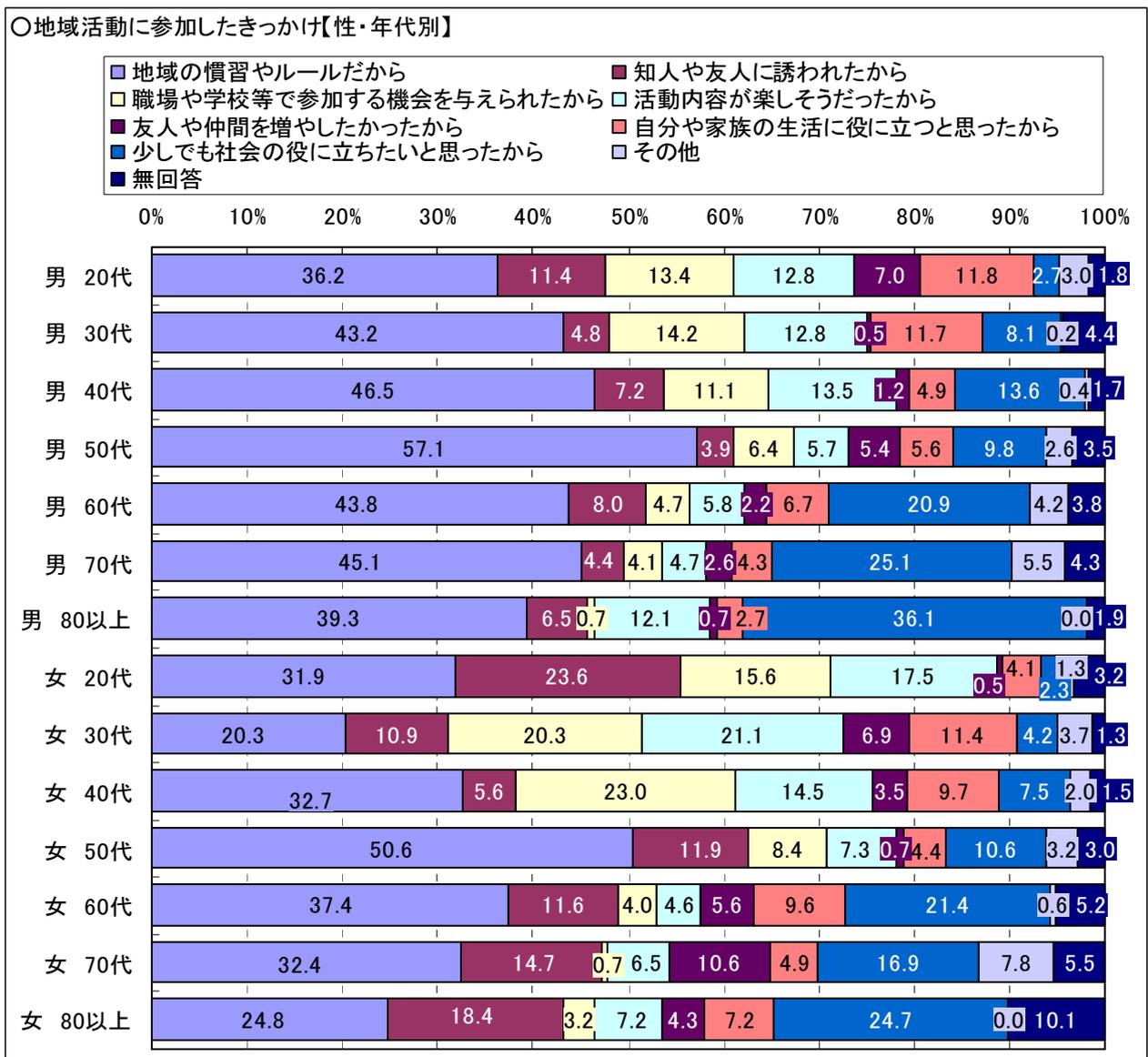
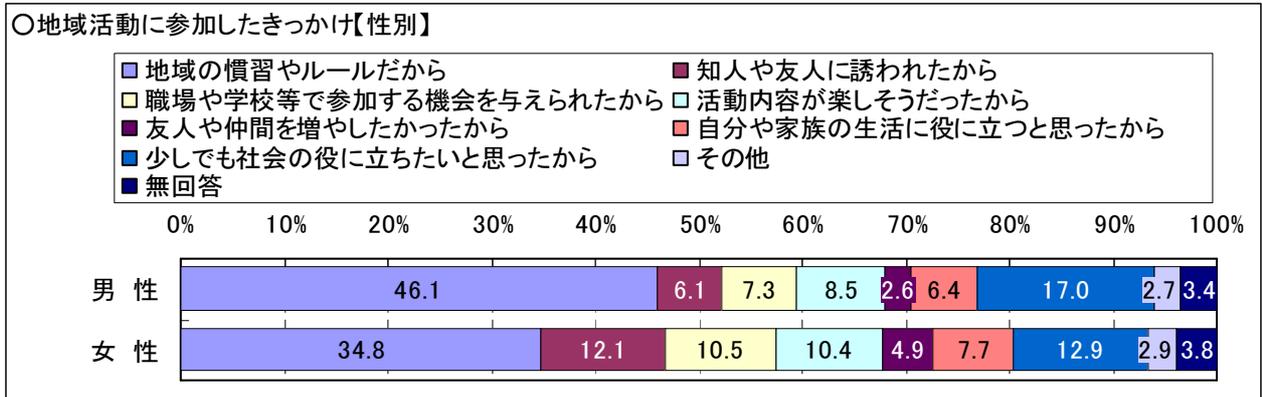
◆地域別

- 全県集計で最も多かった「地域の慣習やルールだから」をみると、中播磨(57.1%)が最も多く5割台後半となっており、但馬(50.6%)、北播磨(49.6%)、丹波(49.4%)、淡路(48.2%)、西播磨(48.1%)もそれぞれ5割前後で続いている一方、阪神北(37.1%)、東播磨(36.7%)、神戸(31.8%)では3割台と少なくなっており、最も少ない阪神南(26.9%)では3割を下回っている。
- 一方、「少しでも社会の役に立ちたいと思ったから」では、反対に阪神南(18.6%)が最も多く、阪神北(17.2%)がこれに続いている。



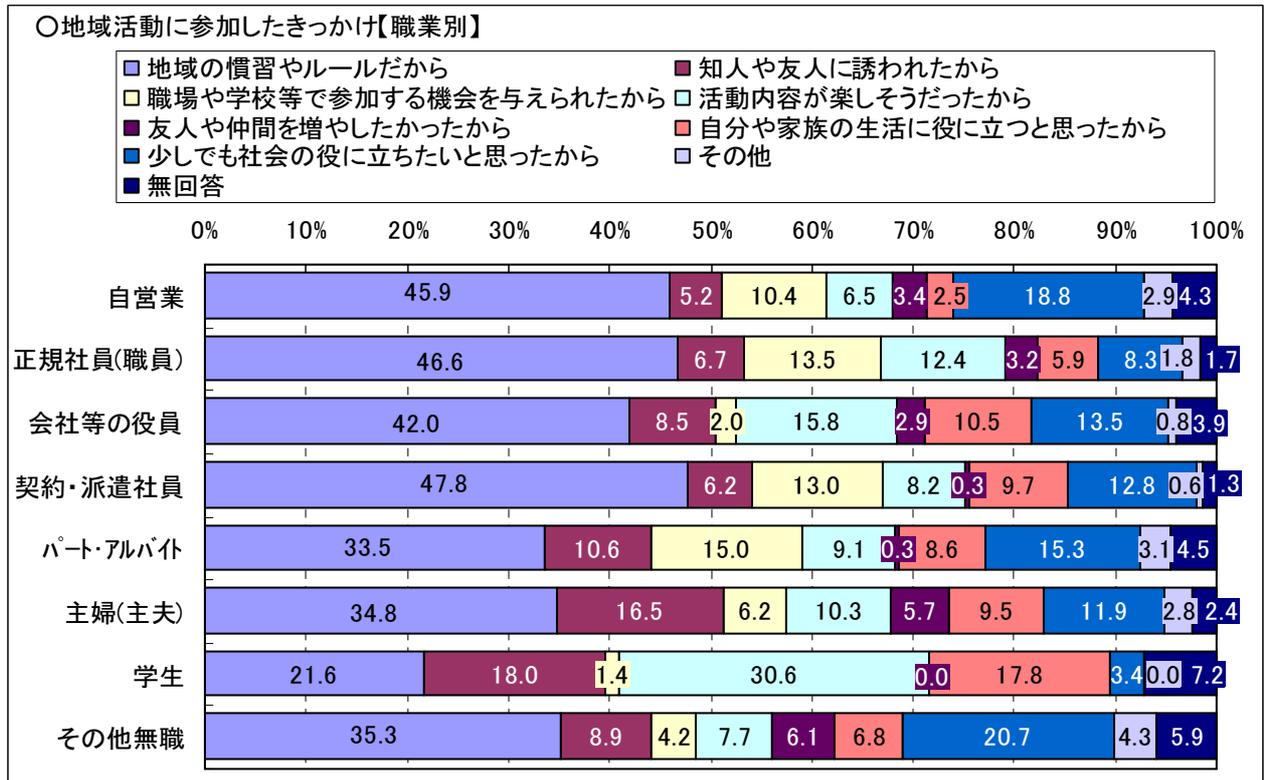
◆性別、性・年代別

- 性別をみると、「地域の慣習やルールだから」では、男性(46.1%)が女性(34.8%)より11.3ポイント多くなっているが、一方、「知人や友人に誘われたから」(男 6.1%、女 12.1%)や「友人や仲間を増やしたかったから」(男 2.6%、女 4.9%)ではいずれも女性が多くなっている。
- 性・年代別をみると、「地域の慣習やルールだから」では、男女とも50代(男 57.1%、女 50.6%)が最も多く5割を超えており、「少しでも社会の役に立ちたいと思ったから」は、高い年代で多く、男女とも80歳以上(男 36.1%、女 24.7%)で最も多くなっている。



◆職業別

- 「地域の慣習やルールだから」では、契約・派遣社員(47.8%)が最も多く、正規社員(職員)(46.6%)、自営業(45.9%)、会社等の役員(42.0%)が4割台で続いているが、学生(21.6%)は最も少なくなっており2割台に止まっている。一方で、「活動内容が楽しそうだったから」では、反対に学生(30.6%)が最も多く3割を上回っている。
- 「少しでも社会の役に立ちたいと思ったから」では、その他無職(20.7%)が最も多く2割を超え、次いで自営業(18.8%)となっており、学生(3.4%)が最も少なくなっている。

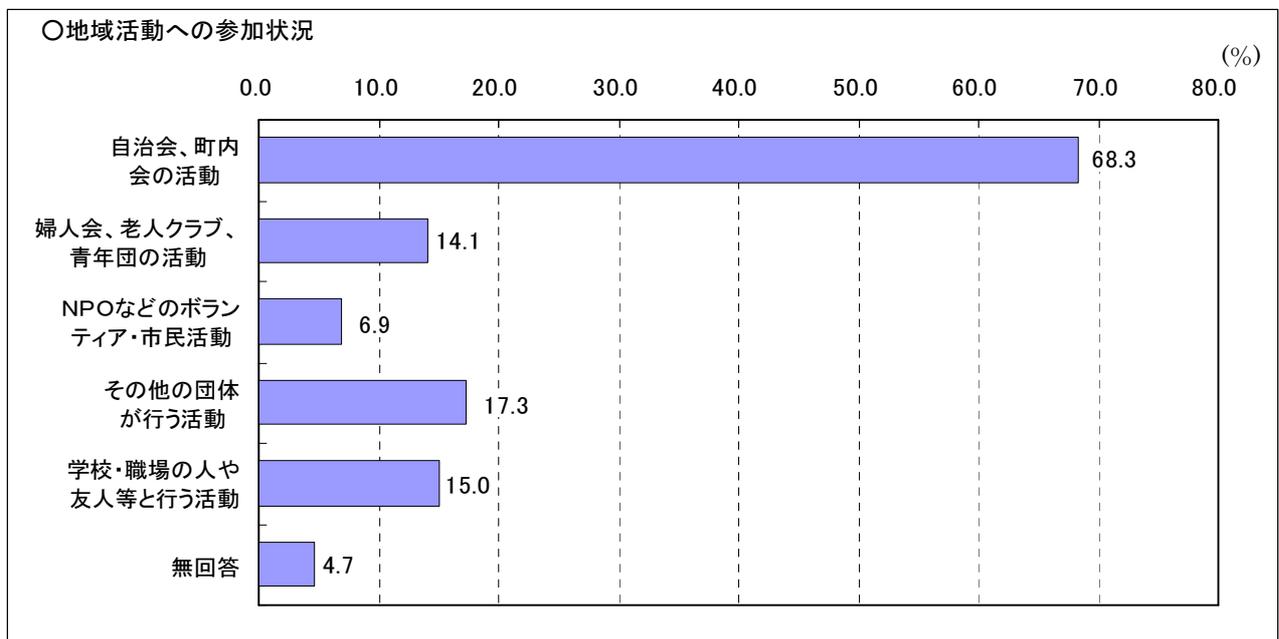


(4) 地域活動への参加状況

問4 問2で、A～Hの活動のいずれかで、1から3に○印をつけた方にお伺いします。その活動は、どのような活動として行いましたか。次の中から当てはまるもの全てを選んで番号に○印をつけて下さい。

- 1 自治会、町内会の活動
- 2 婦人会、老人クラブ、青年団の活動
- 3 NPOなどのボランティア・市民活動
- 4 その他の団体が行う活動
- 5 学校・職場の人や友人等と行う活動

○ 「自治会、町内会の活動」(68.3%)が約7割と最も多く、「その他の団体が行う活動」(17.3%)、「学校・職場の人や友人等と行う活動」(15.0%)、「婦人会、老人クラブ、青年団の活動」(14.1%)と続いているが、一方で「NPOなどのボランティア・市民活動」(6.9%)は1割を下回っている。



◆地域別

- 地域別では、「自治会、町内会の活動」で、中播磨(79.8%)と阪神南(63.4%)で16.4ポイントの差が、また「婦人会、老人クラブ、青年団の活動」では、但馬(24.7%)と神戸(6.1%)で18.6ポイントの差が生じている。
- 「NPOなどのボランティア・市民活動」では、北播磨(11.0%)を除き、他の地域では1割を下回っており、中播磨(2.6%)で最も少なくなっている。
- 「その他の団体が行う活動」では、多くの地域で1割台だが、神戸(21.6%)のみ2割を超えている。

◎地域活動への参加状況【地域別】

	最大値		最小値			(%)
	1 自治会、町内会の活動	2 婦人会、老人クラブ、青年団の活動	3 NPOなどのボランティア・市民活動	4 その他の団体が行う活動	5 学校・職場の人や友人等と行う活動	
全 県	68.3	14.1	6.9	17.3	15.0	
地域別						
神 戸	64.2	6.1	6.8	21.6	14.9	
阪神南	63.4	9.0	9.0	17.2	16.6	
阪神北	71.0	12.9	7.0	16.7	15.6	
東播磨	65.0	13.9	7.2	13.9	13.3	
北播磨	70.2	22.4	11.0	14.5	15.8	
中播磨	79.8	22.3	2.6	13.3	12.9	
西播磨	72.3	21.9	8.1	18.1	15.0	
但 馬	66.9	24.7	4.9	17.5	17.9	
丹 波	70.0	19.8	8.2	17.5	18.7	
淡 路	69.5	19.5	5.8	19.5	13.3	
地域間の差	16.4	18.6	8.4	8.3	5.8	

◆性別、性・年代別

- 性別では、「自治会、町内会の活動」で男性(71.5%)が女性(66.2%)を5.3ポイント上回るが、他の項目では、いずれも女性が上回っており、「婦人会、老人クラブ、青年団の活動」(男11.3%、女15.9%)や「学校・職場の人や友人等と行う活動」(男11.8%、女17.2%)では、それぞれ5ポイント前後の差となっている。
- 性・年代別でみると、全県集計で最も多かった「自治会、町内会の活動」は、男性では60代(80.2%)で8割を超える一方、20代(53.3%)は5割強に止まり30ポイント近い差が生じている。反対に、女性では50代(77.2%)が最も多く、20代(74.2%)と60代(74.0%)がともに7割を超え多くなっている。

◎地域活動への参加状況【性別】 (%)

	1 自治会、町内会の活動	2 婦人会、老人クラブ、青年団の活動	3 NPOなどのボランティア・市民活動	4 その他の団体が行う活動	5 学校・職場の人や友人等と行う活動
全 県	68.3	14.1	6.9	17.3	15.0
性別					
男 性	71.5	11.3	6.7	16.2	11.8
女 性	66.2	15.9	7.1	18.0	17.2
性別間の差	5.3	4.5	0.4	1.8	5.4

◎地域活動への参加状況【性・年代別、男性】 (%)

	1 自治会、町内会の活動	2 婦人会、老人クラブ、青年団の活動	3 NPOなどのボランティア・市民活動	4 その他の団体が行う活動	5 学校・職場の人や友人等と行う活動
全 県	68.3	14.1	6.9	17.3	15.0
性・年代別					
男 性					
20代	53.3	14.6	2.9	28.7	10.2
30代	64.1	9.0	2.6	20.0	21.4
40代	73.7	5.5	12.5	16.8	23.9
50代	77.4	6.5	4.0	15.3	9.0
60代	80.2	6.0	8.1	17.7	3.2
70代	65.3	22.6	5.8	11.7	9.3
80以上	58.1	32.9	7.2	7.8	10.8
年代間の差	26.9	27.5	10.0	20.9	20.7

◎地域活動への参加状況【性・年代別、女性】 (%)

	1 自治会、町内会の活動	2 婦人会、老人クラブ、青年団の活動	3 NPOなどのボランティア・市民活動	4 その他の団体が行う活動	5 学校・職場の人や友人等と行う活動
全 県	68.3	14.1	6.9	17.3	15.0
性・年代別					
女 性					
20代	74.2	2.3	2.8	13.3	21.2
30代	55.9	4.1	7.6	23.3	30.1
40代	60.9	11.9	9.3	14.3	33.6
50代	77.2	10.9	8.3	14.8	15.1
60代	74.0	16.4	6.3	24.0	7.8
70代	59.2	30.5	7.3	15.1	7.5
80以上	51.3	46.3	1.7	15.3	1.7
年代間の差	25.8	44.0	7.6	10.7	31.9

◆職業別

- 「その他の団体が行う活動」では、多くの職業が2割に満たない中、学生(35.9%)のみ3割台半ばに達し最も多くなっている。
- また、「学校・職場の人や友人等と行う活動」では、パート・アルバイト(24.2%)が、「婦人会、老人クラブ、青年団の活動」では、その他無職(23.9%)がいずれも2割を超え、1割台の他の職業より多くなっている。

◎地域活動への参加状況【職業別】

(%)

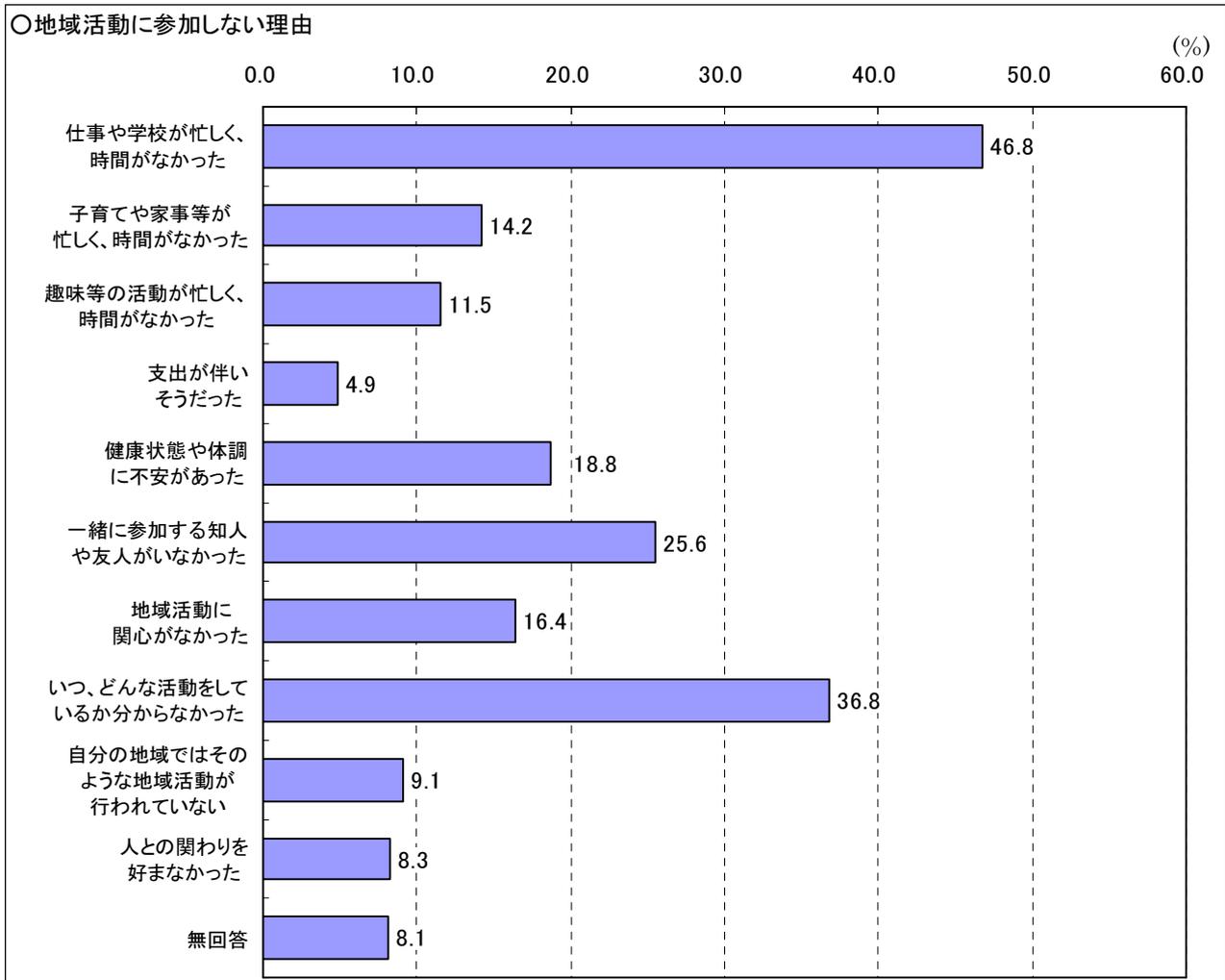
	1 自治会、町内会の活動	2 婦人会、老人クラブ、青年団の活動	3 NPOなどのボランティア・市民活動	4 その他の団体が行う活動	5 学校・職場の人や友人等と行う活動
全 県	68.3	14.1	6.9	17.3	15.0
職業別					
自営業	72.7	16.2	3.8	20.8	10.2
正規社員(職員)	71.4	8.0	7.5	17.4	18.4
会社等の役員	84.5	1.7	5.3	14.8	10.1
契約・派遣社員	60.9	12.4	6.1	16.2	19.4
パート・アルバイト	71.6	10.1	5.8	12.4	24.2
主婦(主夫)	68.9	12.4	9.4	18.5	15.6
学生	57.2	0.0	1.4	35.9	8.3
その他無職	61.2	23.9	7.2	17.1	8.2
職業間の差	27.3	23.9	8.0	23.5	16.0

(5) 地域活動に参加しない理由

問5 これまで地域活動に参加しなかったり、参加しにくいと感じたことがあったとすれば、その理由は何でしょうか。次の中から該当するものを3つ以内で選んで、その番号を記入して下さい。(該当するものが1つか2つしかなければそれでも構いません。)

- 1 仕事や学校が忙しく、時間がなかったから
- 2 子育てや家事等が忙しく、時間がなかったから
- 3 趣味等の活動が忙しく、時間がなかったから
- 4 支出が伴いそうだったから
- 5 健康状態や体調に不安があったから
- 6 一緒に参加する知人や友人がいなかったから
- 7 地域活動に関心がなかったから
- 8 いつ、どんな活動をしているか分からなかったから
- 9 自分の地域ではそのような地域活動が行われていないから
- 10 人との関わりを好まなかったから

○ 地域活動に参加しない理由では、「仕事や学校が忙しく、時間がなかった」(46.8%)が4割台半ばと最も多く、次いで「いつ、どんな活動をしているか分からなかった」(36.8%)、「一緒に参加する知人や友人がいなかった」(25.6%)と続き、一方で「支出が伴いそうだった」(4.9%)は最も少なくなっている。



◆地域別

- 地域別で見ると、全県集計で最も多かった「仕事や学校が忙しく、時間がなかった」は、神戸(48.9%)で最も多いが、いずれの地域でも4割を超えており、最も少ない但馬(41.6%)との差も7.3ポイントに止まっている。
- また、「いつ、どんな活動をしているか分からなかった」では、阪神南(41.4%)と但馬(20.0%)で21.4ポイントの差が生じている。

◎地域活動に参加しない理由【地域別】

(%)

	1 仕事や学校が忙しく、時間がなかった	2 子育てや家事等が忙しく、時間がなかった	3 趣味等の活動が忙しく、時間がなかった	4 支出が伴いそうだった	5 健康状態や体調に不安があった	6 一緒に参加する知人や友人がいなかった	7 地域活動に関心なかった	8 いつ、どんな活動をしているか分からなかった	9 自分の地域ではそのような地域活動が行われていない	10 人との関わりを好まなかった
全 県	46.8	14.2	11.5	4.9	18.8	25.6	16.4	36.8	9.1	8.3
地域別										
神 戸	48.9	13.2	12.5	4.8	19.1	23.9	15.1	39.7	12.5	5.1
阪神南	46.6	14.2	12.3	4.5	19.8	28.4	19.4	41.4	8.6	8.6
阪神北	44.6	12.8	12.5	5.6	16.7	28.9	19.3	37.4	4.6	10.2
東播磨	48.2	16.2	12.1	3.7	15.1	26.1	16.2	38.6	8.1	9.9
北播磨	46.1	13.2	11.8	5.9	20.7	26.0	17.4	35.5	8.9	6.9
中播磨	46.3	15.4	8.1	6.4	18.5	23.5	16.8	33.9	8.4	12.4
西播磨	43.5	16.6	11.0	3.6	18.5	20.8	14.3	24.4	7.8	9.7
但 馬	41.6	15.6	10.8	6.0	28.6	23.2	12.1	20.0	9.8	6.7
丹 波	43.1	14.0	5.7	6.0	24.4	21.4	10.4	23.7	10.4	6.0
淡 路	48.3	14.7	6.6	4.2	16.4	26.9	8.4	31.8	9.1	9.1
地域間の差	7.3	3.8	6.8	2.8	13.5	8.1	11.0	21.4	7.9	7.3

◆性別、性・年代別

- 性別では、「仕事や学校が忙しく、時間がなかった」で、男性(53.7%)が女性(42.0%)より11.6ポイント多くなっているが、一方「子育てや家事等が忙しく、時間がなかった」では女性(20.2%)が男性(5.8%)より14.4ポイント多くなっている。
- 性・年代別でみると、「子育てや家事等が忙しく、時間がなかった」では、男女ともに若い年代で多くなっており、男性では30代(15.5%)が1割台半ばに、女性では40代、30代(ともに38.1%)4割弱と多くなっている。

◎地域活動に参加しない理由【性別】

(%)

	1 仕事や学校が忙しく、時間がなかった	2 子育てや家事等が忙しく、時間がなかった	3 趣味等の活動が忙しく、時間がなかった	4 支出が伴いそうだった	5 健康状態や体調に不安があった	6 一緒に参加する知人や友人がいなかった	7 地域活動に関心なかった	8 いつ、どんな活動をしているか分からなかった	9 自分の地域ではそのような地域活動が行われていない	10 人との関わりを好まなかった
全 県	46.8	14.2	11.5	4.9	18.8	25.6	16.4	36.8	9.1	8.3
性別										
男 性	53.7	5.8	14.4	3.0	14.1	28.8	18.3	39.0	11.1	8.7
女 性	42.0	20.2	9.5	6.3	22.0	23.3	15.2	35.4	7.8	8.0
性別間の差	11.6	14.4	4.9	3.3	7.8	5.5	3.1	3.6	3.3	0.7

◎地域活動に参加しない理由【性・年代別、男性】

(%)

	1 仕事や学校が忙しく、時間がなかった	2 子育てや家事等が忙しく、時間がなかった	3 趣味等の活動が忙しく、時間がなかった	4 支出が伴いそうだった	5 健康状態や体調に不安があった	6 一緒に参加する知人や友人がいなかった	7 地域活動に関心なかった	8 いつ、どんな活動をしているか分からなかった	9 自分の地域ではそのような地域活動が行われていない	10 人との関わりを好まなかった
全 県	46.8	14.2	11.5	4.9	18.8	25.6	16.4	36.8	9.1	8.3
性・年代別										
男 性										
20代	71.2	3.5	17.2	8.7	9.0	28.4	37.1	49.6	2.3	15.6
30代	70.6	15.5	10.7	4.4	4.6	30.8	17.3	37.6	7.5	8.7
40代	73.0	8.9	18.9	4.4	3.8	24.2	22.8	42.0	6.7	7.3
50代	68.5	6.4	9.7	1.3	10.3	28.1	15.2	44.5	12.0	8.4
60代	46.5	2.5	18.7	1.3	16.1	29.9	20.0	40.4	11.8	7.9
70代	23.1	1.7	12.6	2.0	26.8	31.0	10.6	30.7	20.2	7.7
80以上	90.2	4.4	21.8	11.0	11.4	36.0	47.0	62.8	3.0	19.8
年代間の差	67.2	13.9	12.1	9.7	23.0	11.8	36.4	32.2	17.9	12.5

◎地域活動に参加しない理由【性・年代別、女性】

(%)

	1 仕事や学校が忙しく、時間がなかった	2 子育てや家事等が忙しく、時間がなかった	3 趣味等の活動が忙しく、時間がなかった	4 支出が伴いそうだった	5 健康状態や体調に不安があった	6 一緒に参加する知人や友人がいなかった	7 地域活動に関心なかった	8 いつ、どんな活動をしているか分からなかった	9 自分の地域ではそのような地域活動が行われていない	10 人との関わりを好まなかった
全 県	46.8	14.2	11.5	4.9	18.8	25.6	16.4	36.8	9.1	8.3
性・年代別										
女 性										
20代	68.9	10.5	12.2	9.1	5.5	26.2	29.8	54.1	9.8	9.0
30代	47.0	38.1	3.7	7.8	3.6	24.8	18.0	54.5	8.3	8.2
40代	59.3	38.1	6.2	6.7	10.4	27.4	21.9	31.8	5.7	8.4
50代	57.3	17.5	8.5	7.4	18.3	24.4	9.9	29.7	5.6	9.6
60代	34.5	12.6	15.4	4.7	27.5	19.4	15.0	32.8	9.3	9.0
70代	12.4	6.5	12.7	5.8	47.8	21.7	7.5	21.7	10.1	3.8
80以上	2.5	9.0	6.4	1.3	50.6	19.1	3.3	25.0	5.7	7.2
年代間の差	66.4	31.6	11.7	7.8	47.0	8.3	26.5	32.7	4.5	5.8

◆職業別

- 職業別をみると、「仕事や学校が忙しく、時間がなかった」では、正規社員（職員）（76.6%）が最も多く、契約・派遣社員（69.2%）、学生（65.4%）と続き、その他無職（17.1%）が最も少ない。
- 一方、「子育てや家事等が忙しく、時間がなかった」では、主婦（32.4%）が最も多く、パート・アルバイト（18.7%）と続き、他の職業は概ね1割前後となっている。

◎地域活動に参加しない理由【職業別】

(%)

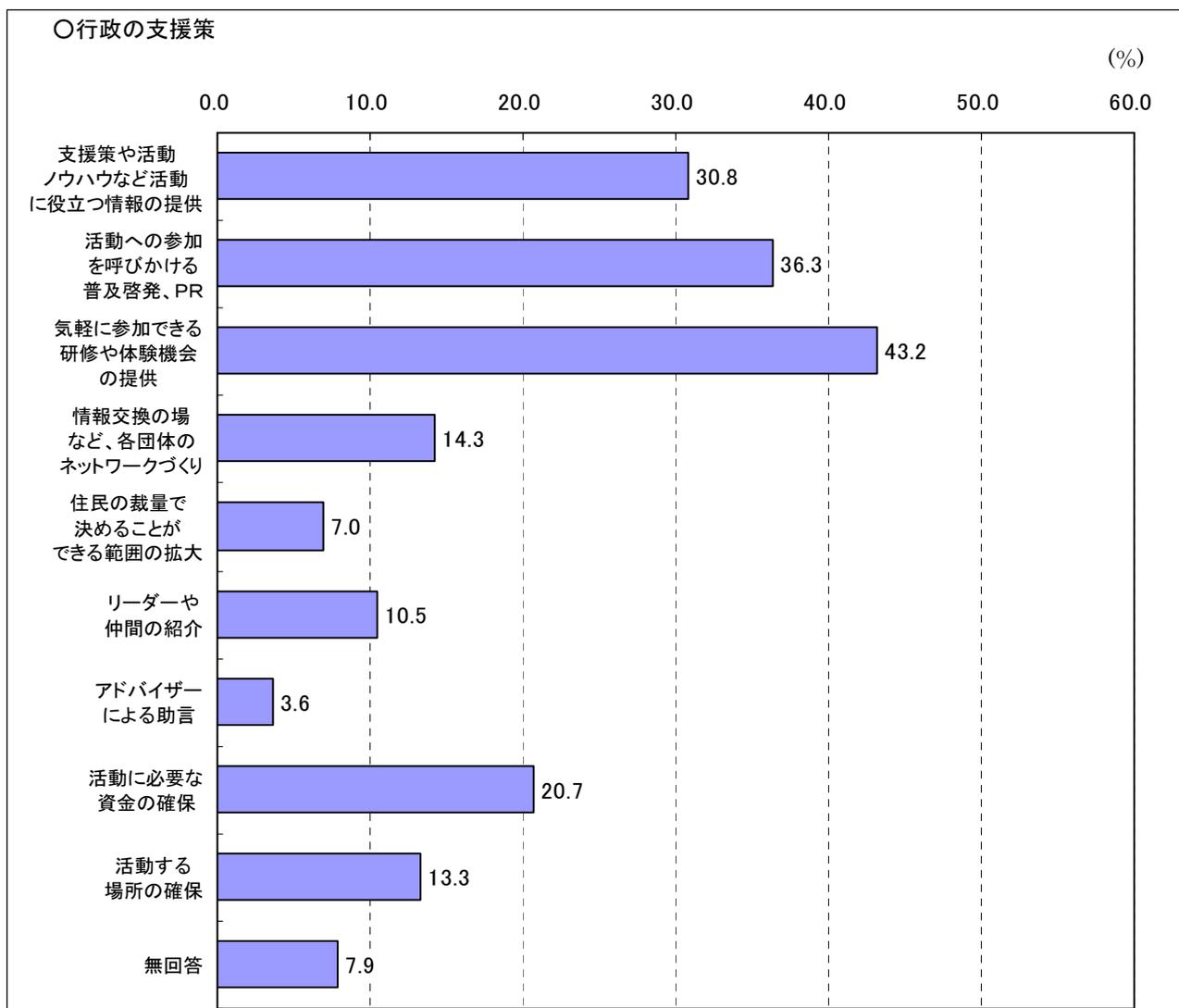
	1 仕事や学校が忙しく、時間がなかった	2 子育てや家事等が忙しく、時間がなかった	3 趣味等の活動が忙しく、時間がなかった	4 支出が伴いそうだった	5 健康状態や体調に不安があった	6 一緒に参加する知人や友人がいなかった	7 地域活動に関心がなかった	8 いつ、どんな活動をしているか分からなかった	9 自分の地域ではそのような地域活動が行われていない	10 人との関わりを好まなかった
全 県	46.8	14.2	11.5	4.9	18.8	25.6	16.4	36.8	9.1	8.3
職業別										
自営業	57.2	11.9	10.4	4.7	15.7	22.7	15.3	37.8	10.9	5.0
正規社員(職員)	76.6	11.2	11.2	2.5	4.5	24.5	20.5	41.7	9.9	8.7
会社等の役員	52.4	7.1	7.7	7.3	7.7	39.7	12.2	49.5	15.9	1.3
契約・派遣社員	69.2	11.2	12.0	5.5	4.9	24.4	23.8	55.7	5.2	11.8
パート・アルバイト	64.5	18.7	13.4	8.5	11.1	28.3	17.9	29.7	7.5	9.8
主婦(主夫)	17.9	32.4	11.7	5.7	26.1	27.0	12.8	35.2	7.5	8.0
学生	65.4	11.1	3.9	1.1	5.8	27.2	35.1	69.9	13.5	7.2
その他無職	17.1	5.0	11.9	4.7	38.1	24.4	12.8	30.1	9.8	8.7
職業間の差	59.5	27.5	9.5	7.5	33.6	17.0	22.9	40.2	10.7	10.5

(6) 行政の支援策

問6 地域住民やボランティア団体などが地域活動をしやすいするためには、どのような行政の支援が必要だと思われますか。特に重要だと思うことを次の中から2つ選んで番号を記入して下さい。

- 1 支援策や活動ノウハウなど活動に役立つ情報の提供
- 2 活動への参加を呼びかける普及啓発、PR
- 3 気軽に参加できる研修や体験機会の提供
- 4 情報交換の場など、各団体のネットワークづくり
- 5 住民の裁量で決めることができる範囲の拡大
- 6 リーダーや仲間の紹介
- 7 アドバイザーによる助言
- 8 活動に必要な資金の確保
- 9 活動する場所の確保

- 「気軽に参加できる研修や体験機会の提供」(43.2%)が最も多く4割を超えており、「活動への参加を呼びかける普及啓発、PR」(36.3%)、「支援策や活動ノウハウなど活動に役立つ情報の提供」(30.8%)が3割台で続いている。
- 一方で、「アドバイザーによる助言」(3.6%)や「住民の裁量で決めることができる範囲の拡大」(7.0%)はいずれも1割を下回っている。



◆地域別

- 全県集計で最も多かった「気軽に参加できる研修や体験機会の提供」は、いずれの地域でも3割後半～4割台半ばと多くなっている。
- 「活動に必要な資金の確保」では、いずれの地域も概ね2割前後である中、淡路(31.1%)は3割を超え最も多くなっているが、一方、阪神南(16.0%)は1割台半ばと少なく、15.1ポイントの差が生じている。

◎行政の支援策【地域別】

(%)

	1 支援策や活動ノウハウなど活動に役立つ情報の提供	2 活動への参加を呼びかける普及啓発、PR	3 気軽に参加できる研修や体験機会の提供	4 情報交換の場など、各団体のネットワークづくり	5 住民の裁量で決めることができる範囲の拡大	6 リーダーや仲間の紹介	7 アドバイザーによる助言	8 活動に必要な資金の確保	9 活動する場所の確保
全 県	30.8	36.3	43.2	14.3	7.0	10.5	3.6	20.7	13.3
地域別									
神 戸	30.1	36.4	42.3	16.5	4.8	11.8	2.9	20.6	14.3
阪神南	35.4	38.4	44.0	16.4	5.6	10.1	2.2	16.0	14.9
阪神北	33.1	37.4	45.2	11.5	7.5	9.8	5.6	19.0	14.1
東播磨	31.6	37.5	42.6	9.6	5.5	10.7	3.3	20.2	14.0
北播磨	26.3	36.5	45.4	16.1	10.2	8.9	4.6	23.4	9.2
中播磨	27.2	33.9	43.3	14.1	10.1	8.1	4.0	25.5	10.7
西播磨	27.9	33.8	41.9	14.3	10.1	13.3	4.2	22.1	9.7
但 馬	25.4	31.7	45.1	12.1	14.3	10.5	4.4	21.0	12.1
丹 波	35.1	27.8	39.1	13.7	13.7	10.7	6.0	27.8	10.0
淡 路	30.4	35.7	38.5	12.6	7.3	10.1	5.6	31.1	12.2
地域間の差	10.1	10.7	6.9	7.0	9.5	5.3	3.8	15.1	5.7

◆性別、性・年代別

- 性別をみると、「気軽に参加できる研修や体験機会の提供」では、男性(39.4%)に対し女性(45.8%)となっており6.4ポイントの差が生じているものの、全体的に性別による特段の差はみられない。
- 性・年代別でみると、「気軽に参加できる研修や体験機会の提供」で、男性では、最も多い80歳以上(65.8%)と最も少ない50代(34.5%)で31.3ポイントの差が生じている一方、女性では、最も多い40代(56.4%)と最も少ない80歳以上(29.7%)で26.7ポイントの差が生じている。

◎行政の支援策【性別】

(%)

	1 支援策や活動ノウハウなど活動に役立つ情報の提供	2 活動への参加を呼びかける普及啓発、PR	3 気軽に参加できる研修や体験機会の提供	4 情報交換の場など、各団体のネットワークづくり	5 住民の裁量で決めることができる範囲の拡大	6 リーダーや仲間の紹介	7 アドバイザーによる助言	8 活動に必要な資金の確保	9 活動する場所の確保
全 県	30.8	36.3	43.2	14.3	7.0	10.5	3.6	20.7	13.3
性別									
男 性	32.1	38.0	39.4	15.8	7.2	10.2	2.9	22.6	14.4
女 性	30.0	35.2	45.8	13.2	6.8	10.8	4.1	19.3	12.5
性別間の差	2.1	2.8	6.4	2.5	0.4	0.6	1.2	3.4	1.9

◎行政の支援策【性・年代別、男性】

(%)

	1 支援策や活動ノウハウなど活動に役立つ情報の提供	2 活動への参加を呼びかける普及啓発、PR	3 気軽に参加できる研修や体験機会の提供	4 情報交換の場など、各団体のネットワークづくり	5 住民の裁量で決めることができる範囲の拡大	6 リーダーや仲間の紹介	7 アドバイザーによる助言	8 活動に必要な資金の確保	9 活動する場所の確保
全 県	30.8	36.3	43.2	14.3	7.0	10.5	3.6	20.7	13.3
性・年代別									
男 性									
20代	17.9	48.2	52.0	22.7	2.6	17.0	3.9	17.3	16.4
30代	31.7	37.3	39.7	25.5	6.4	11.7	2.5	21.8	14.6
40代	31.2	43.3	40.5	18.5	5.0	8.1	3.2	29.6	11.0
50代	34.0	34.7	34.5	19.7	10.5	8.5	2.8	21.3	16.9
60代	31.7	37.7	42.2	9.4	7.5	7.9	3.2	27.0	14.2
70代	36.8	30.0	37.8	11.5	8.9	13.7	2.1	17.7	17.2
80以上	22.7	61.1	65.8	28.7	3.3	21.6	4.9	21.9	20.8
年代間の差	18.8	31.1	31.3	19.3	7.8	13.7	2.8	12.3	9.8

◎行政の支援策【性・年代別、女性】

(%)

	1 支援策や活動ノウハウなど活動に役立つ情報の提供	2 活動への参加を呼びかける普及啓発、PR	3 気軽に参加できる研修や体験機会の提供	4 情報交換の場など、各団体のネットワークづくり	5 住民の裁量で決めることができる範囲の拡大	6 リーダーや仲間の紹介	7 アドバイザーによる助言	8 活動に必要な資金の確保	9 活動する場所の確保
全 県	30.8	36.3	43.2	14.3	7.0	10.5	3.6	20.7	13.3
性・年代別									
女 性									
20代	29.8	45.0	51.0	18.3	4.5	5.5	4.1	19.6	13.8
30代	29.8	39.4	47.0	24.2	3.3	10.4	1.8	21.5	16.8
40代	26.2	36.7	56.4	14.0	7.9	5.9	4.8	24.5	13.6
50代	33.6	35.9	48.6	17.3	7.6	13.5	3.7	16.6	11.9
60代	36.1	37.9	42.7	6.4	7.0	10.8	4.9	17.9	12.4
70代	25.0	23.5	38.6	4.3	8.2	15.0	6.0	19.8	9.9
80以上	23.7	26.5	29.7	8.8	8.5	13.5	3.5	12.3	7.2
年代間の差	12.4	21.5	26.7	19.9	5.2	9.5	4.2	12.2	9.6

◆職業別

- 「活動への参加を呼びかける普及啓発、PR」では、最も多い学生(73.4%)と最も少ないパート・アルバイト(33.5%)で、39.8ポイントの差が生じているほか、「支援策や活動ノウハウなど活動に役立つ情報の提供」では、反対にパート・アルバイト(35.3%)と学生(8.4%)で、26.9ポイントの差となっている。
- この他、「情報交換の場など、各団体のネットワークづくり」や「気軽に参加できる研修や体験機会の提供」でも世代間で20ポイントを超える差がみられる。

◎行政の支援策【職業別】

(%)

	1 支援策や活動ノウハウなど活動に役立つ情報の提供	2 活動への参加を呼びかける普及啓発、PR	3 気軽に参加できる研修や体験機会の提供	4 情報交換の場など、各団体のネットワークづくり	5 住民の裁量で決めることができる範囲の拡大	6 リーダーや仲間の紹介	7 アドバイザーによる助言	8 活動に必要な資金の確保	9 活動する場所の確保
全 県	30.8	36.3	43.2	14.3	7.0	10.5	3.6	20.7	13.3
職業別									
自営業	30.2	36.6	35.5	15.6	13.0	10.2	2.9	21.9	14.4
正規社員(職員)	30.8	41.6	43.8	20.0	6.1	9.9	3.2	23.8	13.5
会社等の役員	31.2	34.9	55.1	13.5	7.9	10.4	2.1	12.5	16.0
契約・派遣社員	32.4	34.7	51.0	20.5	3.8	4.7	3.2	25.6	14.4
パート・アルバイト	35.3	33.5	48.8	13.7	6.4	10.0	5.2	18.4	14.4
主婦(主夫)	30.4	34.8	41.5	10.8	6.2	11.6	4.4	22.1	14.0
学生	8.4	73.4	56.3	33.4	4.7	8.5	0.0	15.3	0.0
その他無職	29.5	33.6	40.0	8.9	6.5	12.4	3.4	17.4	11.8
職業間の差	26.9	39.8	20.8	24.5	9.2	7.7	5.2	13.1	16.0

2 県民と行政の役割分担についての意識

(1) 地域課題への取組主体

問7 次のような地域に身近な課題について、地域住民と行政のどちらが主体となって取り組むべきだと思いますか。あなたの考えに一番近いものをA～Jそれぞれの課題ごとに1つ選んで、番号に○印をつけて下さい。

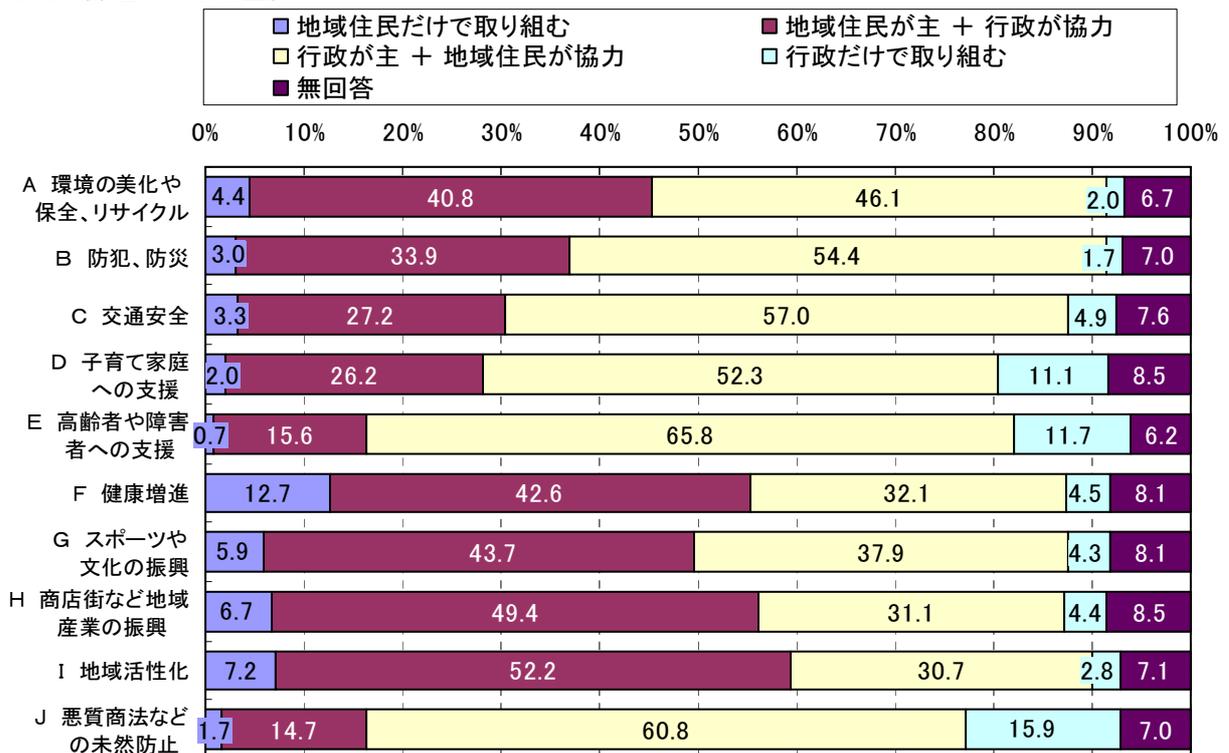
- A 環境の美化や保全、リサイクル
- B 防犯、防災
- C 交通安全
- D 子育て家庭への支援
- E 高齢者や障害者への支援
- F 健康増進
- G スポーツや文化の振興
- H 商店街など地域産業の振興
- I 地域活性化
- J 悪質商法などの未然防止

- 1 : 地域住民だけで取り組む
- 2 : 地域住民が主 + 行政が協力

- 3 : 行政が主 + 地域住民が協力
- 4 : 行政だけで取り組む

- 「地域住民だけで取り組む」と「地域住民が主+行政が協力」を合わせた“住民主体”の傾向が強いものとみると、最も多いものは『I 地域活性化』(59.4%)で約6割に達し、同様に『H 商店街など地域産業の振興』(56.1%)や『F 健康増進』(55.3%)も住民主体の傾向が強く、5割を上回っている。
- 一方、「行政だけで取り組む」と「行政が主+地域住民が協力」を合わせた“行政主体”の傾向が強いものでは、『E 高齢者や障害者への支援』(77.5%)と『J 悪質商法などの未然防止』(76.7%)がいずれも7割台後半に達し行政主体の傾向が強くなっている。

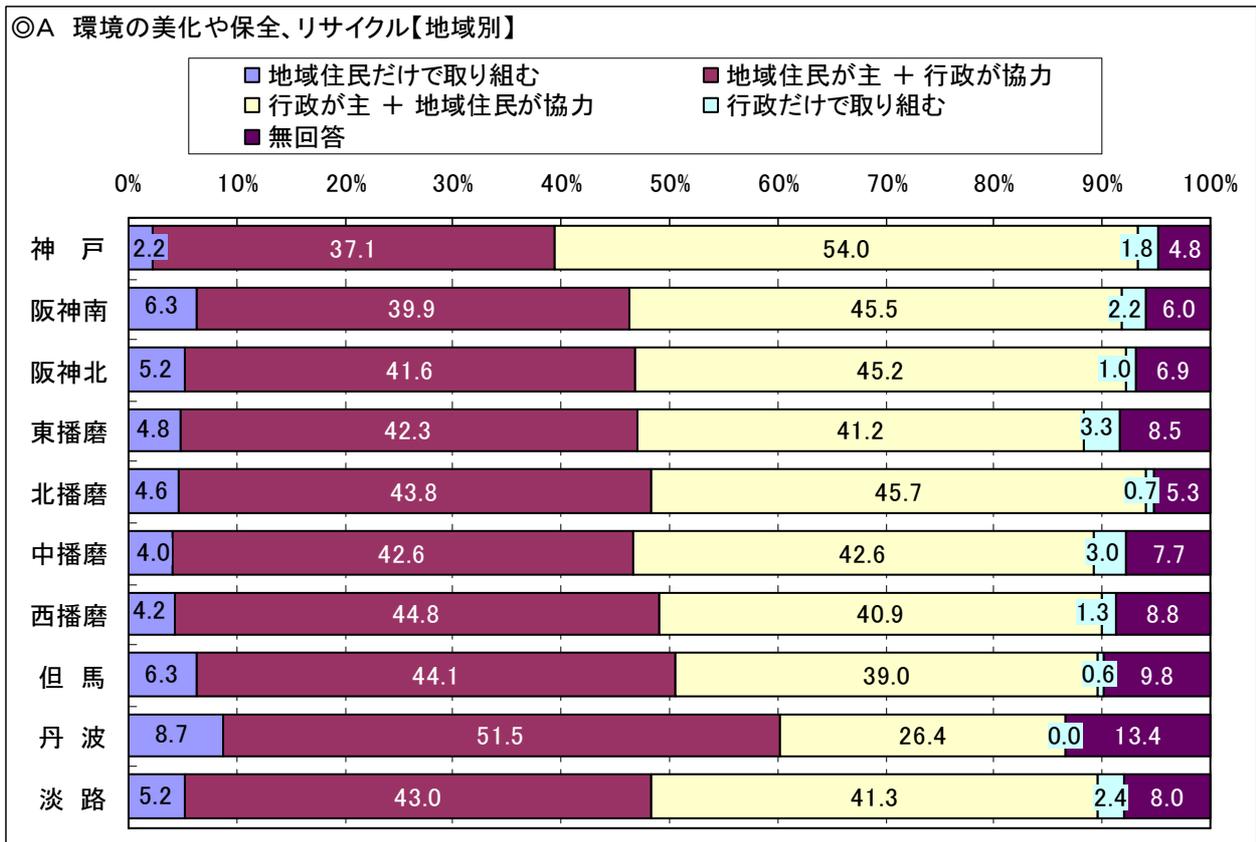
○地域課題への取組主体



◎A 環境の美化や保全、リサイクル

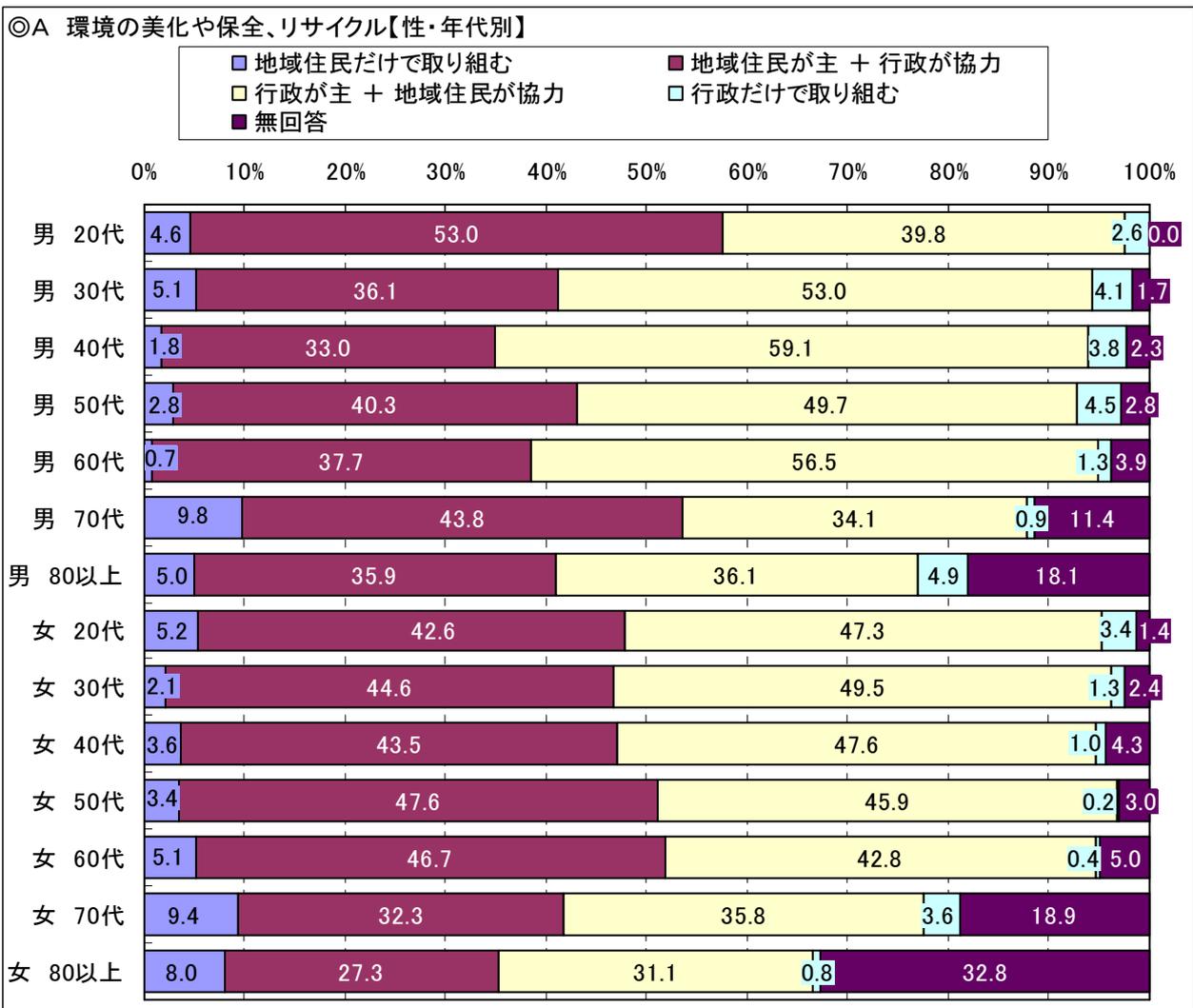
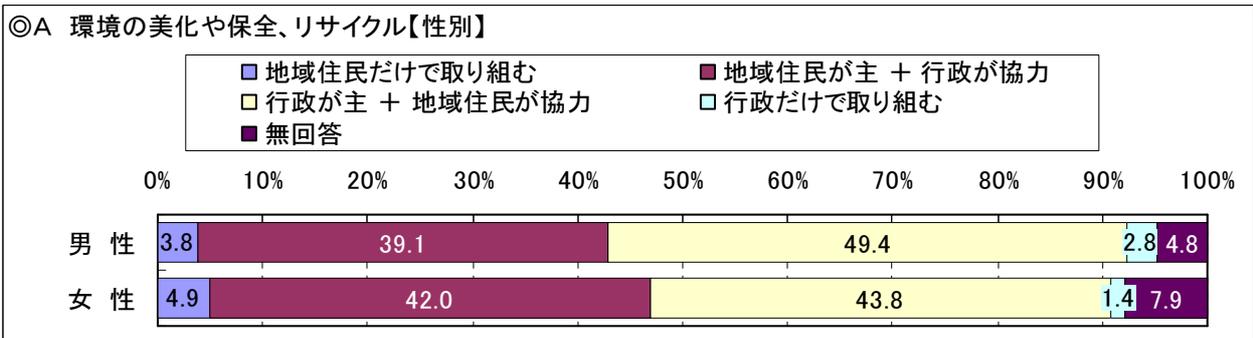
◆地域別

- 各地域とも、概ね行政主体と住民主体が同じ割合となっているが、「地域住民が主+行政が協力」をみると、丹波(51.5%)が最も多く5割を超えており、「地域住民だけで取り組む」(8.7%)も他の地域より多くなっている。
- 一方で、「行政が主+地域住民が協力」をみると、神戸(54.0%)が5割を超え、他の地域は概ね4割台となっている。



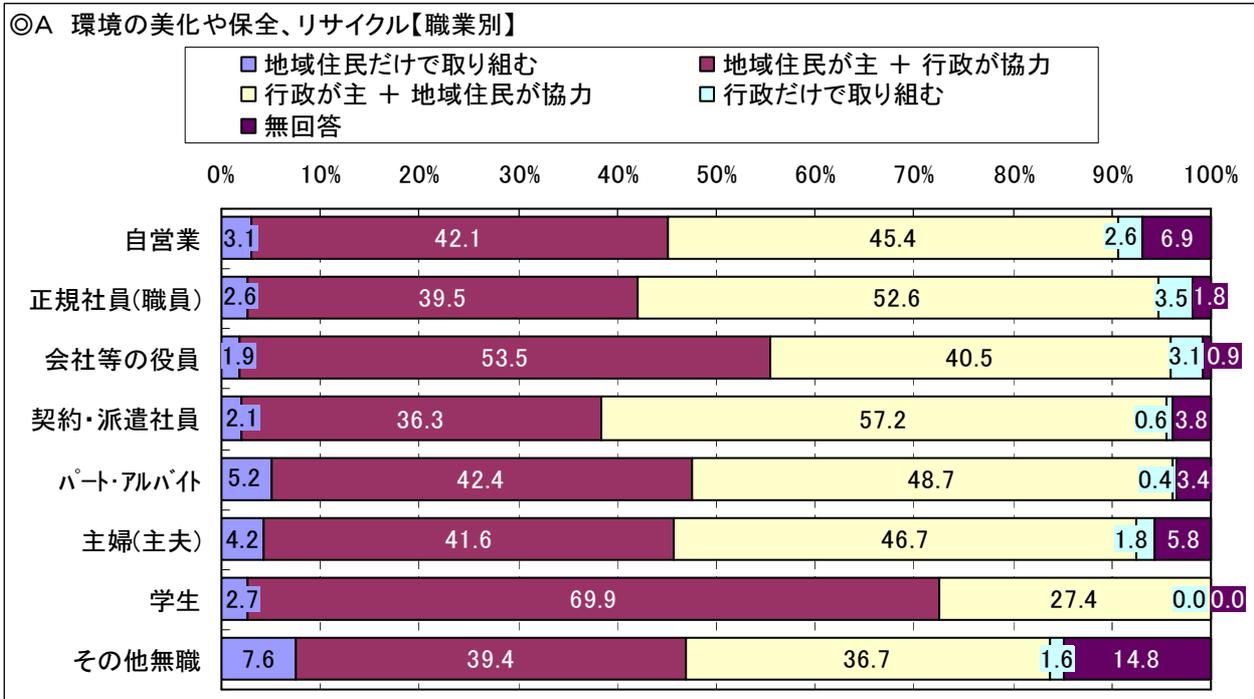
◆性別／性・年代別

- 性別では、特段の差はみられない。
- 性・年代別で見ると、男女とも、「地域住民だけで取り組む」で70代(男9.8%、女9.4%)が最も多くなっている。
- 「地域住民が主+行政が協力」では、男性は、20代(53.0%)で5割を上回り、最も少ない40代(33.0%)で3割強となっているが、他の年代では3～4割台で差が生じている。一方で、女性は、20代(42.6%)から60代(46.7%)までの各年代でいずれも4割台となっている。



◆職業別

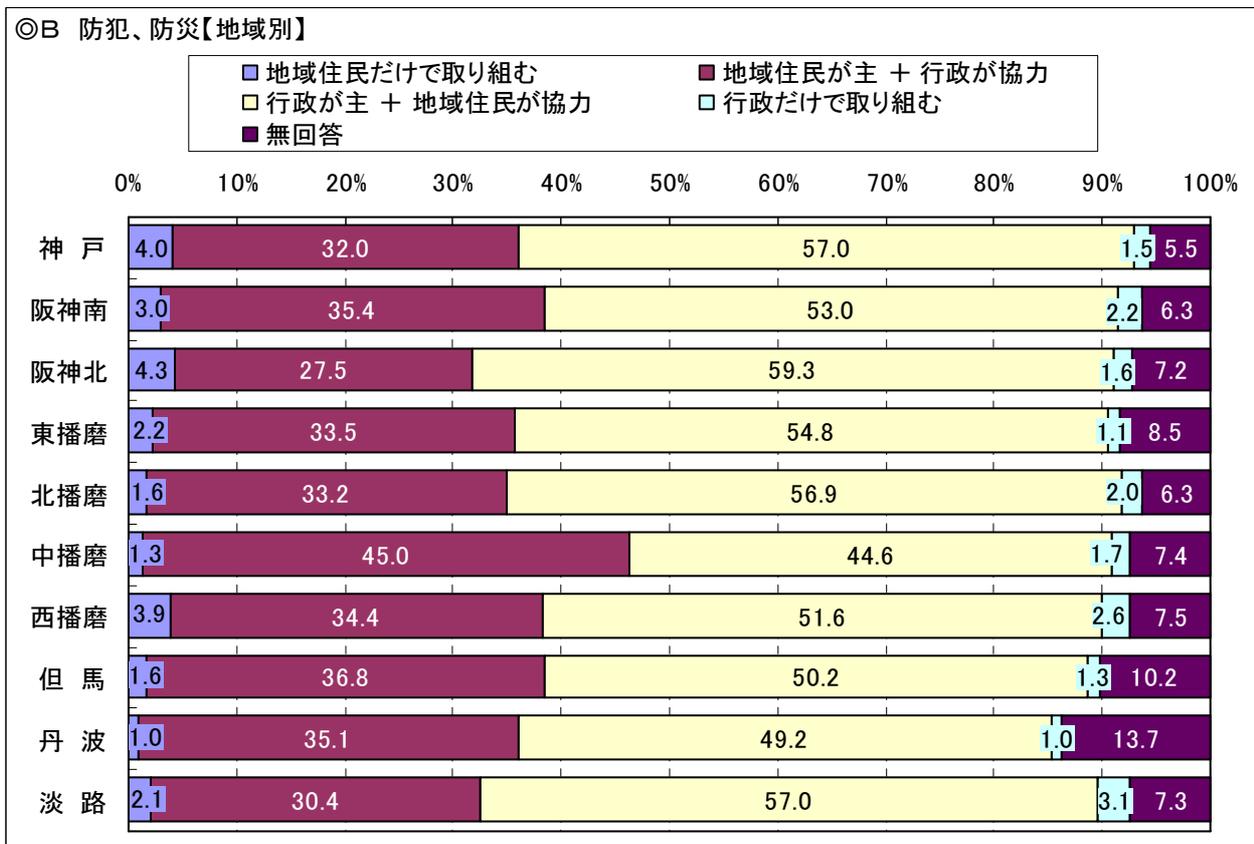
- 職業別をみると、「地域住民だけで取り組む」では、その他無職(7.6%)、パート・アルバイト(5.2%)、主婦(主夫)(4.2%)の順で多くなっている。
- 「地域住民が主+行政が協力」では、学生(69.9%)が約7割と他の職業と比較して多くなっている一方、「行政が主+地域住民が協力」では、契約・派遣社員(57.2%)、正規社員(職員)(52.6%)で5割を超え、他の年代より多くなっている。



◎B 防犯、防災

◆地域別

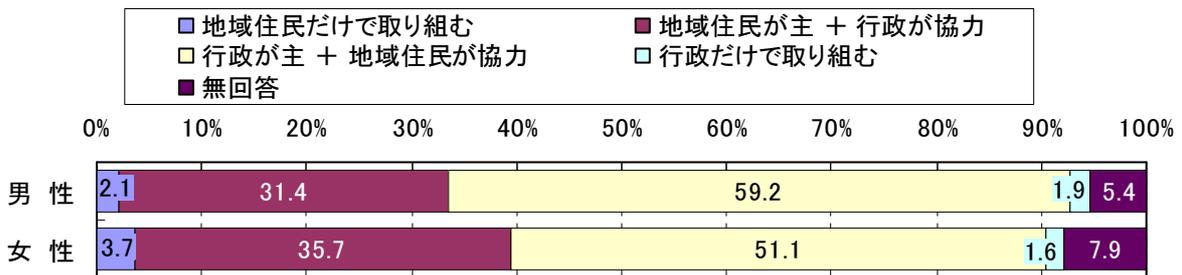
- 「地域住民だけで取り組む」では、阪神北(4.3%)が最も多く、次いで神戸(4.0%)、西播磨(3.9%)、阪神南(3.0%)が順に続いている。
- 「地域住民が主+行政が協力」では、中播磨(45.0%)が最も多く4割を超えており、最も少ない阪神北(27.5%)と、17.5ポイントの差が生じている。
- 「行政だけで取り組む」では、淡路(3.1%)が最も多く、次いで西播磨(2.6%)が続いているが、他の地域は概ね、1割台半ば～2割となっている。
- 「行政が主+地域住民が協力」をみると、阪神北(59.3%)が最も多く約6割となっており、神戸と淡路(ともに57.0%)、北播磨(56.9%)、東播磨(54.8%)など、5割を上回る地域が多い。



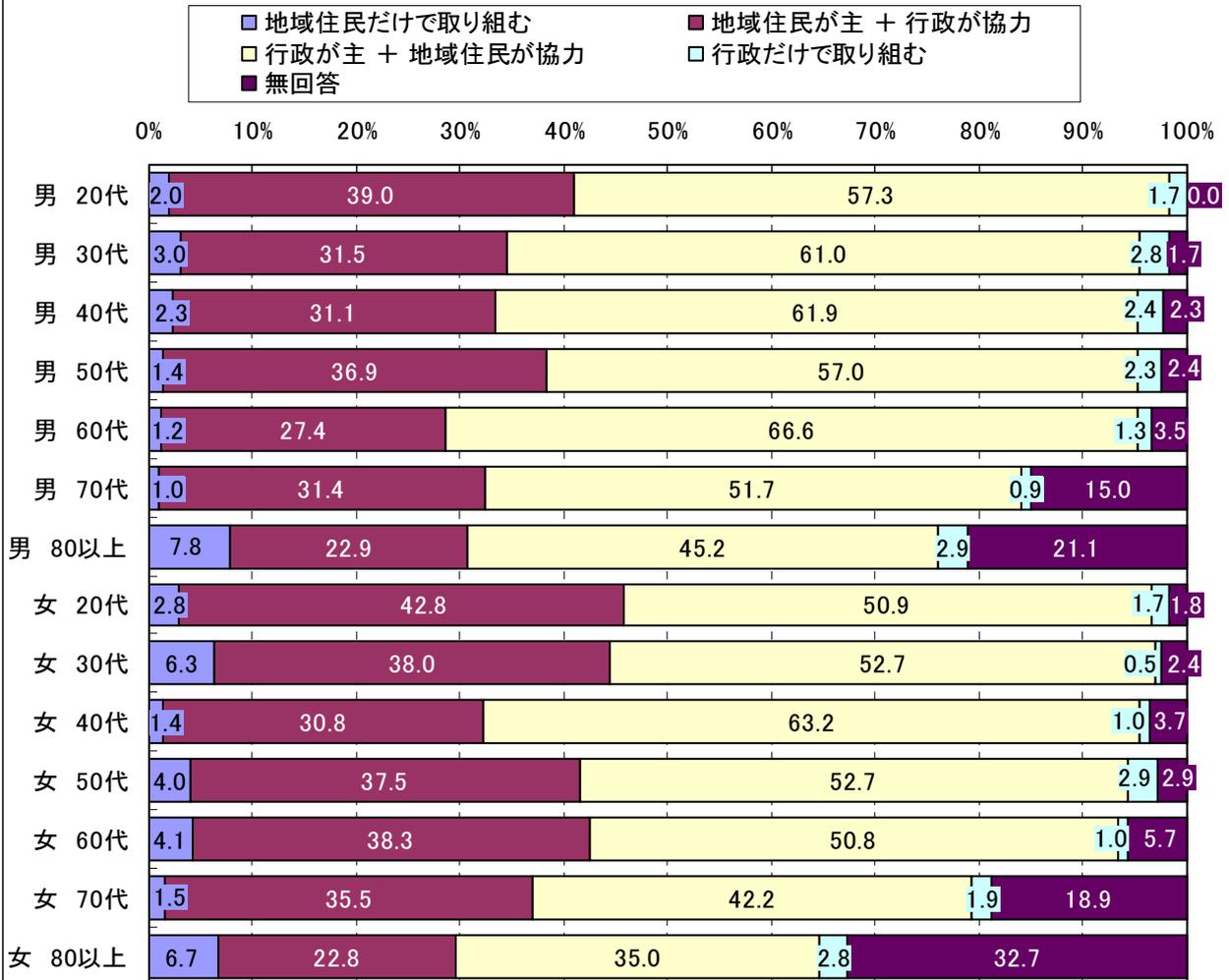
◆性別／性・年代別

- 性別でみると、「地域住民が主+行政が協力」で、男性(31.4%)より女性(35.7%)が多く、反対に、「行政が主+地域住民が協力」では、男性(59.2%)が女性(51.1%)より8.1ポイント多くなっている。
- 性・年代別でみると、「地域住民だけで取り組む」では、男女とも80歳以上(男7.8%、女6.7%)が最も多くなっているが、「地域住民が主+行政が協力」では、20代(男39.0%、女42.8%)が最も多く、80歳以上(男22.9%、女22.8%)が最も少なくなっており、概ね年代が高くなるにつれ、徐々に少なくなる傾向がみられる。
- また、「行政が主+地域住民が協力」では、男性の60代(66.6%)をはじめ、40代(61.9%)、30代(61.0%)で6割を上回っているが、女性は40代(63.2%)が最も多く6割に達しているものの、他の年代は5割台が多く、男性に比べ少なくなっている。

◎B 防犯、防災【性別】

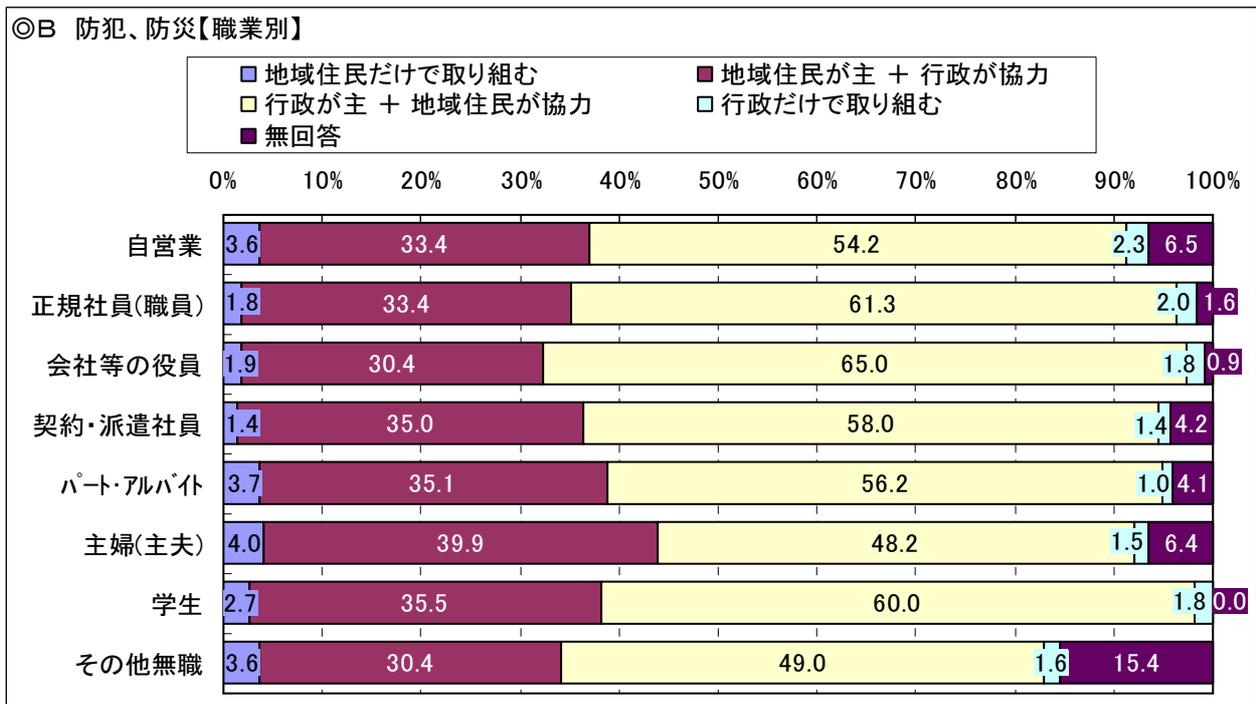


◎B 防犯、防災【性・年代別】



◆職業別

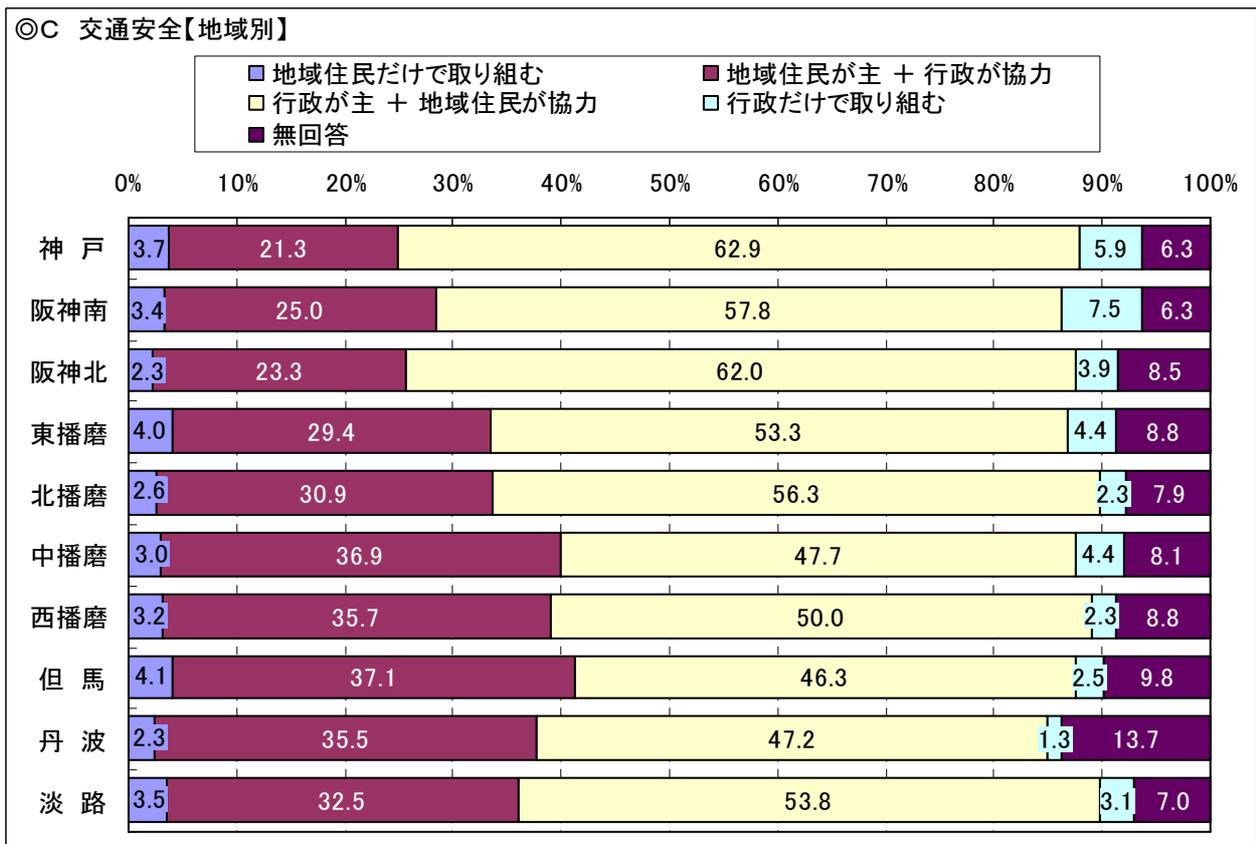
- 「地域住民だけで取り組む」で、主婦（主夫）（4.0%）と最も多く、「地域住民が主+行政が協力」でも同様に主婦（主夫）（39.9%）が多くなっているが、「地域住民が主+行政が協力」では、いずれの職業でも3割を上回っている。
- 「行政だけで取り組む」では、自営業（2.3%）が最も多く、次いで正規社員（職員）（2.0%）が2割を上回っているほか、「行政が主+地域住民が協力」では、会社等の役員（65.0%）、正規社員（職員）（61.3%）、学生（60.0%）と続いている。



◎C 交通安全

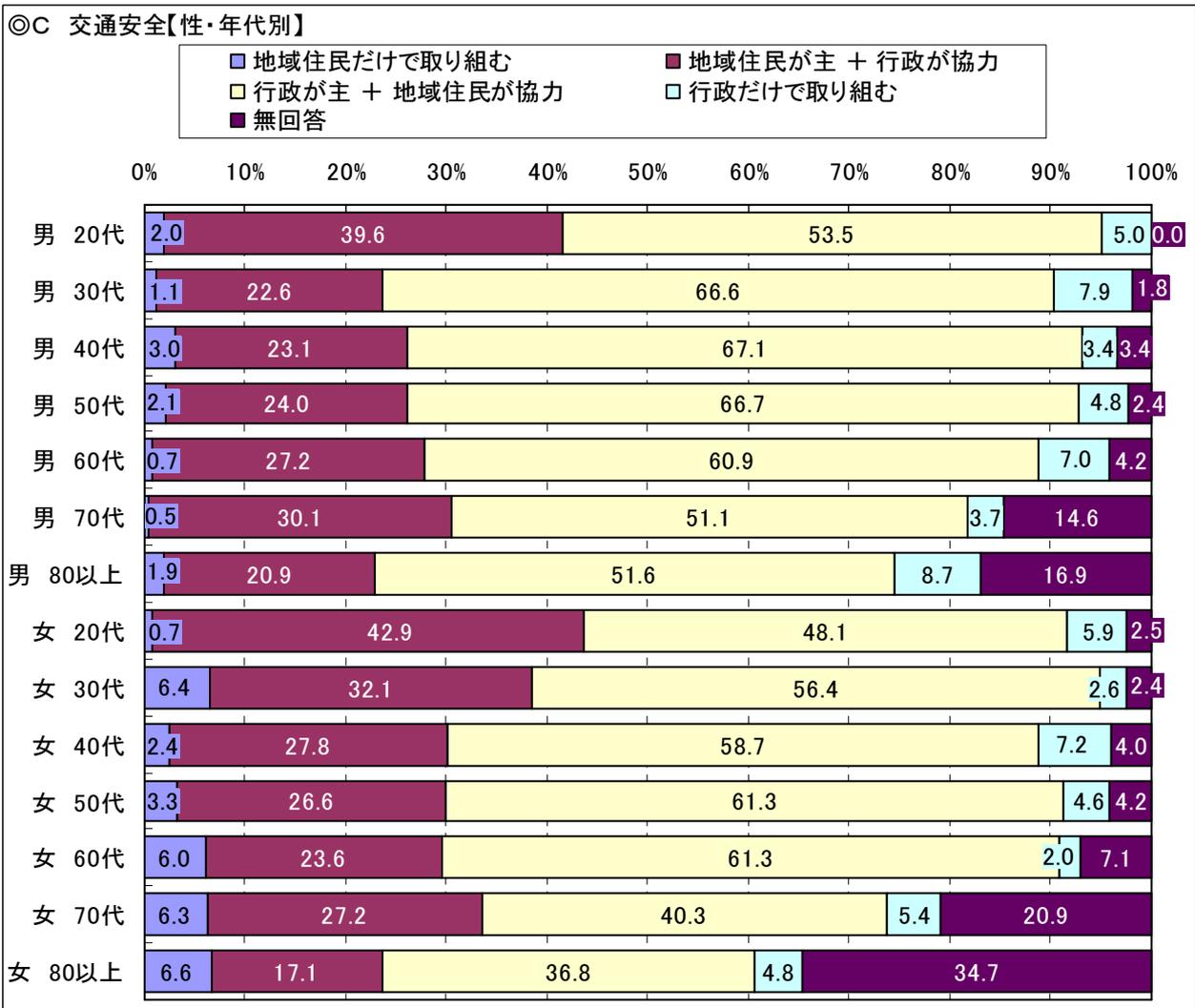
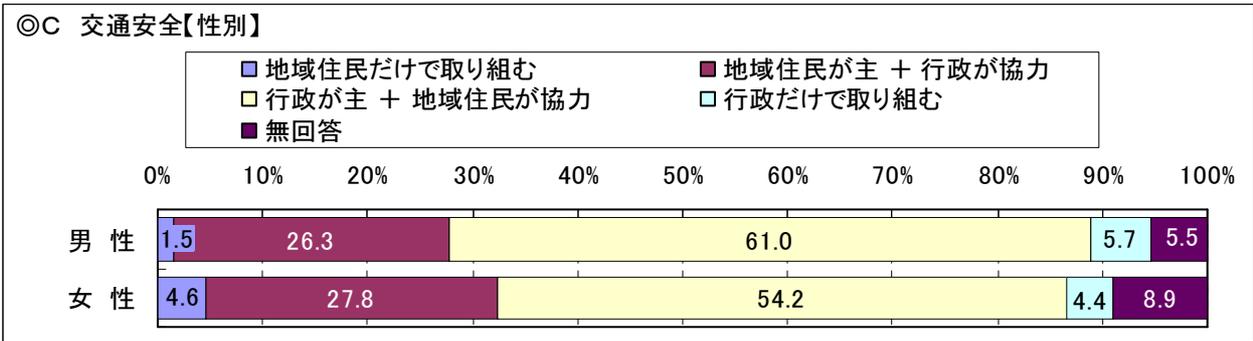
◆地域別

- 各地域とも、「地域住民だけで取り組む」では大きな差がみられないが、「地域住民が主+行政が協力」でみると、但馬(37.1%)や中播磨(36.9%)をはじめ、3割を上回る地域が多くなっている中、神戸(21.3%)、阪神北(23.3%)、阪神南(25.0%)の阪神間は、いずれも2割台と少なくなっている。
- 一方で、「行政だけで取り組む」では、反対に阪神南(7.5%)や神戸(5.9%)が多く、反対に丹波(1.3%)、北播磨と西播磨(ともに2.3%)が少なくなっており、「行政が主+地域住民が協力」でも同様の傾向がみられ、神戸(62.9%)、阪神北(62.0%)、阪神南(57.8%)が多く、但馬(46.3%)、丹波(47.2%)、中播磨(47.7%)が少なくなっている。



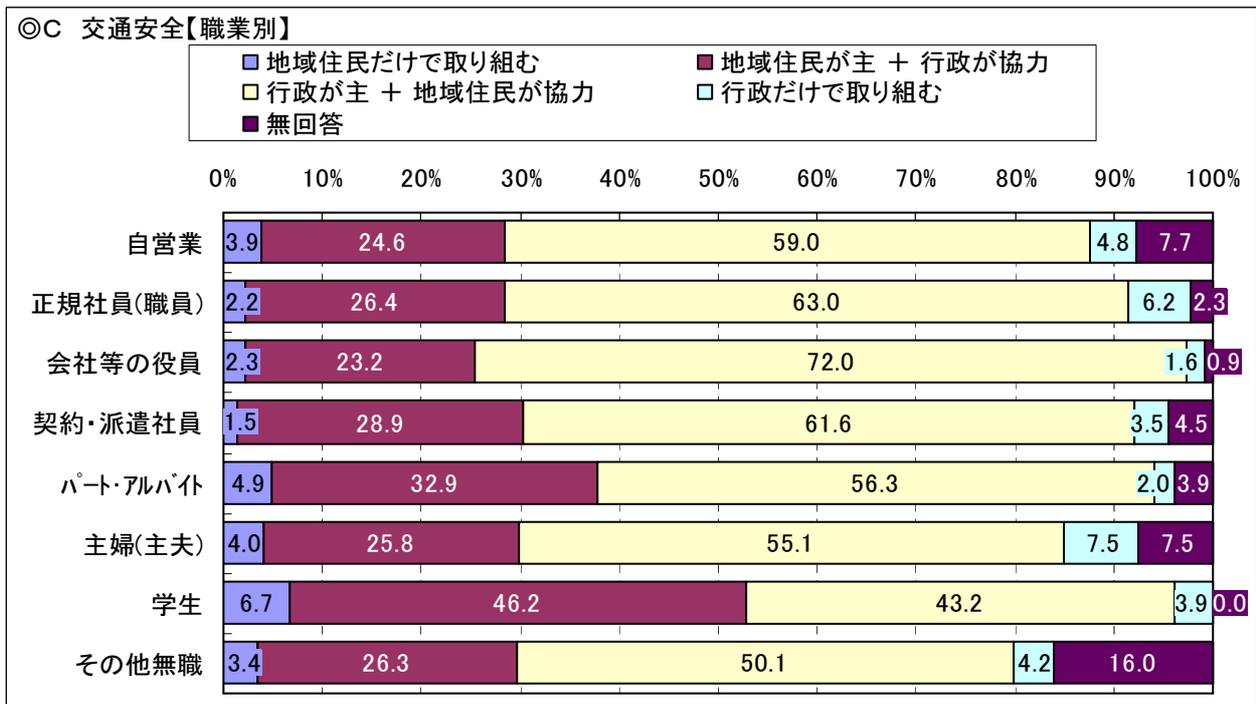
◆性別／性・年代別

- 性別では、「地域住民だけで取り組む」(男 1.5%、女 4.6%)、地域住民が主＋行政が協力(男 26.3%、女 27.8%)ともに、女性が多くなっている。
- 性・年代別をみると、「地域住民だけで取り組む」では、女性が 80 歳以上(6.6%)、30 代(6.4%)、70 代(6.3%)、60 代(6.0%)で多く、男性では、最も多いものでも 40 代(3.0%)となっている。
- 「地域住民が主＋行政が協力」をみると、男女とも 20 代(男 39.6%、女 42.9%)が最も多く、約 4 割となっている。



◆職業別

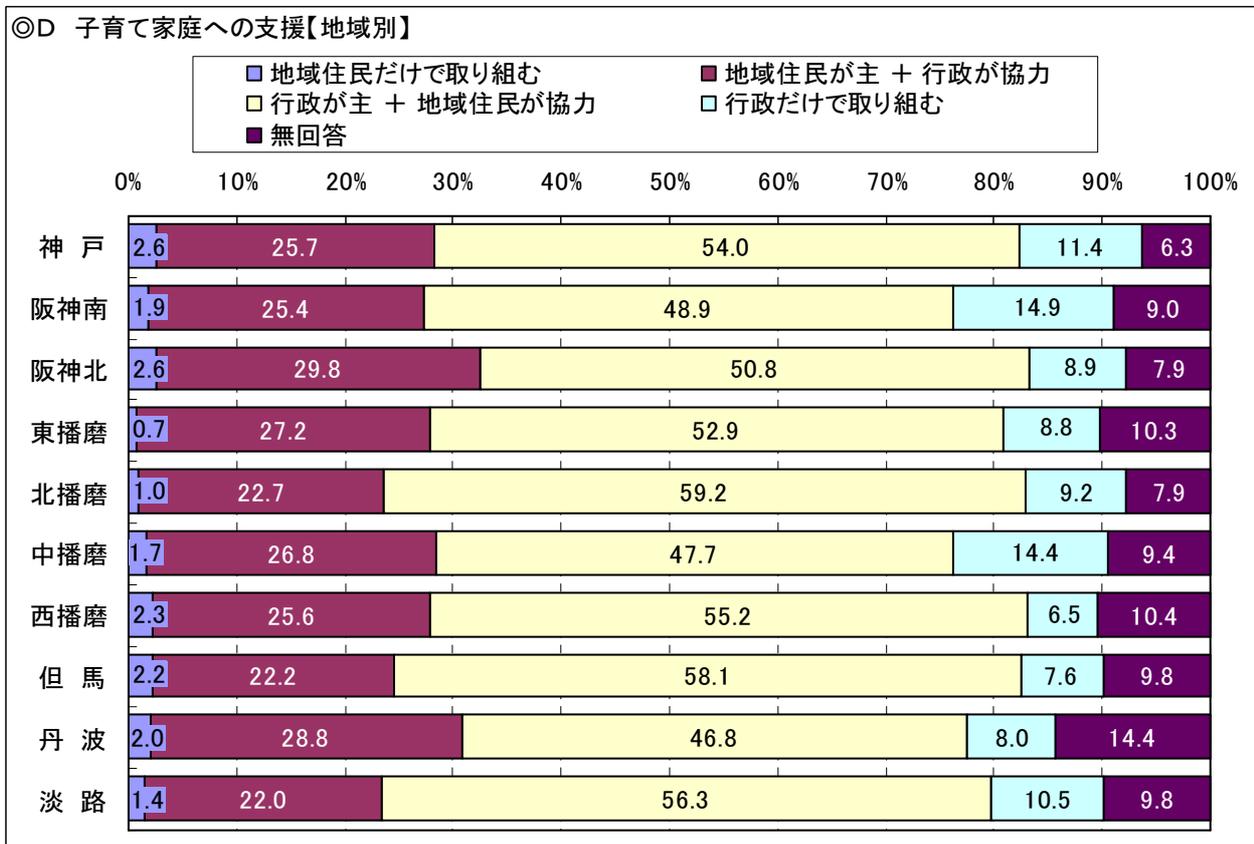
- 職業別をみると、「地域住民だけで取り組む」は、学生(6.7%)が最も多く、次いでパート・アルバイト(4.9%)、主婦(主婦)(4.0%)の順で続いている。また、「地域住民が主+行政が協力」でも、同様に学生(46.2%)が最も多くなっており、パート・アルバイト(32.9%)、契約・派遣社員(28.9%)と続いている。
- 一方、「行政だけで取り組む」では、最も多い主婦(主夫)(7.5%)と最も少ない会社等の役員(1.6%)で5.9ポイントの差が生じるなど、職業による差がみられる。



◎D 子育て家庭への支援

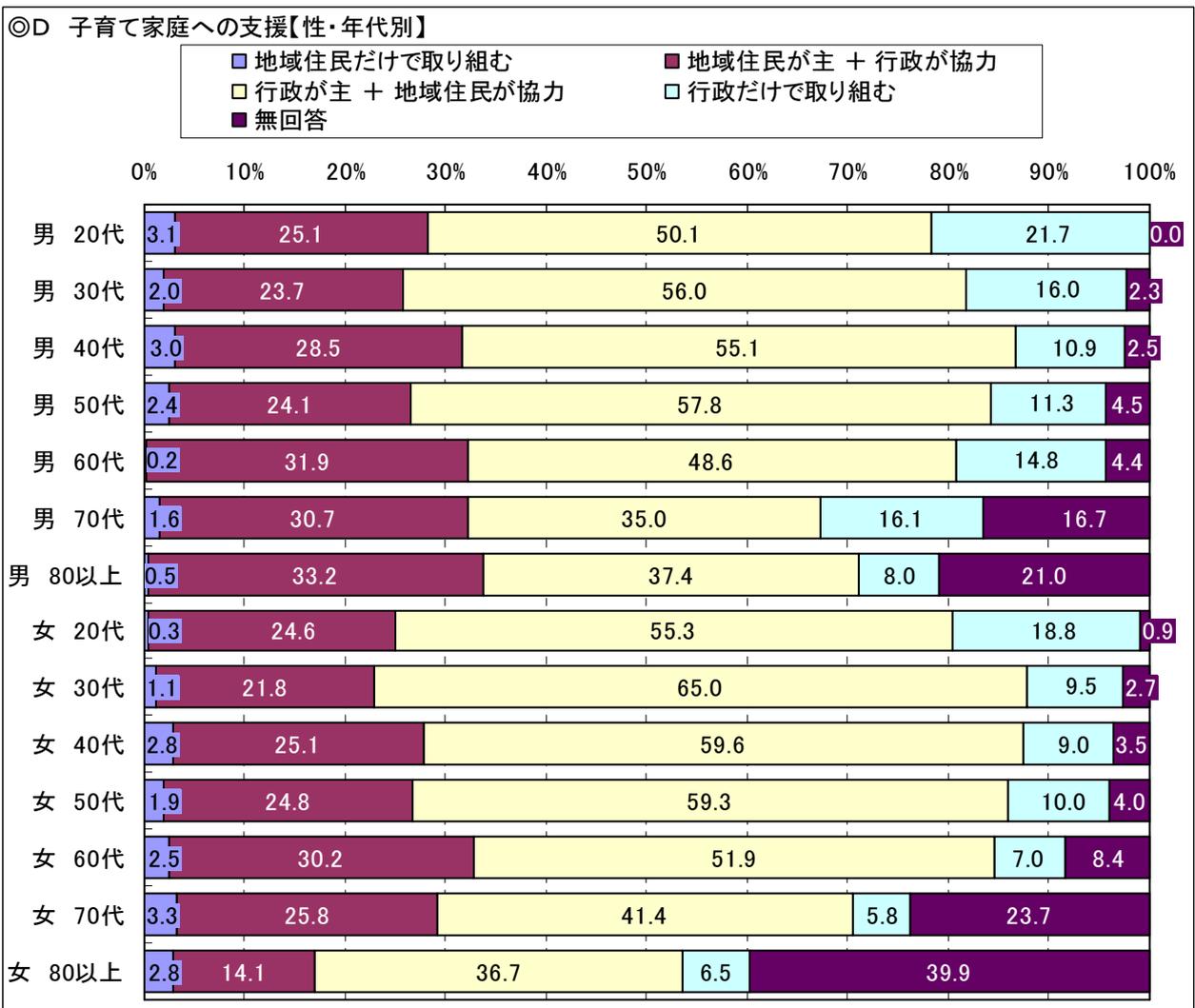
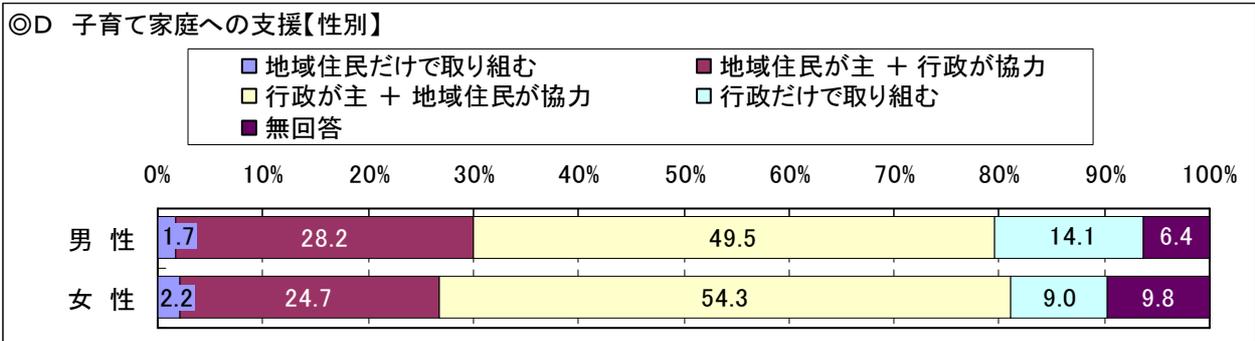
◆地域別

- 「地域住民だけで取り組む」では、神戸と阪神北(ともに2.6%)で多くなっており、他の地域も概ね1~2%台前半となっている中、東播磨(0.7%)のみ1%を下回っているが、「地域住民が主+行政が協力」でみると、いずれの地域も2割を上回っている。
- また、「地域住民だけで取り組む」と「地域住民が主+行政が協力」を合わせると、阪神北(32.4%)が最も多く、次いで丹波(30.8%)が続いており、ともに3割を上回る。
- 一方、「行政だけで取り組む」では、阪神南(14.9%)と中播磨(14.4%)が高く、神戸(11.4%)、淡路(10.5%)と続いており、その他の地域は1割を下回っている。また「行政が主+地域住民が協力」をみると、北播磨(59.2%)が最も多く、但馬(58.1%)、淡路(56.3%)、西播磨(55.2%)、神戸(54.0%)、東播磨(52.9%)、阪神北(50.8%)と続き、いずれの地域でも5割を上回っている。



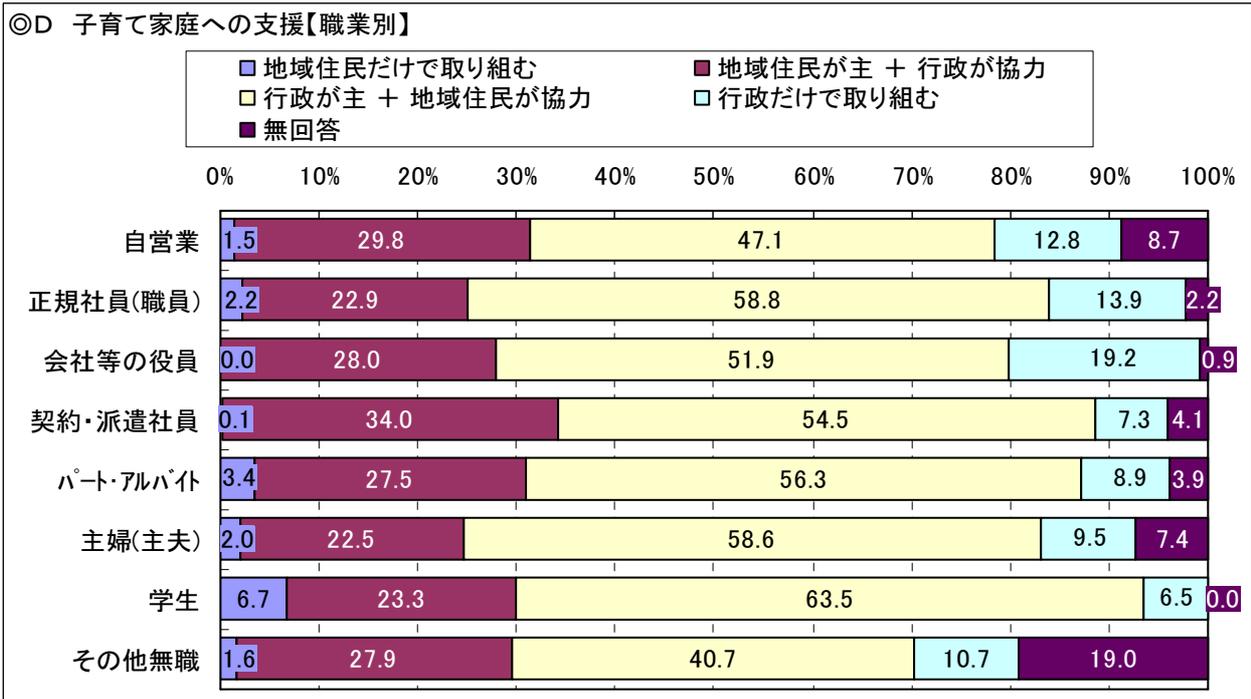
◆性別／性・年代別

- 性別で見ると、「地域住民だけで取り組む」では、男性(1.7%)、女性(2.2%)で女性が多く、一方、「行政だけで取り組む」では、男性(14.1%)、女性(9.0%)で男性が多くなっている。
- また、「地域住民が主+行政が協力」では、男性(28.2%)、女性(24.7%)で男性が多く、一方で、「行政が主+地域住民が協力」では、男性(49.5%)、女性(54.3%)で女性が多くなっている。
- 性・年代別で見ると、男女とも「行政だけで取り組む」で、20代(男 21.7%、女 18.8%)が最も多くなっている。



◆職業別

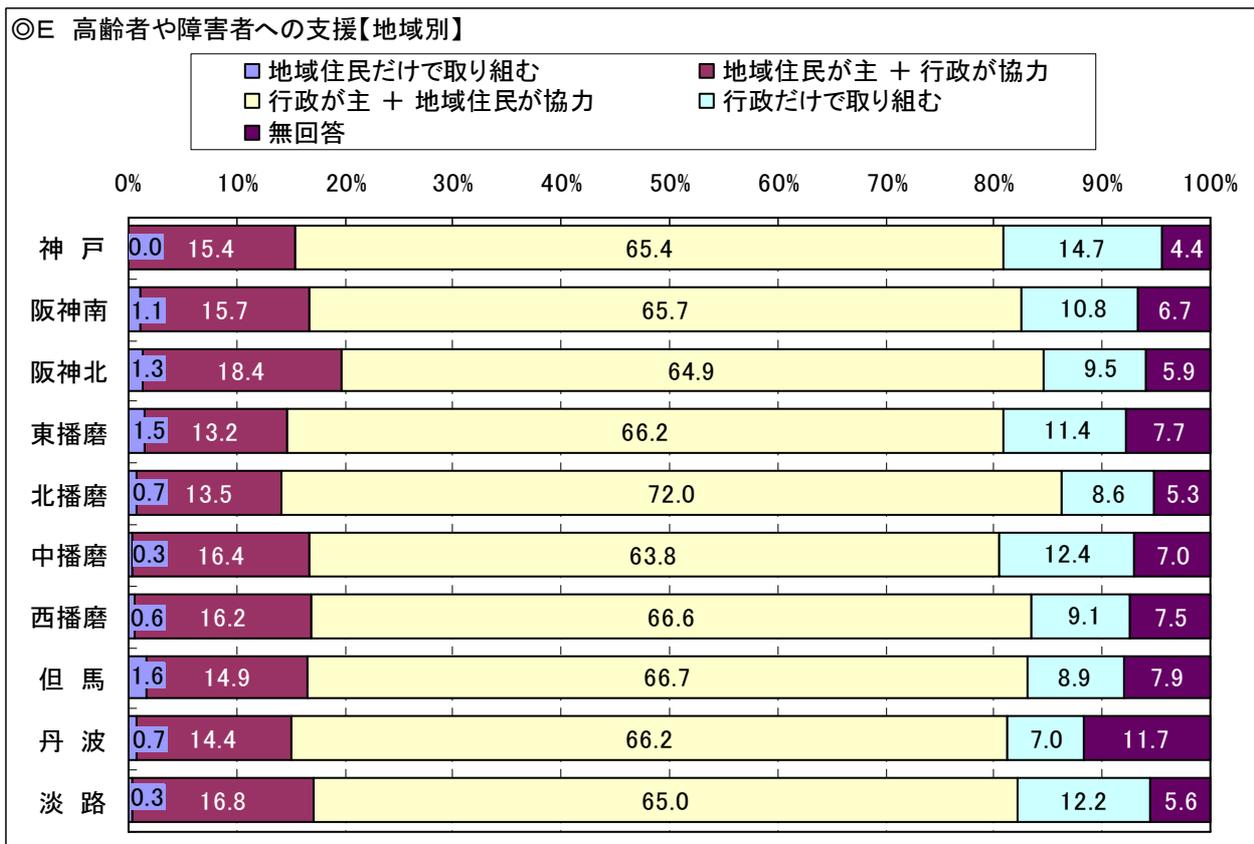
- 職業別をみると、「地域住民だけで取り組む」では学生(6.7%)が最も多く、次いでパート・アルバイト(3.4%)が続いている一方で、会社員等の役員(0.0%)や契約・派遣社員(0.1%)など、該当がないもしくは非常に少ない職業もみられる。
- 「地域住民が主+行政が協力」では、契約・派遣社員(34.0%)のみ3割を上回るが、他の職業は2割台に止まっている。
- 一方で、「行政だけで取り組む」では、会社等の役員(19.2%)が約2割と最も多くなっており、正規社員(職員)(13.9%)、自営業(12.8%)と続き、最も少ないのは学生(6.5%)となっている。



◎E 高齢者や障害者への支援

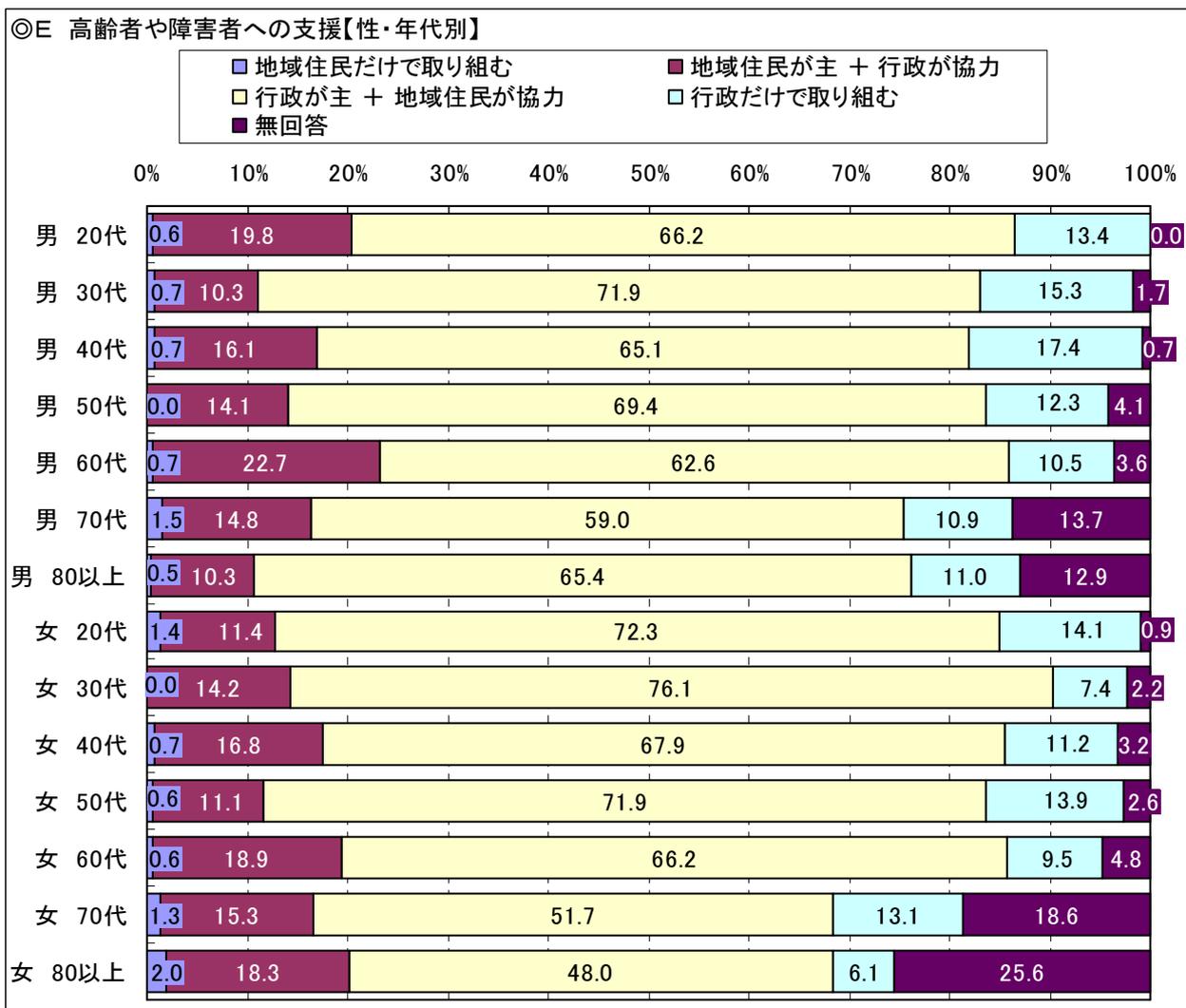
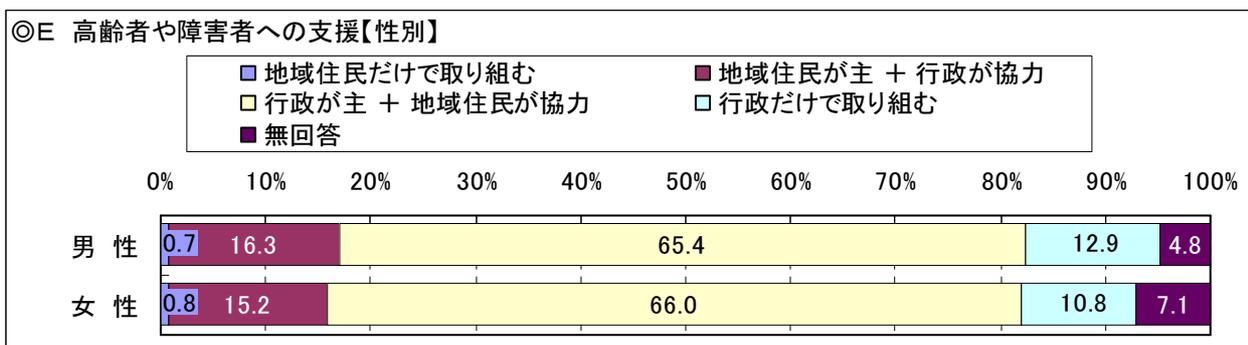
◆地域別

- 各地域とも「行政が主+地域住民が協力」が最も多くなっており、北播磨(72.0%)で7割を上回っているほか、他の地域でも6割台半ばに達している。一方、「地域住民が主+行政が協力」では、阪神北(18.4%)が最も多く、他の地域は概ね1割台半ばとなっている。
- 「地域住民だけで取り組む」は、いずれの地域でも少なくなっており、最も多い但馬(1.6%)から、東播磨(1.5%)、阪神北(1.3%)と続き、神戸(0.0%)では該当がない。一方、「行政だけで取り組む」では神戸(14.7%)が最も多く、次いで中播磨(12.4%)、淡路(12.2%)、東播磨(11.4%)、阪神南(10.8%)が1割を上回っている。



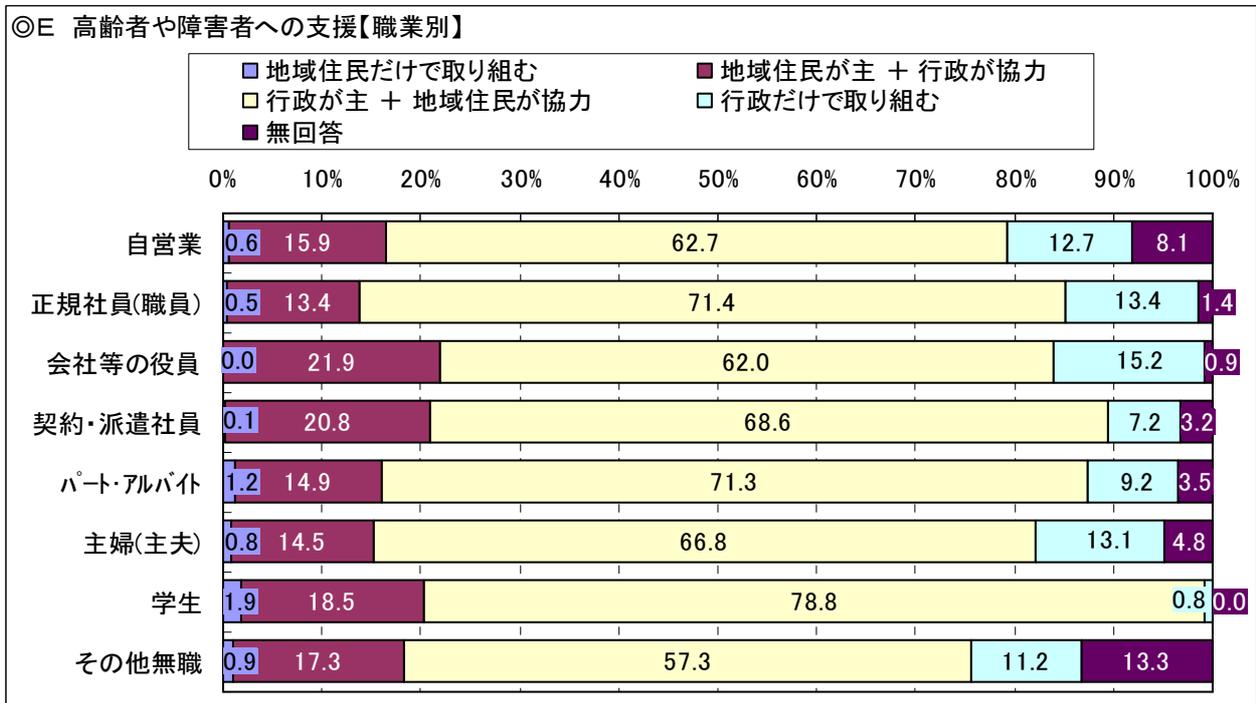
◆性別／性・年代別

- 性別では、特段の差はみられない。
- 性・年代別でみると、「地域だけで取り組む」は、男女ともにいずれの年代でも少なくなっており、男性50代、女性30代では、ともに該当がない。一方で「行政だけで取り組む」では、男性で40代(17.4%)が最も多くなっており、30代(15.3%)、20代(13.4%)をはじめ、全ての年代で1割を上回っているほか、女性でも、20代(14.1%)、50代(13.9%)、70代(13.1%)、40代(11.2%)で1割を上回っている。



◆職業別

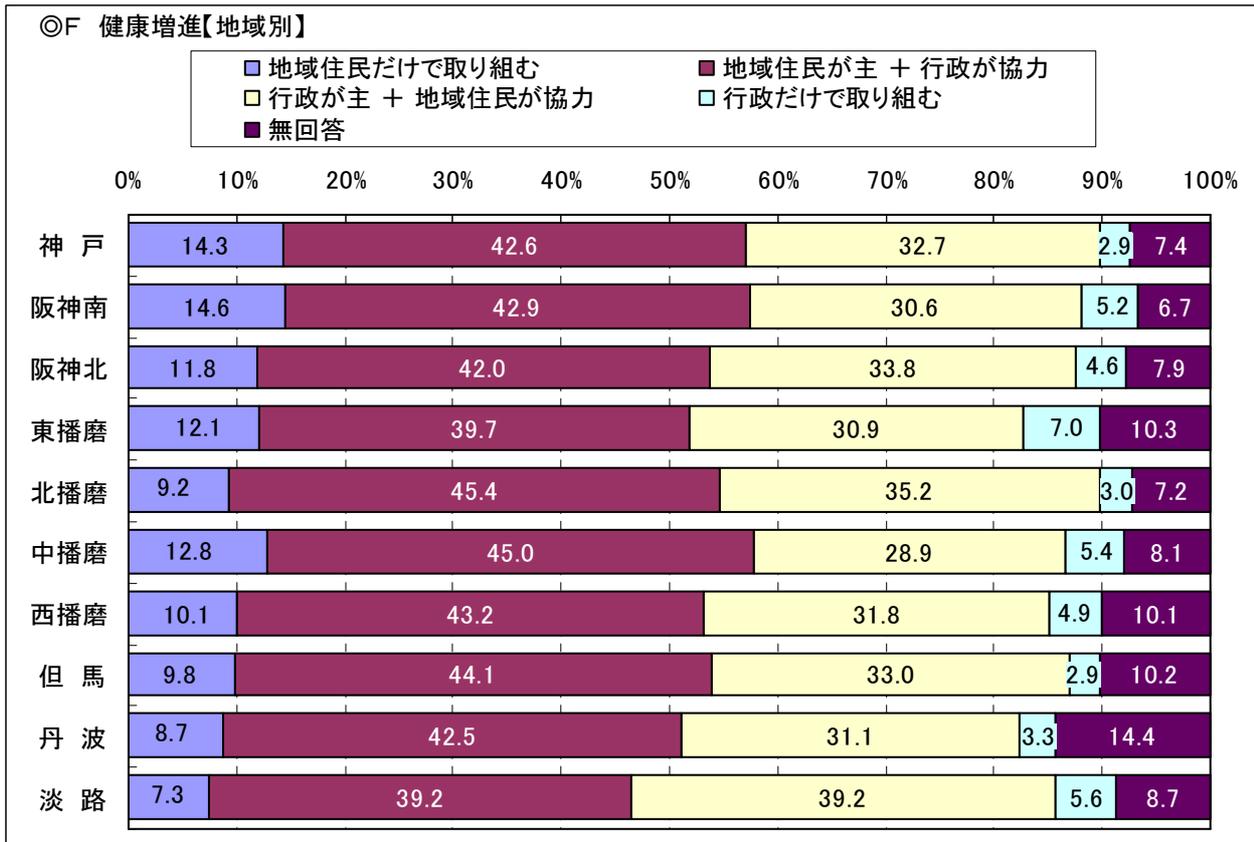
- 職業別では、大きな差はみられないが、「行政だけで取り組む」で、学生(0.8%)が他の職業に比べ低くなっており、反対に「行政が主+地域住民が協力」では学生(78.8%)が最も多くなっている。



◎ F 健康増進

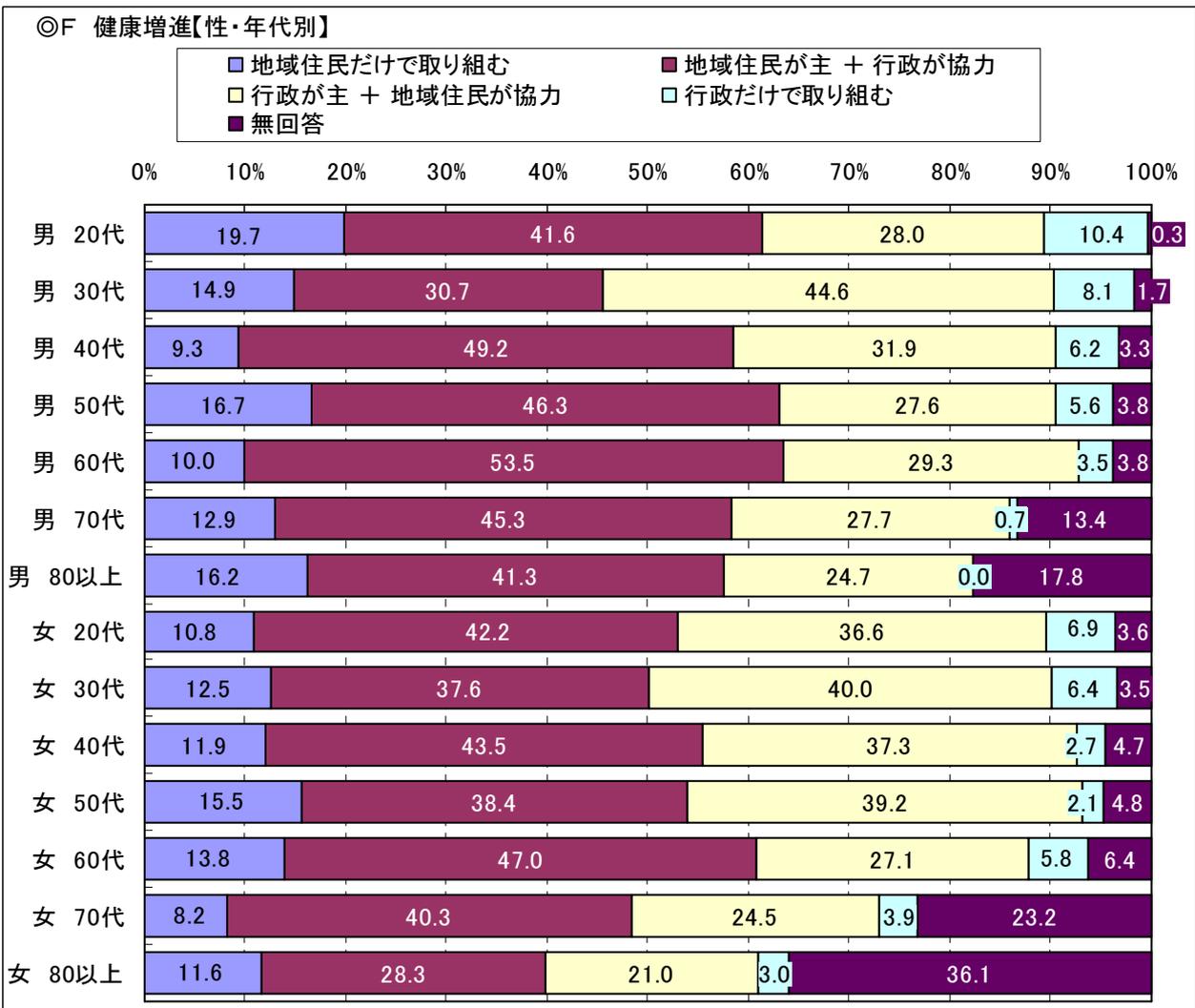
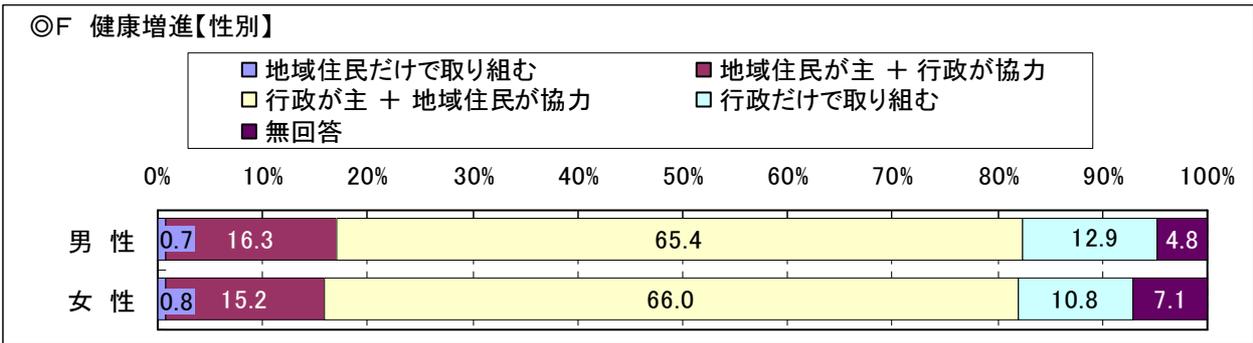
◆ 地域別

- 各地域で見ると、「地域住民だけで取り組む」で、阪神南(14.6%)が最も多く、神戸(14.3%)、中播磨(12.8%)、東播磨(12.1%)、阪神北(11.8%)、西播磨(10.1%)と1割を超え、その他の地域は1割を下回っている。また「行政だけで取り組む」では、最も多い東播磨(7.0%)をはじめ、全ての地域で1割を下回っている。
- 「地域住民が主+行政が協力」では、全ての地域で4割前後となっており、「行政が主+地域住民が協力」では、いずれの地域も概ね3割前後となっている。



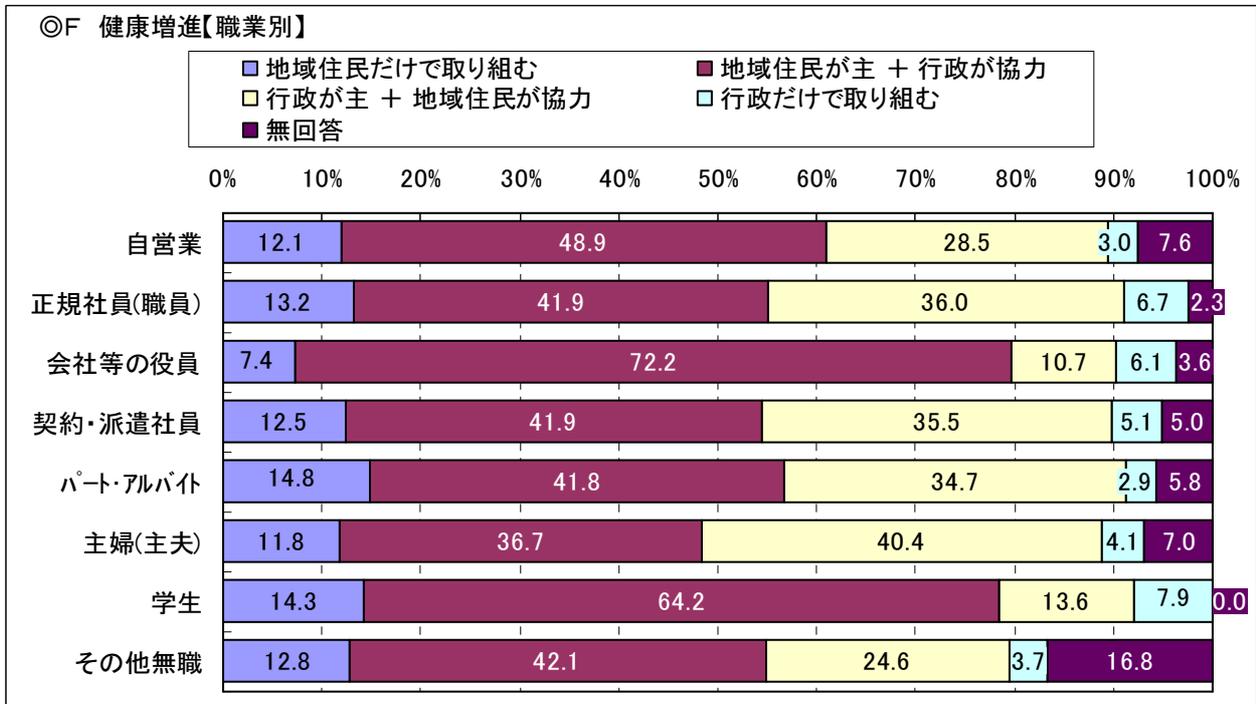
◆性別／性・年代別

- 性別では、特段の差はみられない。
- 性・年代別では、「地域住民だけで取り組む」をみると、男性で20代(19.7%)が最も多く、次いで50代(16.7%)、80歳以上(16.2%)と続き、40代(9.3%)以外は1割を上回っている。また、女性では、50代(15.5%)が最も多く、60代(13.8%)、30代(12.5%)と続き、70代(8.2%)以外は1割を上回っている。
- 一方、「行政だけで取り組む」では、男女とも20代(男10.4%、女6.9%)が最も多く、2番目も同様に30代(男8.1%、女6.4%)となっており、概ね若い世代で多く、年代が高くなるにつれ少なくなる傾向がみられる。



◆職業別

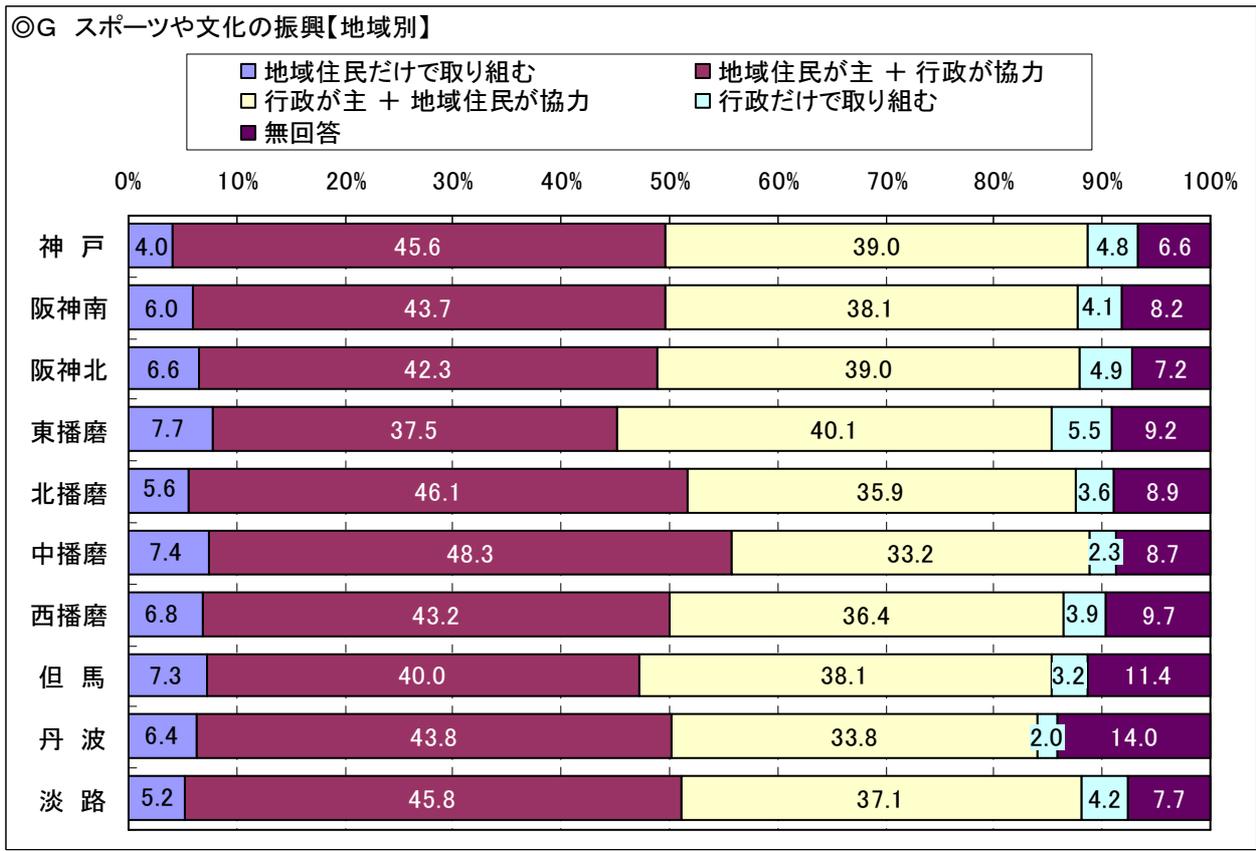
- 職業別をみると、「地域住民が主+行政が協力」では、会社等の役員(72.2%)が最も多く、学生(64.2%)とともに他の職業に比べ多くなっており、最も少ない主婦(主夫)(36.7%)と35.5ポイントの差が生じている。一方で、「地域住民だけで取り組む」では会社等の役員(7.4%)が最も少なくなっている。



◎G スポーツや文化の振興

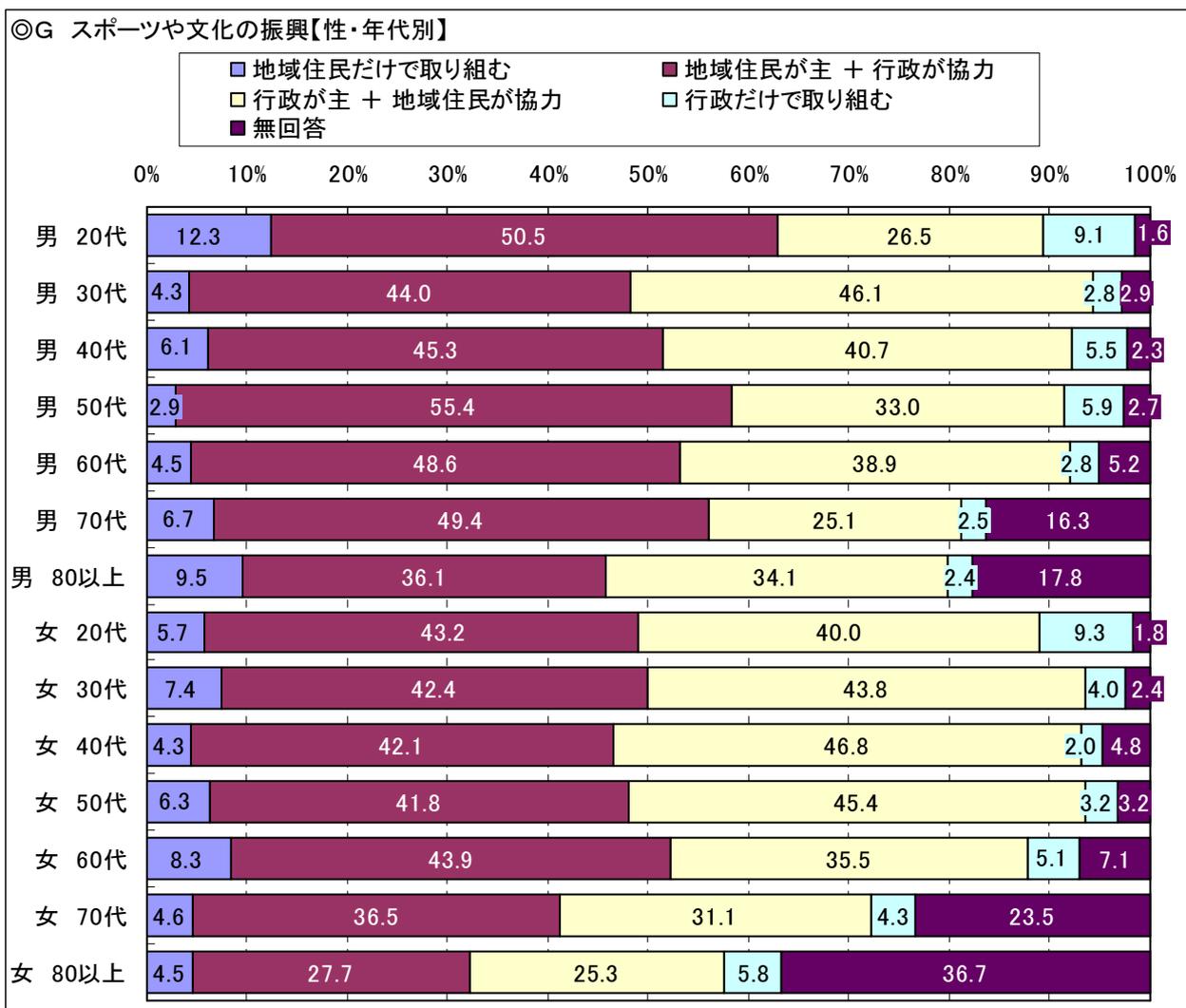
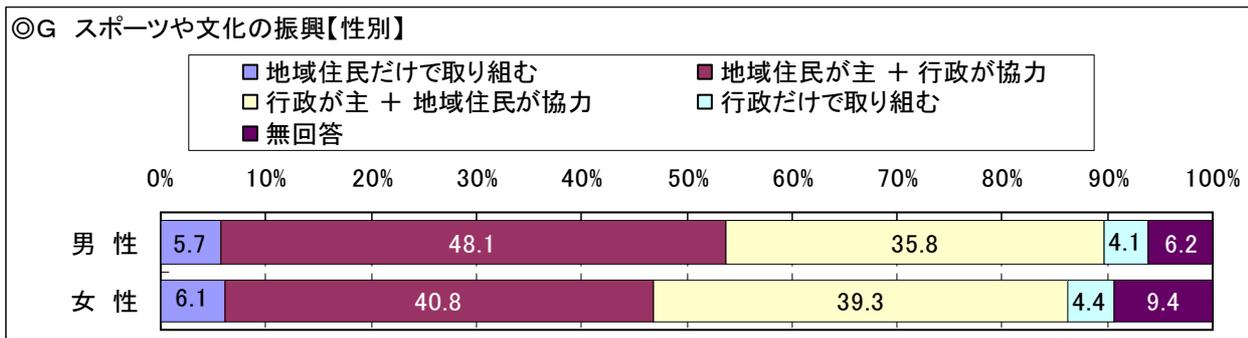
◆地域別

- 各地域とも、概ね同様の傾向がみられるが、「地域住民だけで取り組む」をみると、東播磨(7.7%)が最も多く、中播磨(7.4%)、但馬(7.3%)と続き、神戸(4.0%)が最も少なくなっている一方で、「行政だけで取り組む」でも東播磨(5.5%)が最も多く、阪神北(4.9%)、神戸(4.8%)と続き、丹波(2.0%)が最も少なくなっている。
- 「地域住民が主+行政が協力」をみると、東播磨(37.5%)を除き、いずれの地域も4割を上回っているが、「行政が主+地域住民が協力」では、東播磨(40.1%)のみ4割を超え、他の地域は3割台に止まっている。



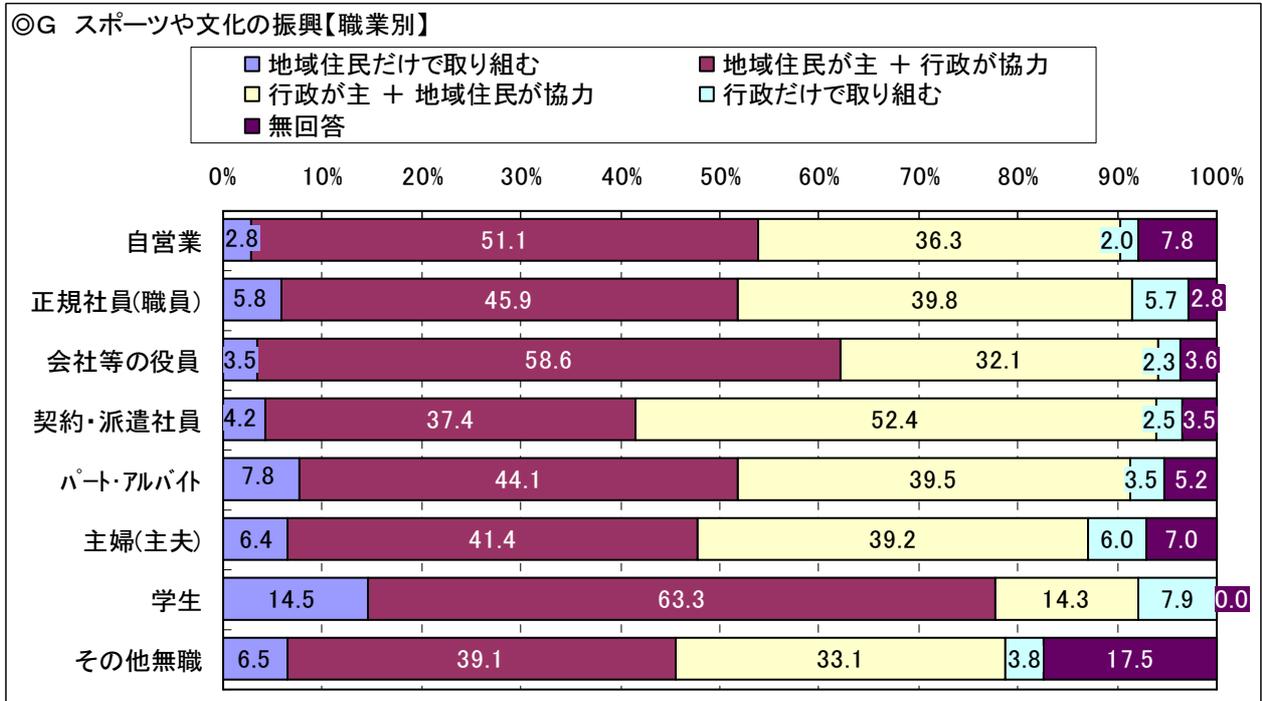
◆性別／性・年代別

- 性別で見ると、「地域住民が主+行政が協力」では、男性(48.1%)が女性(40.8%)を上回り7.3ポイントの差がみられる一方、「行政が主+地域住民が協力」では、女性(39.3%)が男性(35.8%)を上回り3.5ポイントの差が生じている。
- 性・年代別で見ると、男性では、「地域住民だけで取り組む」で、20代(12.3%)が最も多く、次いで80歳以上(9.5%)、70代(6.7%)と続く。また、「行政だけで取り組む」でも、20代(9.1%)が最も多くなっている。
- 一方、女性では、「地域住民だけで取り組む」で、60代(8.3%)が最も多く、次いで30代(7.4%)、50代(6.3%)と続く。また、「行政だけで取り組む」では、20代(9.3%)が最も多くなっている。



◆職業別

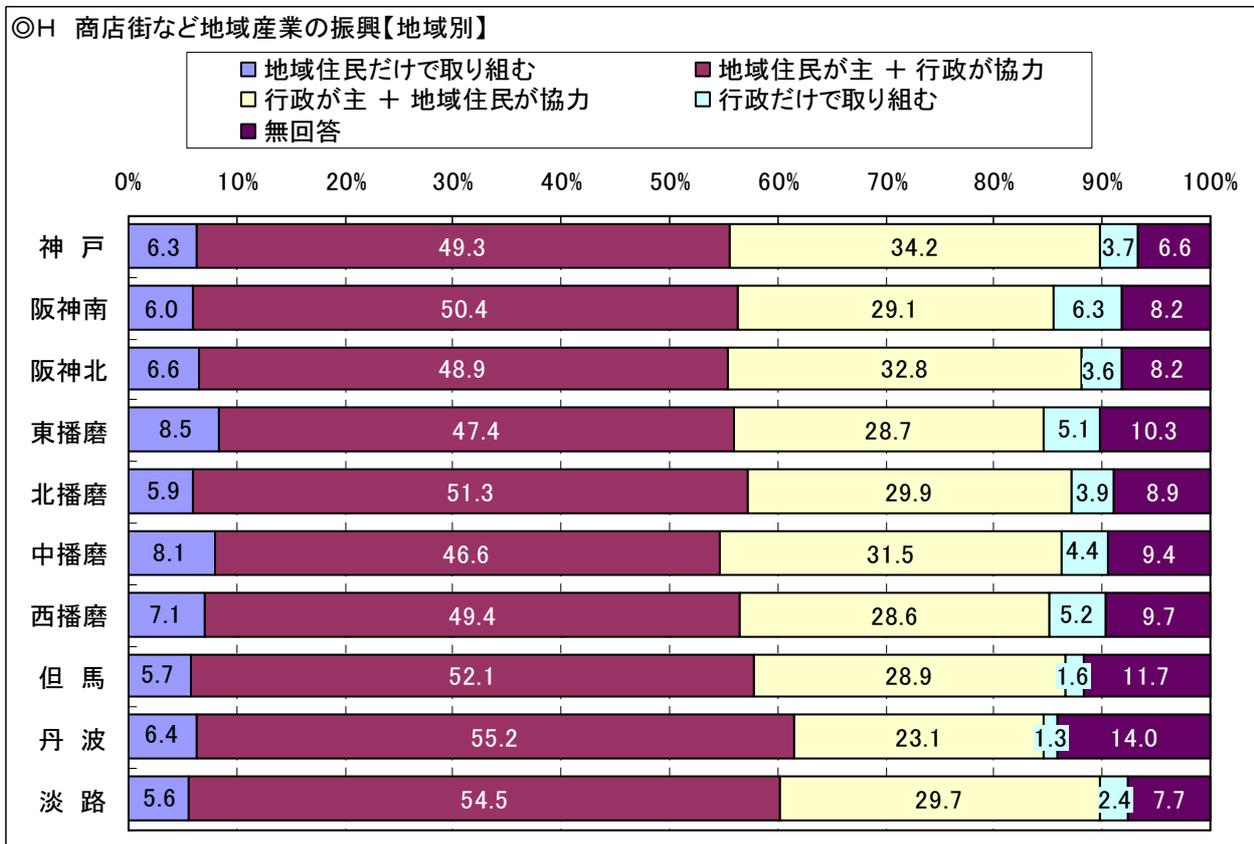
- 職業別をみると、「地域住民だけで取り組む」は、学生(14.5%)が1割台半ばに達し、他の職業に比べ多くなっており、最も少ない自営業(2.8%)と11.7ポイントの差が生じている。
- また、「地域住民が主+行政が協力」でも、学生(63.3%)が最も多くなっているが、「行政が主+地域住民が協力」では、学生(14.3%)が最も少なく、最も多くなっている契約・派遣社員(52.4%)と38.1ポイントの差が生じている。



◎H 商店街など地域産業の振興

◆地域別

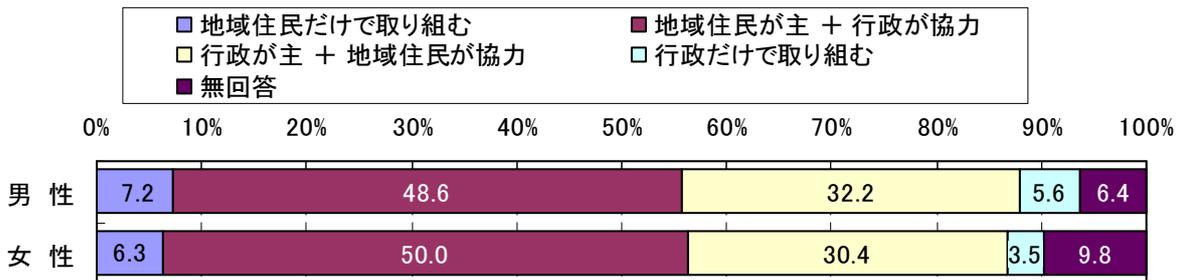
- 各地域とも、概ね同様の傾向で、「地域住民だけで取り組む」と「地域住民が主+行政が協力」を合わせると5割を超え、住民主体の割合が多い。
- 「地域住民だけで取り組む」をみると、東播磨(8.5%)、中播磨(8.1%)、西播磨(7.1%)が多くなっているが、「地域住民が主+行政が協力」では、丹波(55.2%)が最も多く5割台半ばとなっている。また「行政だけで取り組む」では、阪神南(6.3%)、西播磨(5.2%)、東播磨(5.1%)が多く、丹波(1.3%)が最も少なくなっている。
- 「地域住民が主+行政が協力」では、いずれの地域も概ね4割台後半から5割台半ばであり、また、「行政が主+地域住民が協力」をみると、同様にいずれの地域も概ね2割台後半から3割台半ばとなっている。



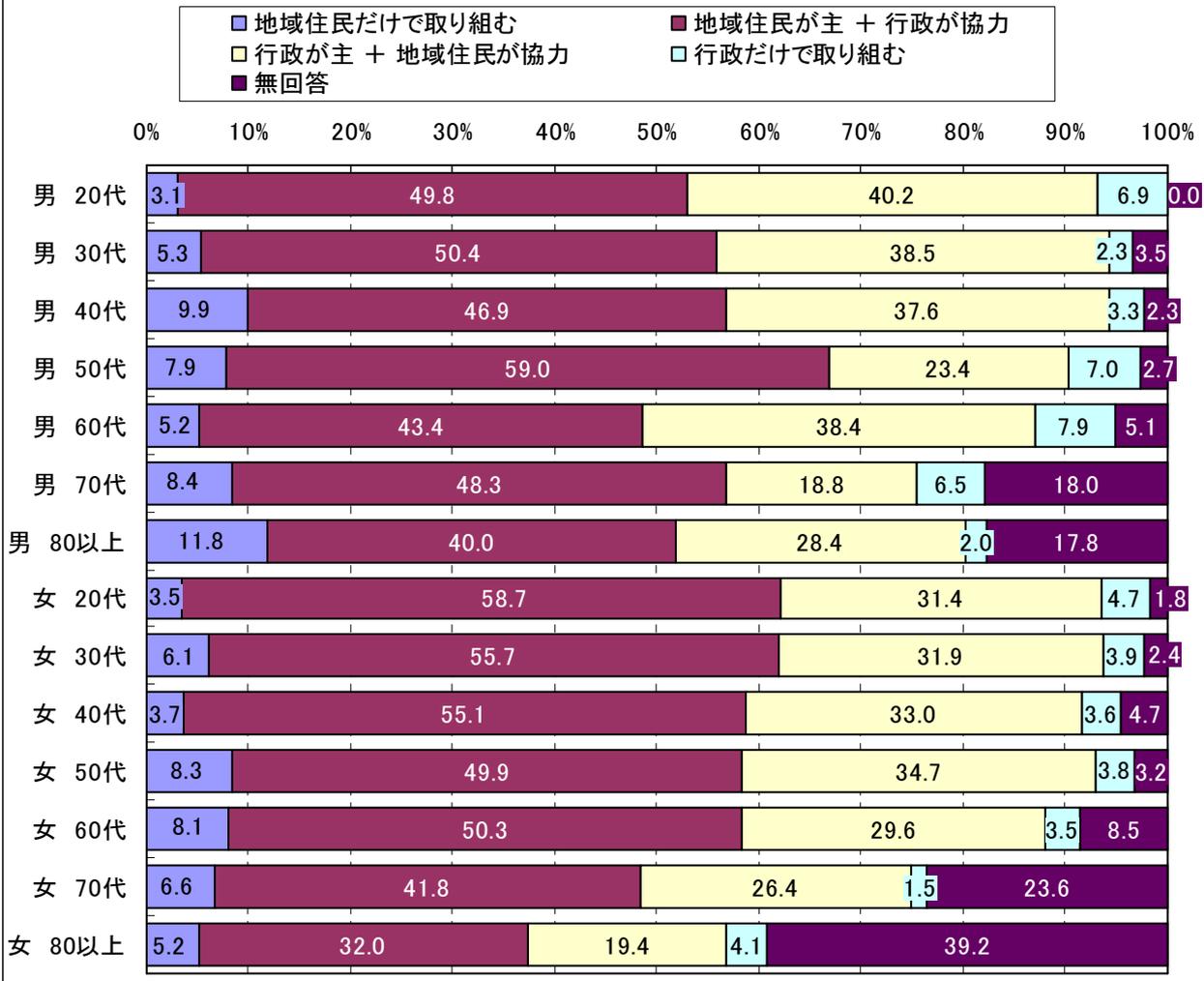
◆性別／性・年代別

- 性別では、特段の差はみられない。
- 性・年代別で見ると、「地域住民だけで取り組む」で、男性では、80 歳以上(11.8%)が最も多く、40代(9.9%)、50代(7.9%)と続く。一方、女性では、50代(8.3%)が最も多く、60代(8.1%)、70代(6.6%)が多くなっている。
- 「地域住民が主+行政が協力」で、男性では、50代(59.0%)で約6割と多いが、他の世代では概ね4割台となっている。女性では、20代(58.7%)、30代(55.7%)、40代(55.1%)、60代(50.3%)が5割を上回っている。

◎H 商店街など地域産業の振興【性別】



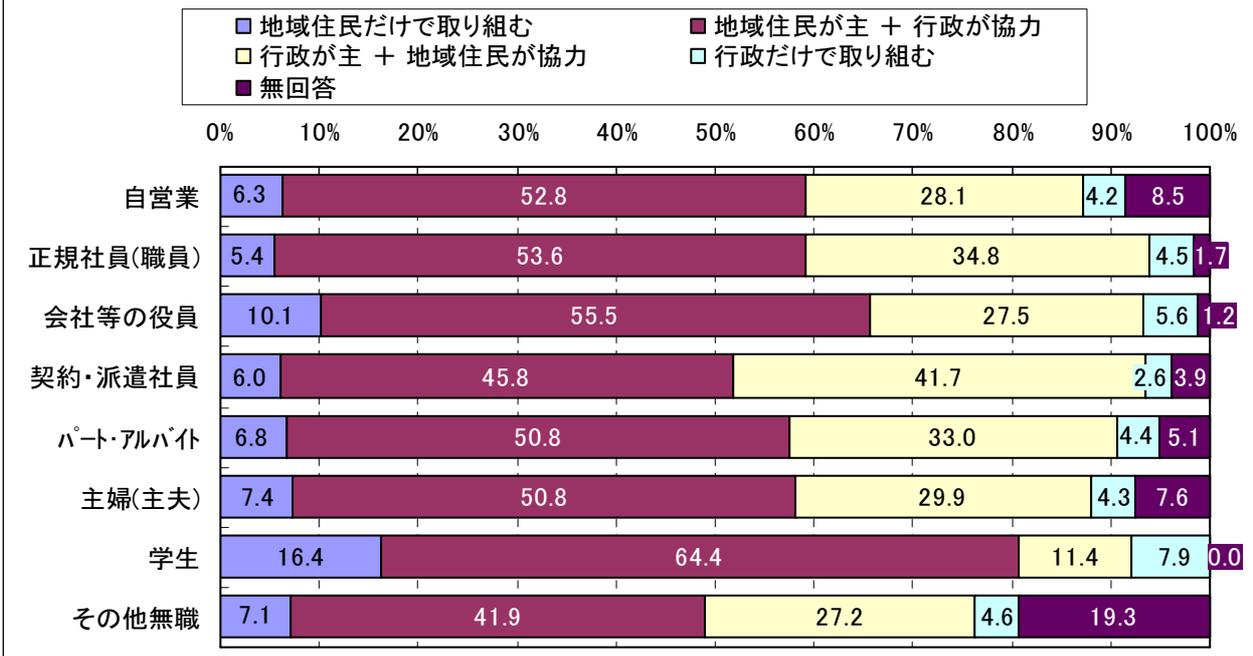
◎H 商店街など地域産業の振興【性・年代別】



◆職業別

- 職業別をみると、「地域住民だけで取り組む」では、学生(16.4%)が最も多く、会社等の役員(10.1%)も約1割と多くなっている。一方、「行政だけで取り組む」でも同様に、学生(7.9%)が最も多く、次いで会社等の役員(5.6%)が多くなっている。
- 「地域住民が主+行政が協力」では、学生(64.4%)が多く6割台半ばとなっており、最も少ないその他無職(41.9%)と22.5ポイントの差が生じている。
- 「行政が主+地域住民が協力」では、契約・派遣社員(41.7%)が4割を上回るが、他の職業は、2割台後半から3割台前半が多く、学生(11.4%)が最も少なくなっている。

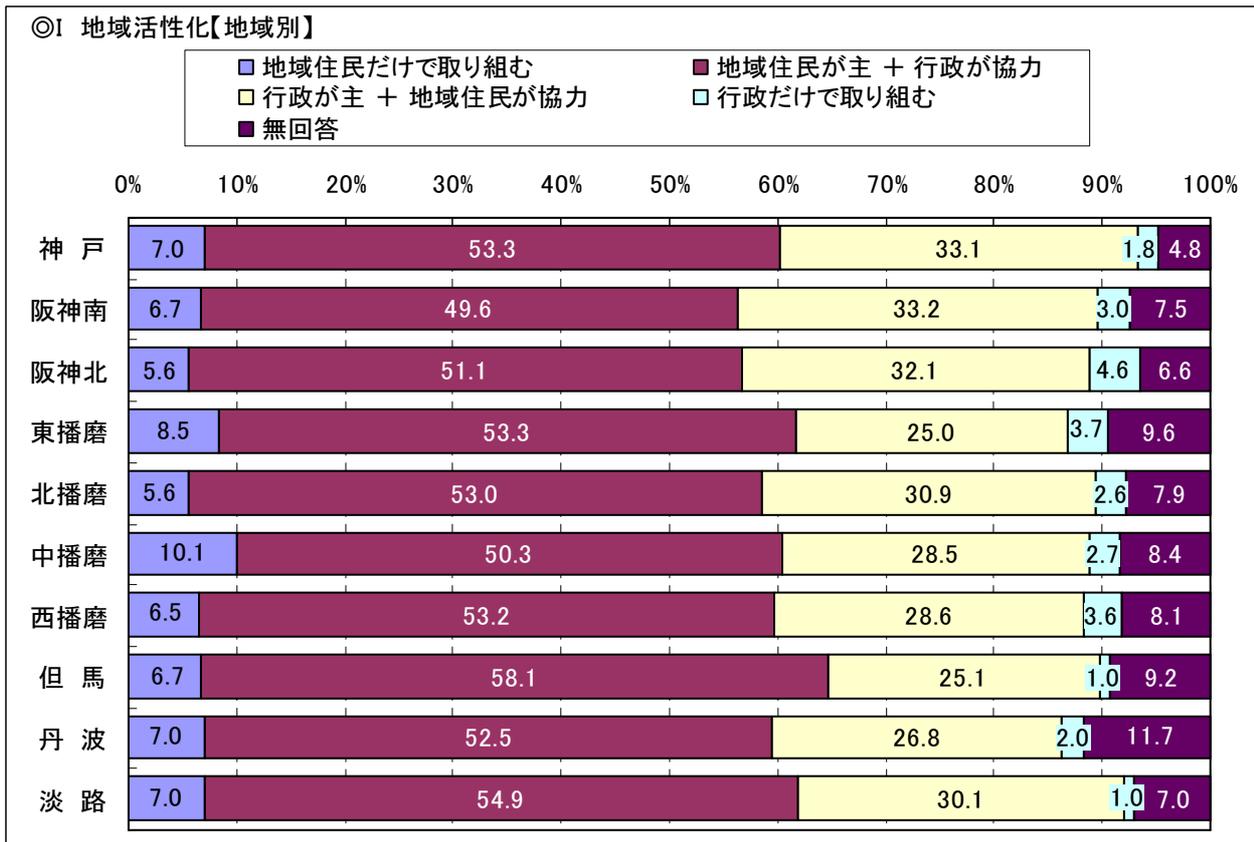
◎H 商店街など地域産業の振興【職業別】



◎ I 地域活性化

◆地域別

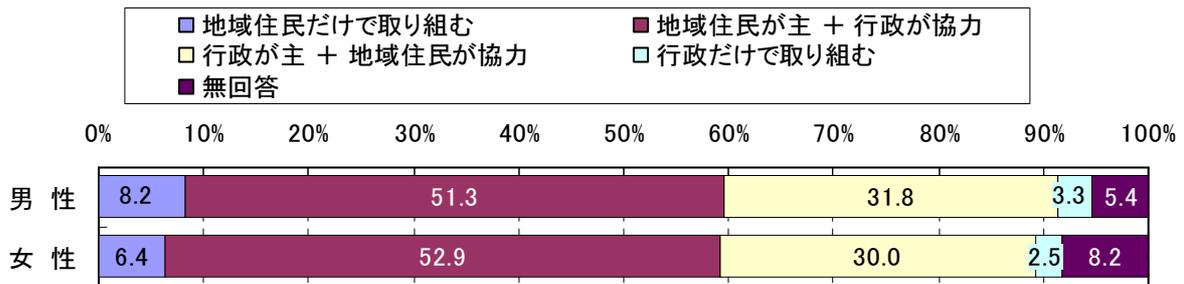
- 各地域とも、「地域住民だけで取り組む」と「地域住民が主+行政が協力」を合わせると6割前後となり、住民主体の傾向が強い。
- 「地域住民だけで取り組む」では、中播磨(10.1%)で1割を超えるほか、次いで東播磨(8.5%)と続くほか、「地域住民が主+行政が協力」をみると、最も多い但馬(58.1%)で6割弱、最も少ない阪神南(49.6%)でも約5割で、その他の地域も概ね5割前半となっている。



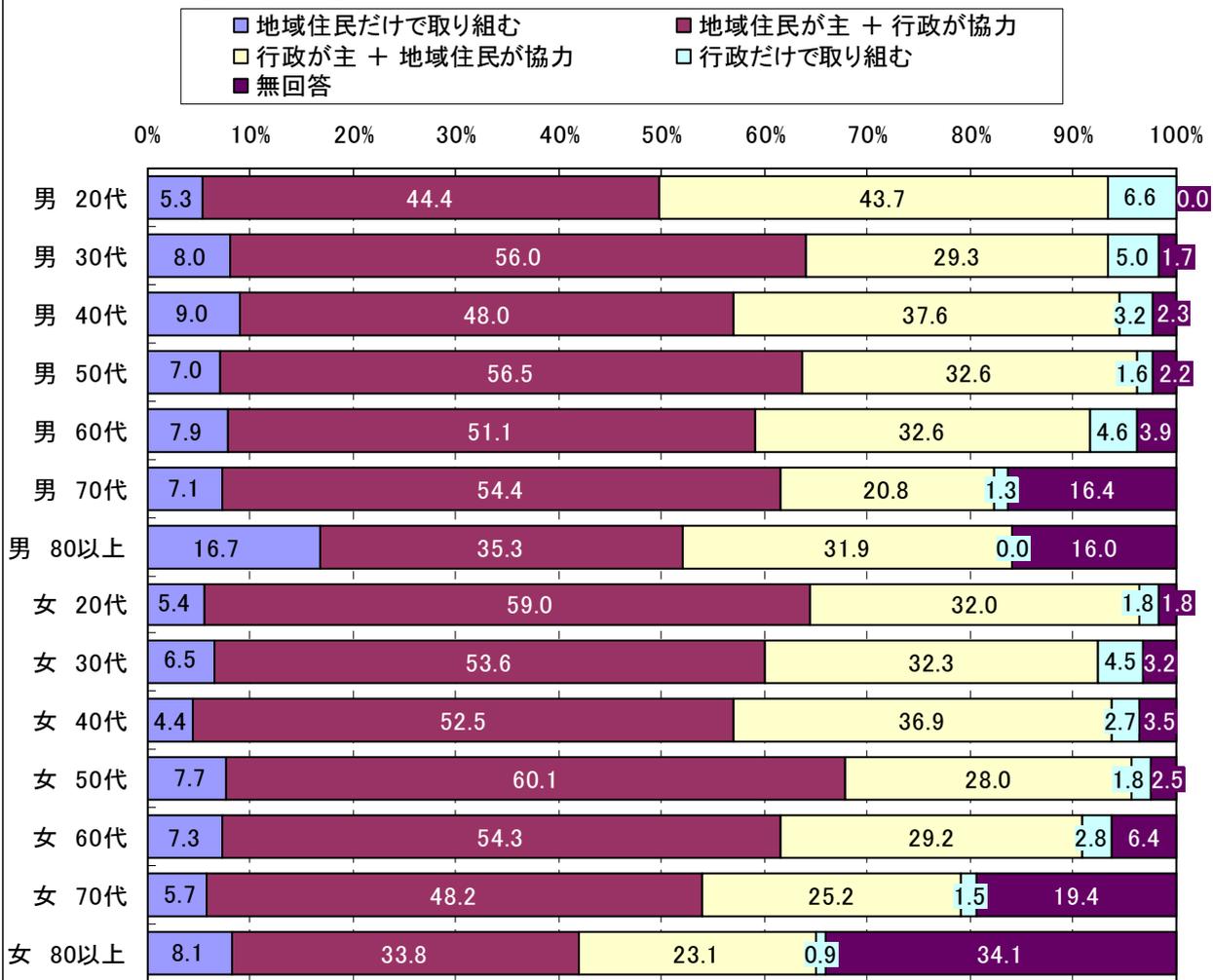
◆性別／性・年代別

- 性別では、特段の差はみられない。
- 性・年代別でみると、男女とも、「地域住民だけで取り組む」では、80歳以上(男 16.7%、女 8.1%)が最も多くなっている。
- 「地域住民が主+行政が協力」では、男性が50代(56.5%)で最も多く、30代(56.0%)、70代(54.4%)、60代(51.1%)で5割を上回る。一方、女性でも50代(60.1%)が6割を超え最も多く、20代(59.0%)、60代(54.3%)、30代(53.6%)、40代(52.5%)の順に多くなっている。

◎I 地域活性化【性別】



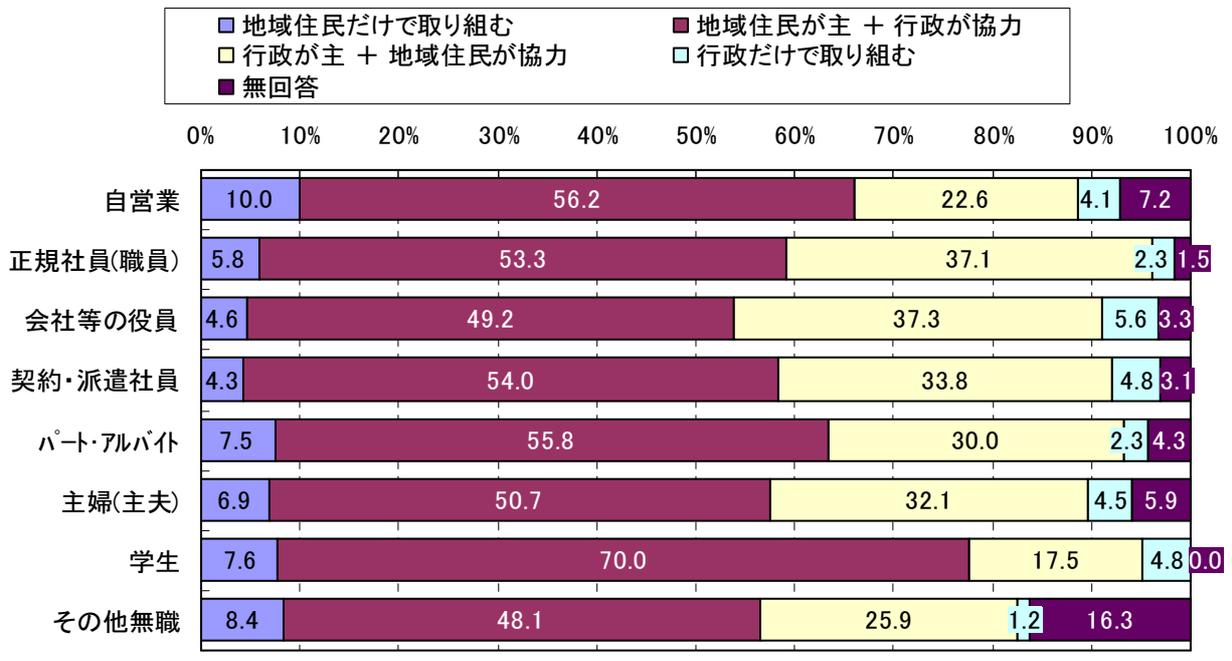
◎I 地域活性化【性・年代別】



◆職業別

- 職業別をみると、「地域住民だけで取り組む」は、自営業(10.0%)が1割を超え、最も多くなっている一方で、契約・派遣社員(4.3%)、会社等の役員(4.6%)は他の職業に比べ少なくなっている。
- 「地域住民が主+行政が協力」では、学生(70.0%)が7割を超え他の職業と比較して多くなっている一方で、「行政が主+地域住民が協力」では、会社等の役員(37.3%)が最も多く、学生(17.5%)が最も少なくなっている。

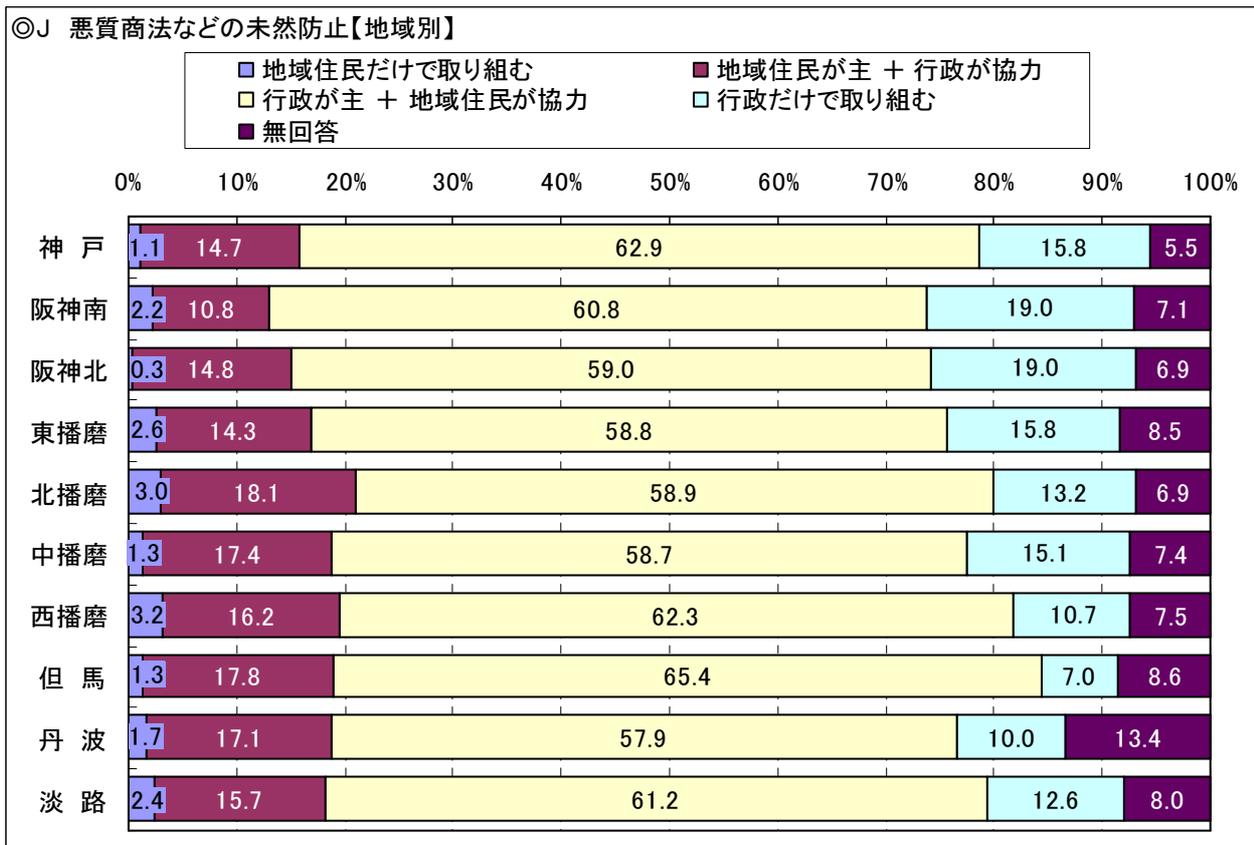
◎I 地域活性化【職業別】



◎J 悪質商法などの未然防止

◆地域別

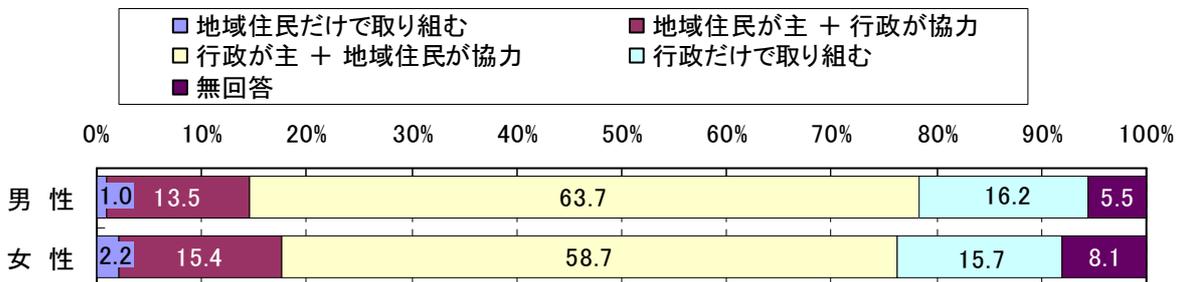
- 各地域とも、「行政だけで取り組む」と「行政が主+地域住民が協力」を合わせると7割前後となり、行政主体の割合が多い
- 「行政だけで取り組む」では、阪神南と阪神北(ともに19.0%)がいずれも2割弱と多く、次いで神戸と東播磨(ともに15.8%)が1割台半ばで続いているが、最も少ない但馬(7.0%)を除きいずれも1割を上回っている。
- 「行政が主+地域住民が協力」をみると、但馬(65.4%)が最も多く、神戸(62.9%)、西播磨(62.3%)、淡路(61.2%)、阪神南(60.8%)で6割を超えているほか、他の地域でも5割台後半となっている。



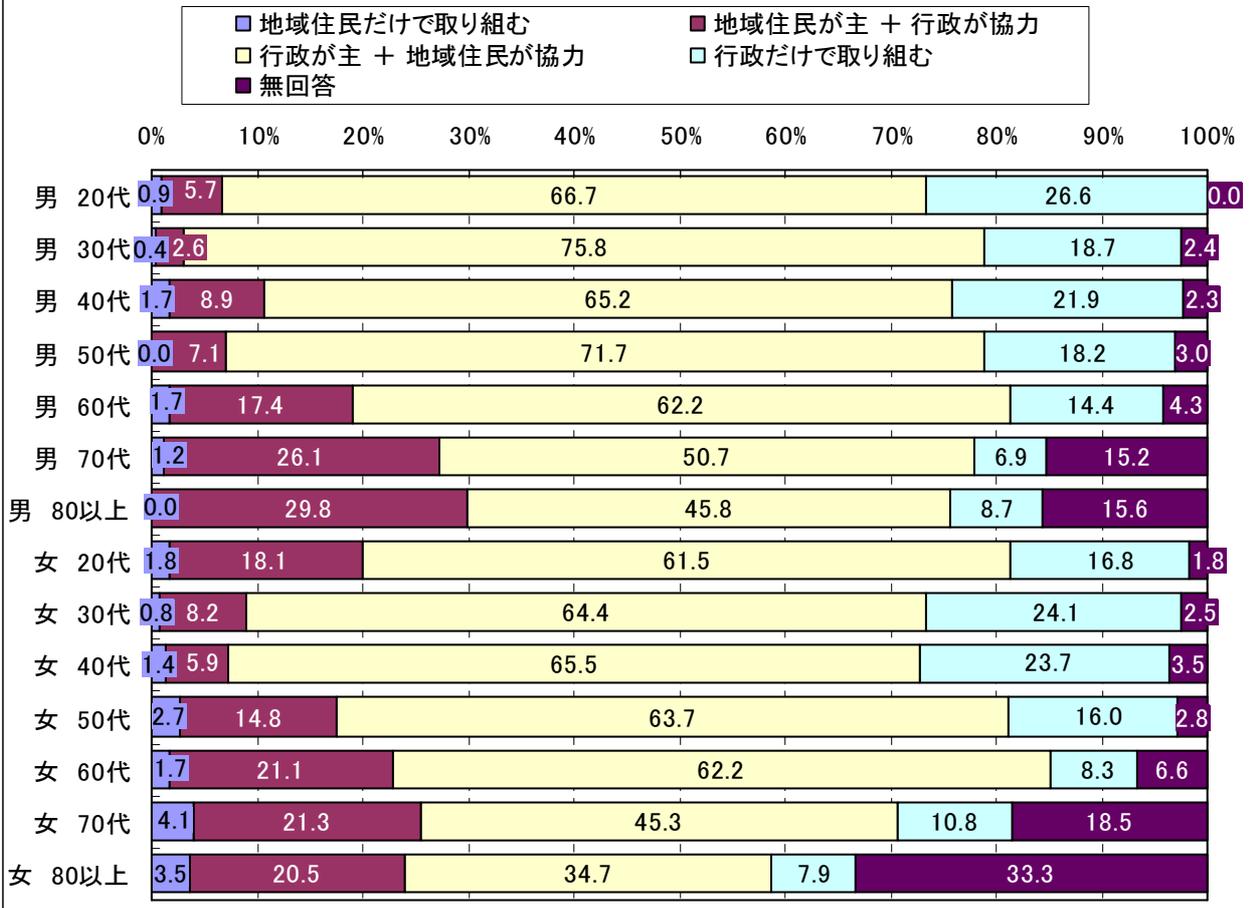
◆性別／性・年代別

- 性別をみると、「行政だけで取り組む」（男 16.2%、女 15.7%）、「行政が主＋地域住民が協力」（男 63.7%、女 58.7%）と、いずれも女性より男性が多くなっている。
- 性・年代別でみると、「行政だけで取り組む」で、男性は、20代(26.6%)が最も多く、40代(21.9%)、30代(18.7%)と続く一方、80歳以上(8.7%)、70代(6.9%)が少なくなっている。女性でも同様に、30代(24.1%)、40代(23.7%)、20代(16.8%)が多く、80歳以上(7.9%)、70代(10.8%)が少なくなっている。
- 「行政が主＋地域住民が協力」でも、男性が30代(75.8%)で最も多く、50代(71.7%)、20代(66.7%)と続き、70以上(50.7%)、80歳以上(45.8%)が少なくなっている一方で、女性でも40代(65.5%)、30代(64.4%)が多く、80歳以上(34.7%)、70代(45.3%)が少なくなっている。

◎J 悪質商法などの未然防止【性別】

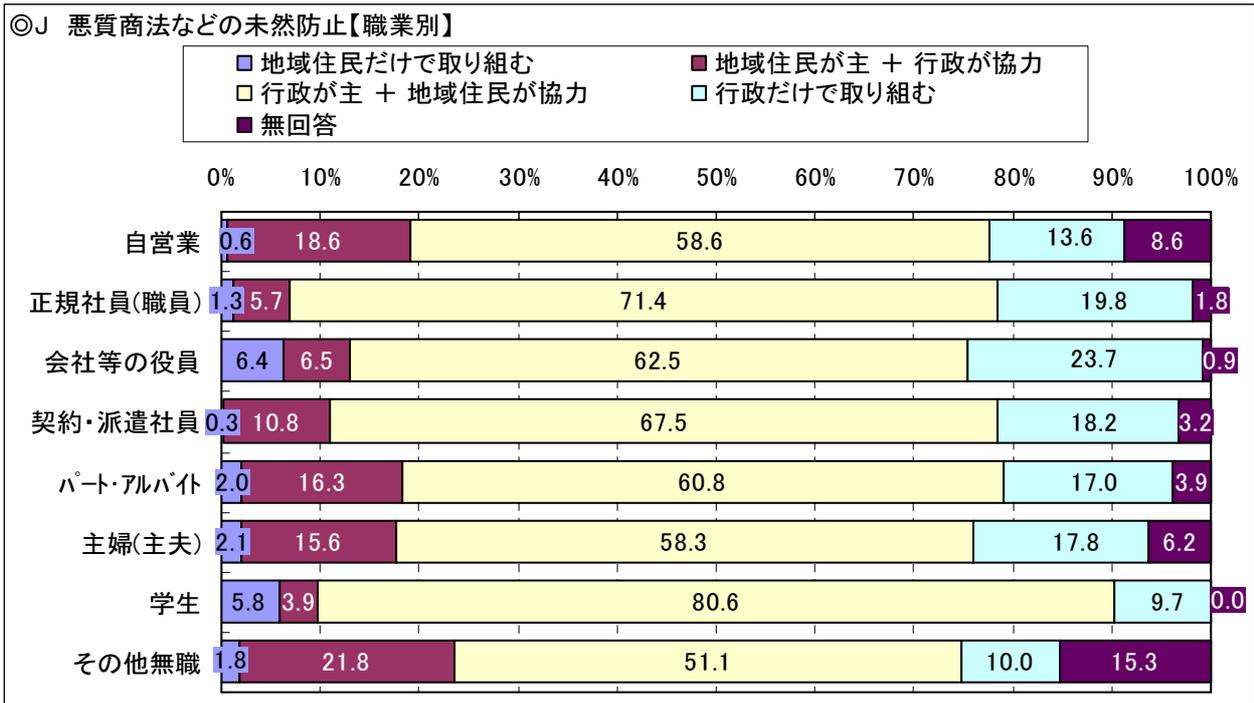


◎J 悪質商法などの未然防止【性・年代別】



◆職業別

- 職業別をみると、「地域住民だけで取り組む」では、会社等の役員(6.4%)、学生(5.8%)が多く、最も少ないのは契約・派遣社員(0.3%)となっている。また、「地域住民が主+行政が協力」では、その他無職(21.8%)、自営業(18.6%)が2割前後と多く、最も少ないのは学生(3.9%)となっている。
- 「行政だけで取り組む」では、会社等の役員(23.7%)、正規社員(職員)(19.8%)が2割前後で多く、最も少ないのは、学生(9.7%)となっている。また、「行政が主+地域住民が協力」では、学生(80.6%)が最も多く8割を超え、正規社員(職員)(71.4%)も7割を超えているが、その他無職(51.1%)は5割強に止まっている。



(2)個人や家庭に関する課題への関与

問8 児童虐待や一人暮らしの高齢者の孤立などといった個人や家庭に関わる課題について、行政や周囲の住民はどの程度関与すべきだと思いますか。それぞれについて、あなたの考えに最も近いものを1つ選んでその番号に○印をつけて下さい。

行政機関は

- 1 当事者からの求めがない限り、関与すべきでない
- 2 当事者からの求めがなくても、事実関係を調査すべき
- 3 当事者からの求めがなくても、積極的に介入すべき
- 4 どちらとも言えない

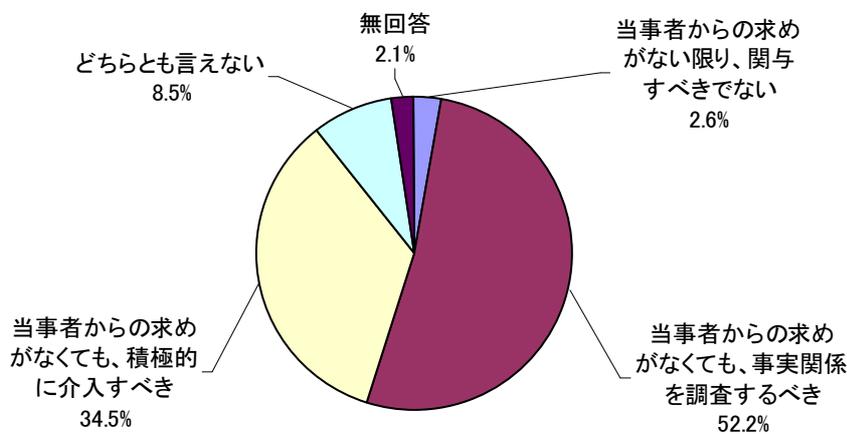
周囲の住民は

- 1 当事者からの求めがない限り、関与すべきではない
- 2 当事者からの求めがなくても、行政に連絡をするなどの対応をすべき
- 3 当事者からの求めがなくても、直接手助けをするなどの対応をすべき
- 4 どちらとも言えない

◎ **【行政機関は】**

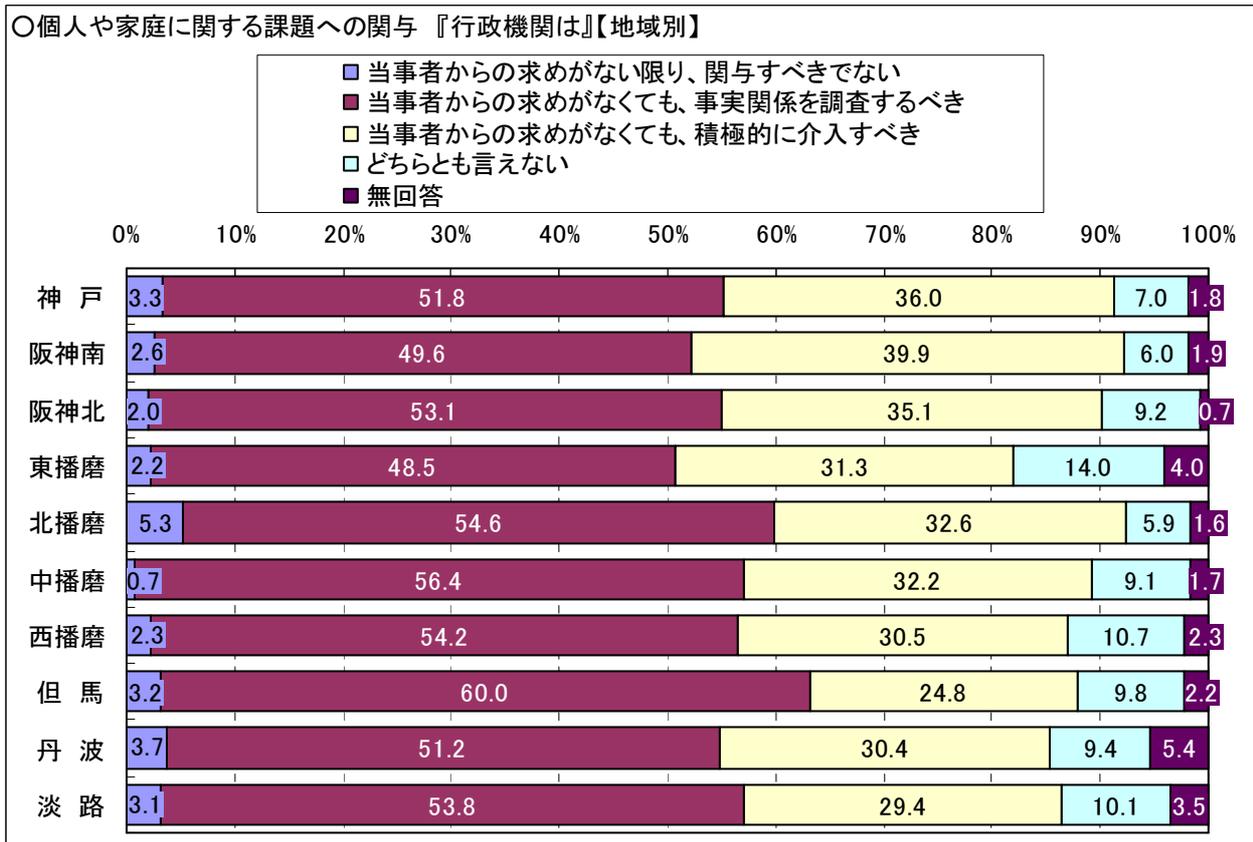
- 「当事者からの求めがなくても、事実関係を調査すべき」(52.2%)が5割を超え、「当事者からの求めがなくても、積極的に関与すべき」(34.5%)を合わせると8割台後半に達する。また、1割に満たないが、「どちらとも言えない」(8.5%)との意見もみられる。

○個人や家庭に関する課題への関与 『行政機関は』



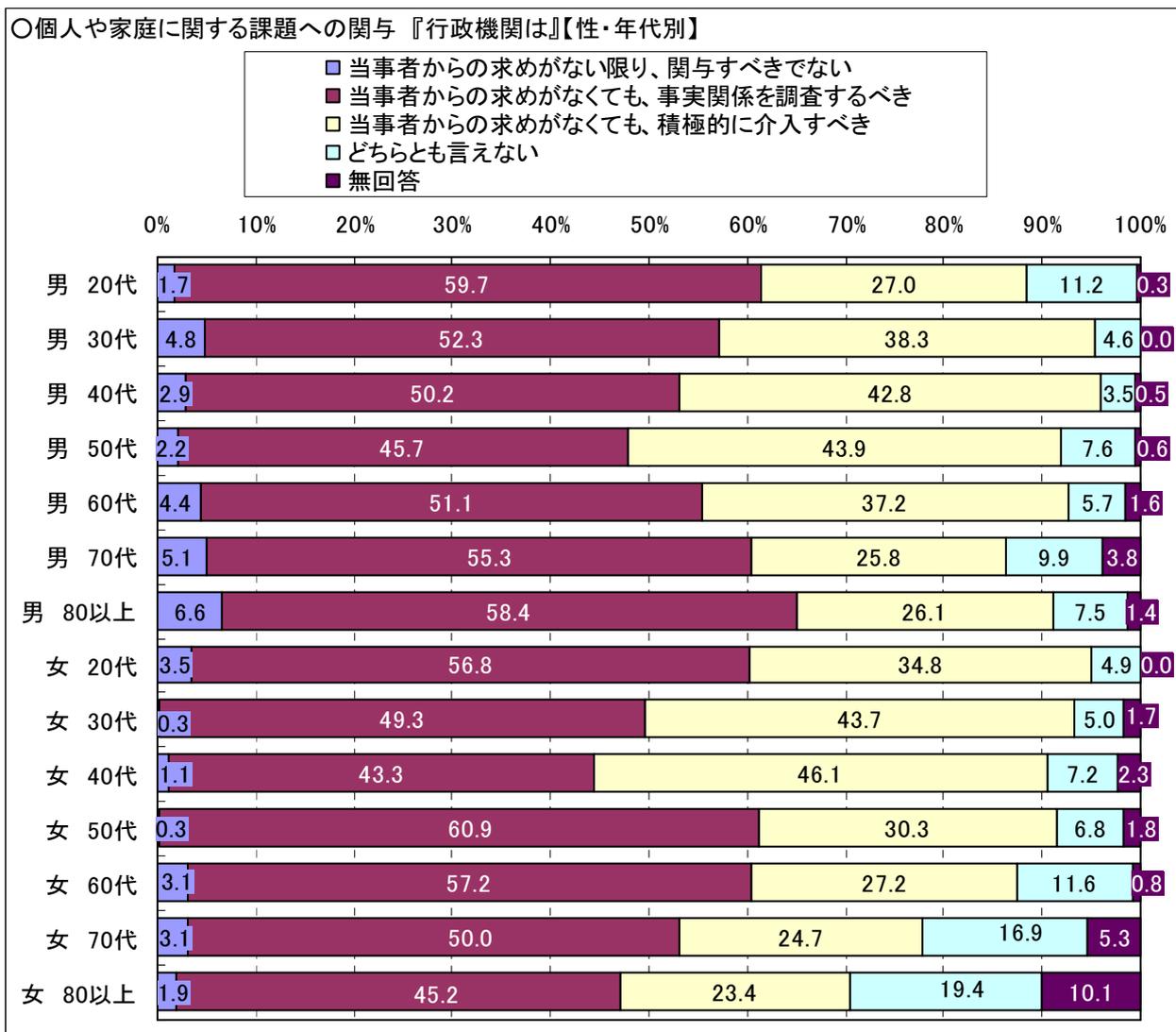
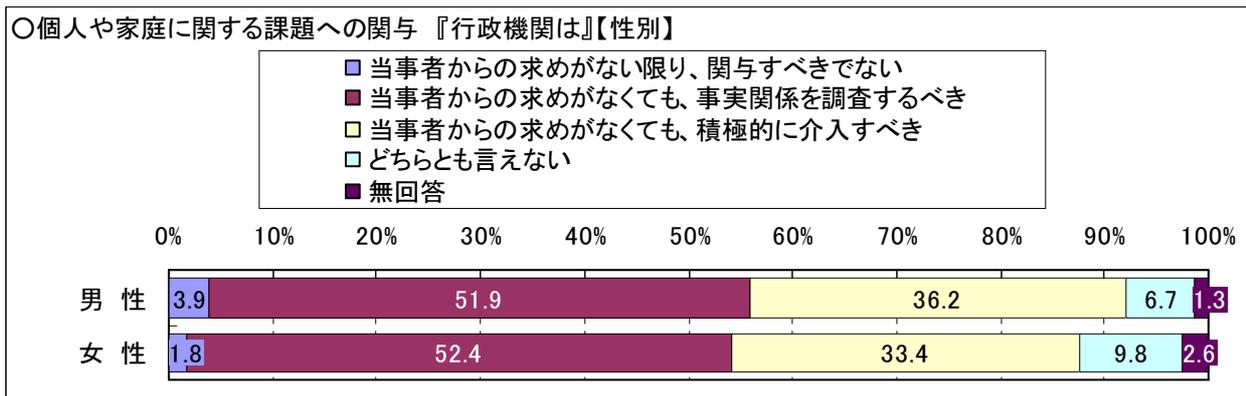
◆地域別

- 地域別で見ると、「当事者からの求めがなくても、事実関係を調査すべき」では、但馬(60.0%)で最も多く6割を超え、中播磨(56.4%)、北播磨(54.6%)と順に続いており、最も少ない東播磨(48.5%)でも5割弱となっている。
- また、「当事者からの求めがなくても、積極的に介入すべき」では、阪神南(39.9%)、神戸(36.0%)、阪神北(35.1%)と阪神間が多く、一方で、西播磨(30.5%)、丹波(30.4%)、淡路(29.4%)、但馬(24.8%)はわずかに少なくなっている。



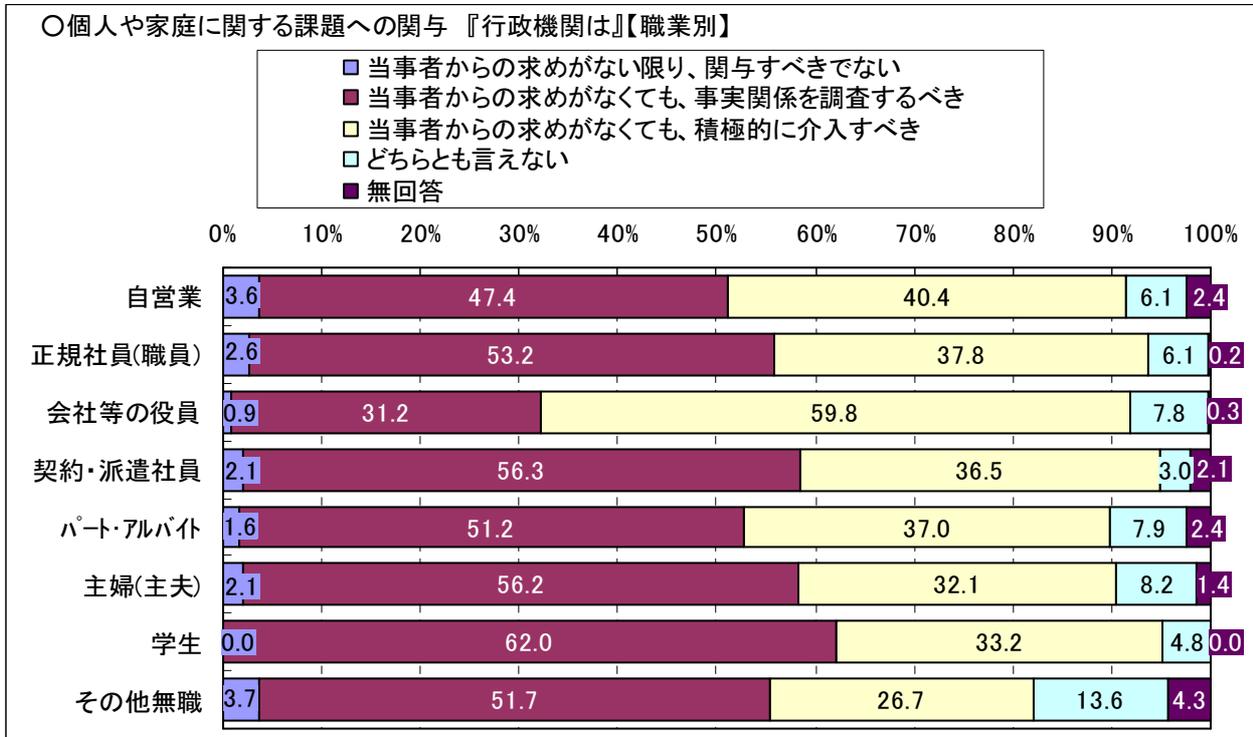
◆性別／性・年代別

- 性別では、大きな差はみられないが、「どちらとも言えない」では、女性(9.8%)が男性(6.7%)をわずかに上回っている。
- 性・年代別でみると、「当事者からの求めがない限り、関与すべきでない」で、男性は80歳以上(6.6%)が最も多く、70代(5.1%)、30代(4.8%)と続いており、20代(男1.7%、女3.5%)を除き、30代以上の全ての年代で女性を上回っている。
- 「当事者からの求めがなくても、事実関係を調査すべき」では、男性は50代(45.7%)を除き、他の年代では5割を超えており、女性では50代(60.9%)で6割を超えているが、30～40代と80歳以上で4割台に止まっている。



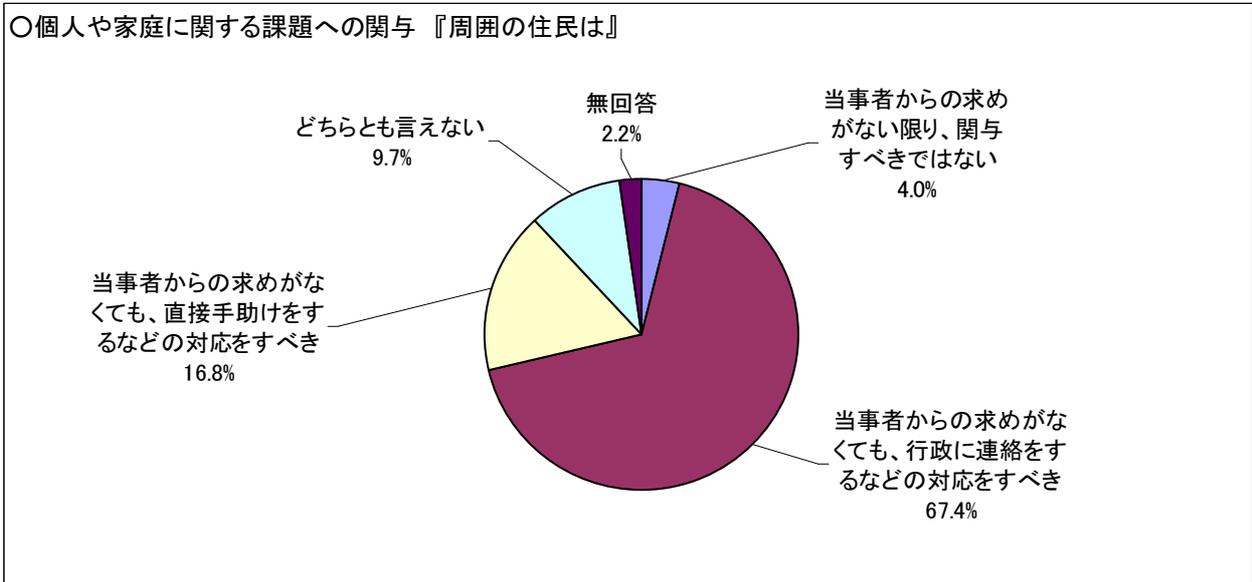
◆職業別

- 職業別をみると、「当事者からの求めがなくとも、積極的に介入すべき」で、会社等の役員(59.8%)が約6割と最も多く、その他無職(26.7%)で最も少なくなっている。
- 「どちらとも言えない」では、その他無職(13.6%)が最も多く、1割を上回っている。



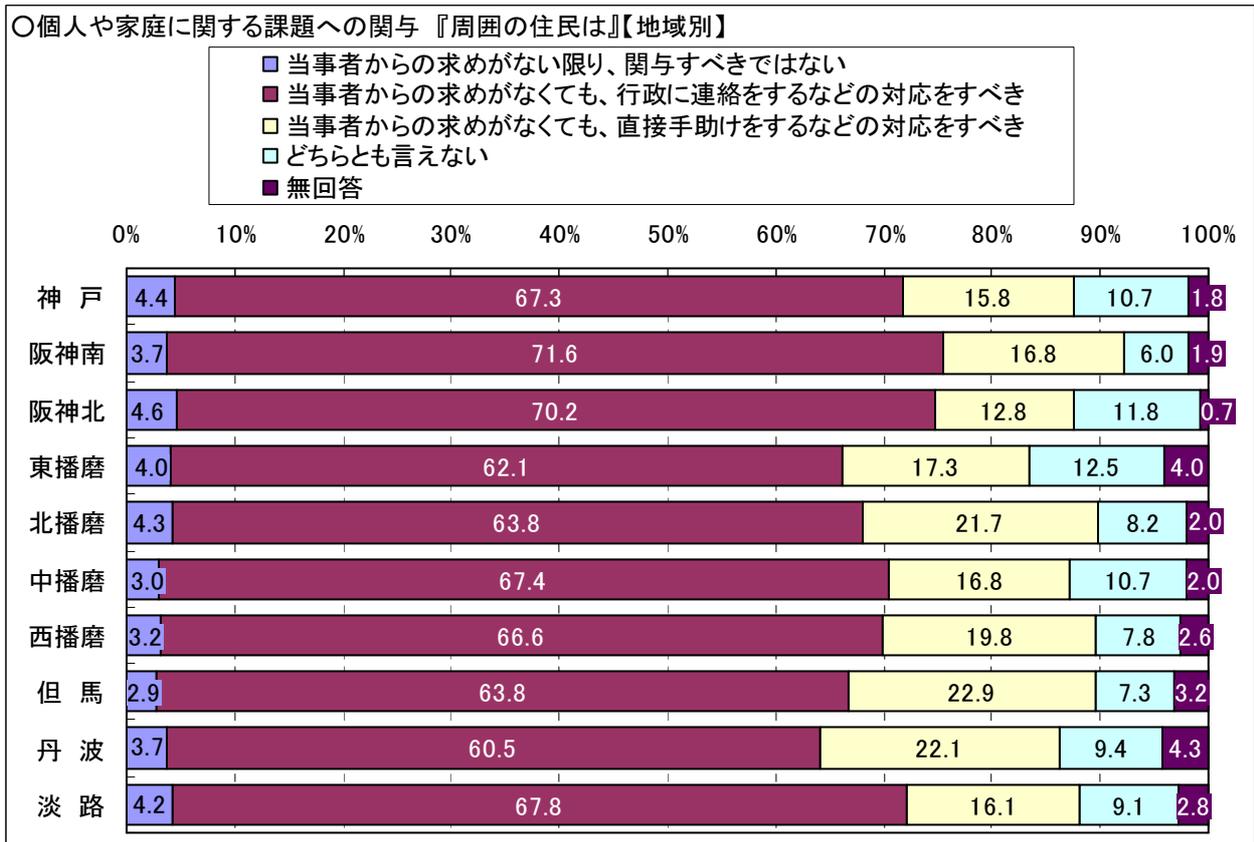
◎ 【周囲の住民は】

- 「当事者からの求めがなくても、行政に連絡するなどの対応をすべき」(67.4%)が6割台後半と最も多く、次いで「当事者からの求めがなくても、直接手助けをするなどの対応をすべき」(16.8%)と続いている。また、「どちらとも言えない」(9.7%)も約1割みられる。



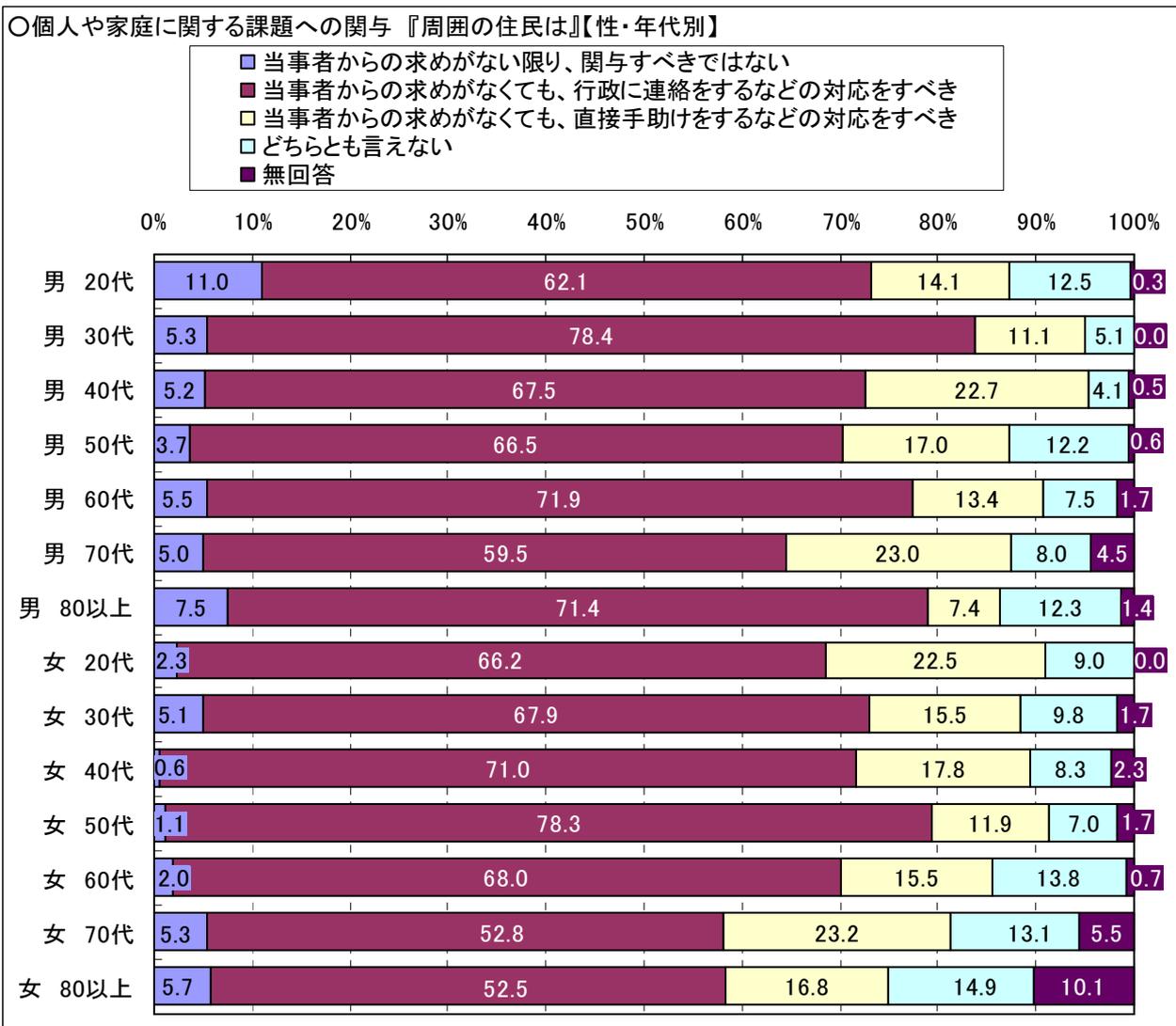
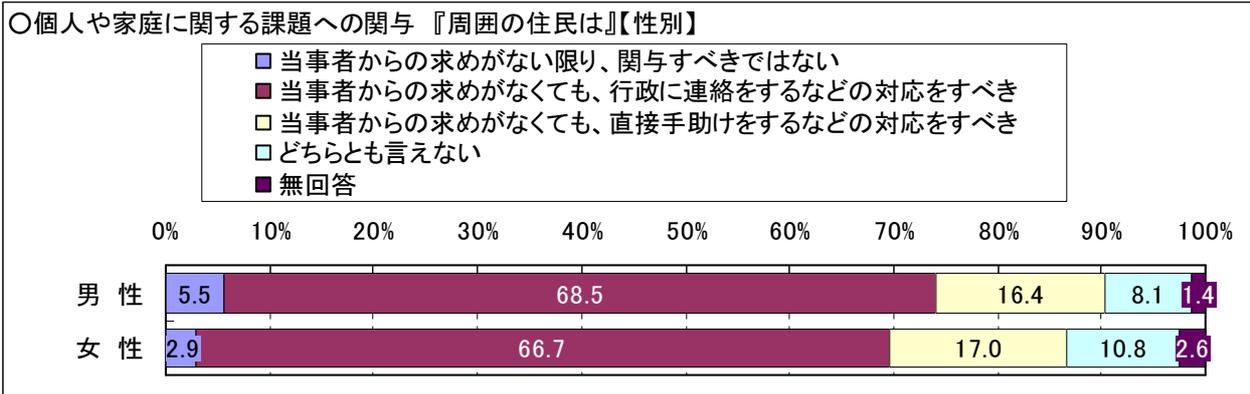
◆地域別

- 地域別でみると、「当事者からの求めがない限り、関与すべきではない」では、大きな差はみられない。また、「当事者からの求めがなくても、行政に連絡をするなどの対応をすべき」では、阪神南(71.6%)、阪神北(70.2%)で7割を上回るほか、いずれの地域も6割台となっている。
- 一方、「当事者からの求めがなくても、直接手助けをするなどの対応をすべき」では、但馬(22.9%)、丹波(22.1%)、北播磨(21.7%)で2割を超え多くなっているが、阪神北(12.8%)、神戸(15.8%)、淡路(16.1%)では、1割台前半から半ばに止まっている。



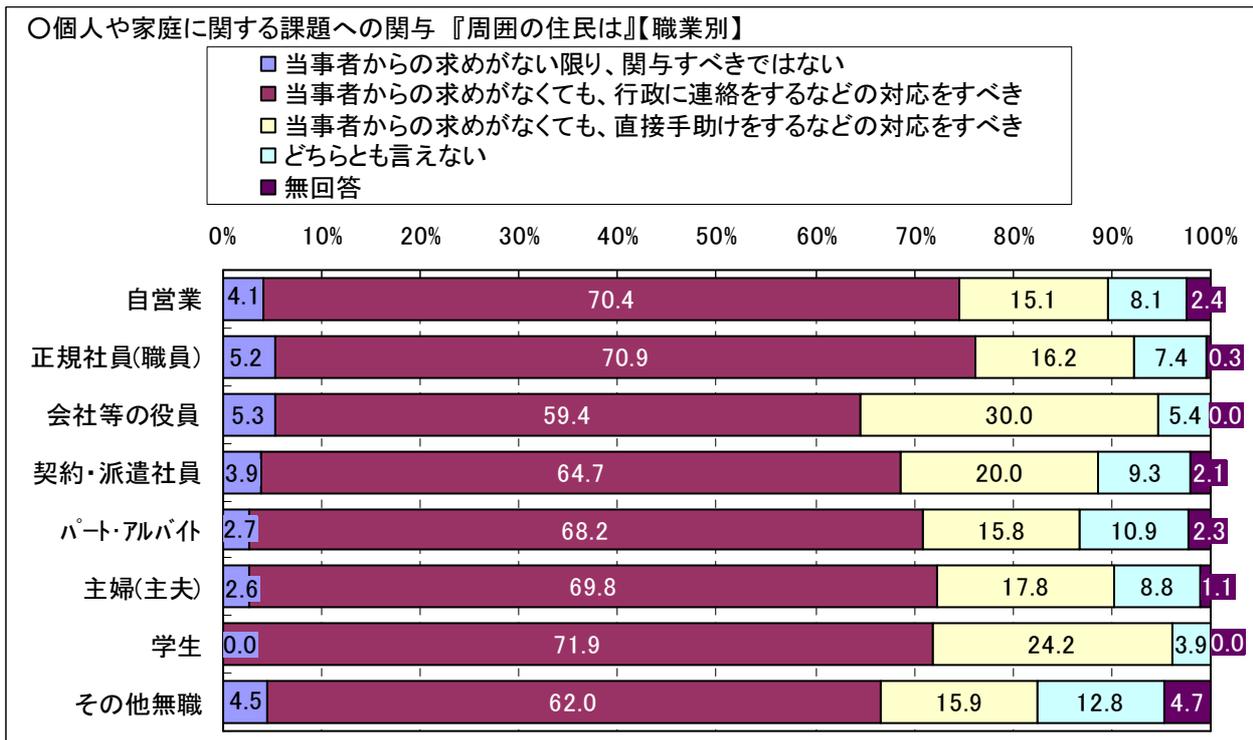
◆性別／性・年代別

- 性別では、大きな差はみられないが、「当事者からの求めがない限り、関与すべきではない」で、男性(5.5%)が女性(2.9%)をわずかに上回っている。
- 性・年代別で見ると、「当事者からの求めがない限り、関与すべきでない」で、男性の20代(11.0%)が1割を上回っているほか、70代を除き全ての世代で女性より男性が多くなっている。
- 「当事者からの求めがなくても、行政に連絡をするなどの対応をすべき」をみると、男性では、30代(78.4%)が最も多く、60代(71.9%)、80歳以上(71.4%)が7割を上回っている。一方、女性では、50代(78.3%)が最も多く、40代(71.0%)も7割を上回っているが、80歳以上(52.5%)、70代(52.8%)では、5割台前半に留まっている。



◆職業別

- 職業別をみると、「当事者からの求めがない限り、関与すべきでない」で、会社等の役員(5.3%)、正規社員(職員)(5.2%)が多くなっている一方、学生(0.0%)には該当がない。
- 一方で、「当事者からの求めがなくても、行政に連絡をするなどの対応をすべき」では、学生(71.9%)が最も多くなっており、正規社員(職員)(70.9%)、自営業(70.4%)も7割を上回っている。
- また、「当事者からの求めがなくても、直接手助けをするなどの対応をすべき」では、会社等の役員(30.0%)のみ3割に達し最も多くなっており、最も少ない自営業(15.1%)の約2倍となっている。



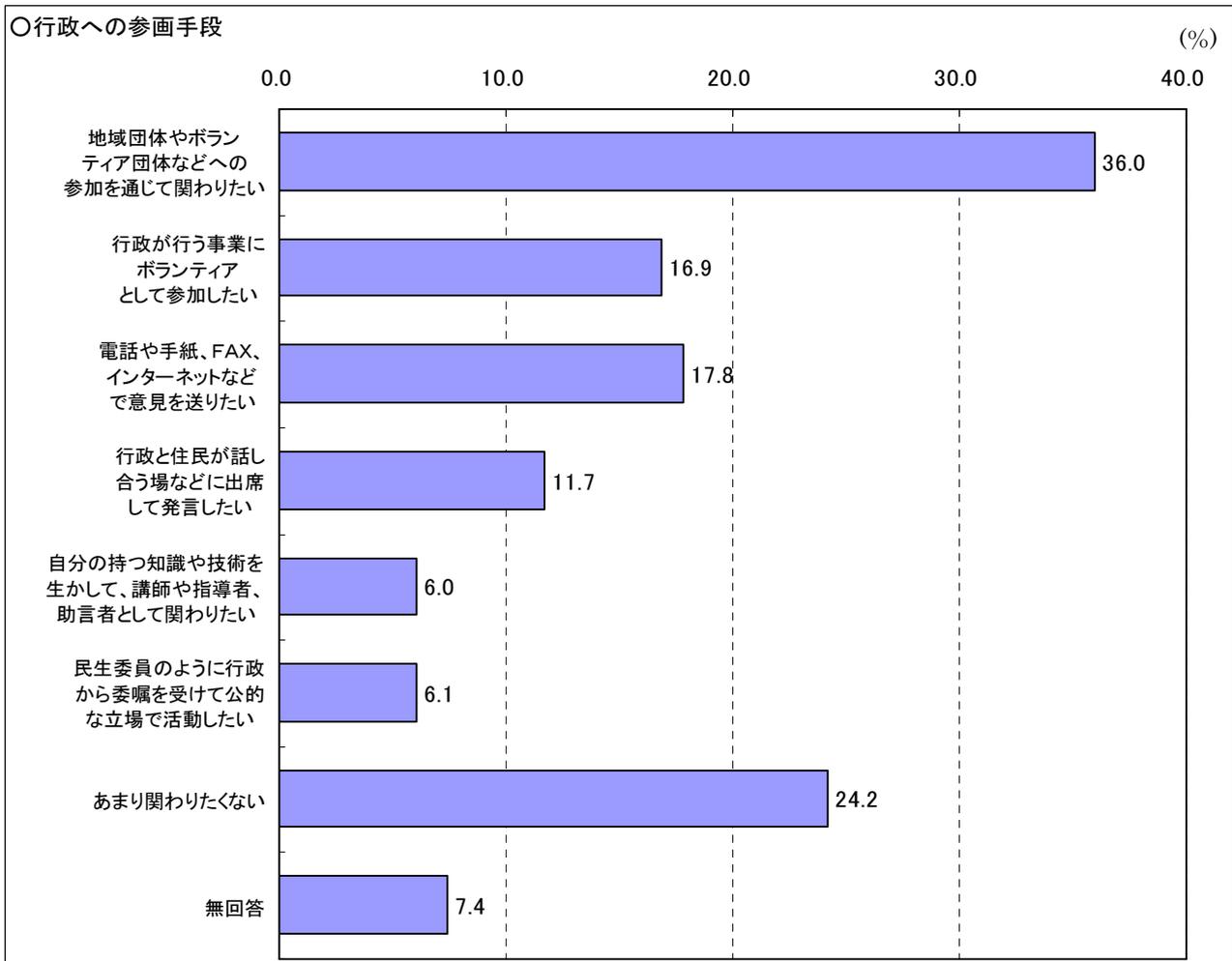
3 行政との関わり

(1) 行政への参画手段

問9 あなたは、お住まいの地域の問題を解決するために、行政と力をあわせて取り組む場合、どのように取り組みたいと思いますか。当てはまるもの全てを選んで番号に○印をつけて下さい。

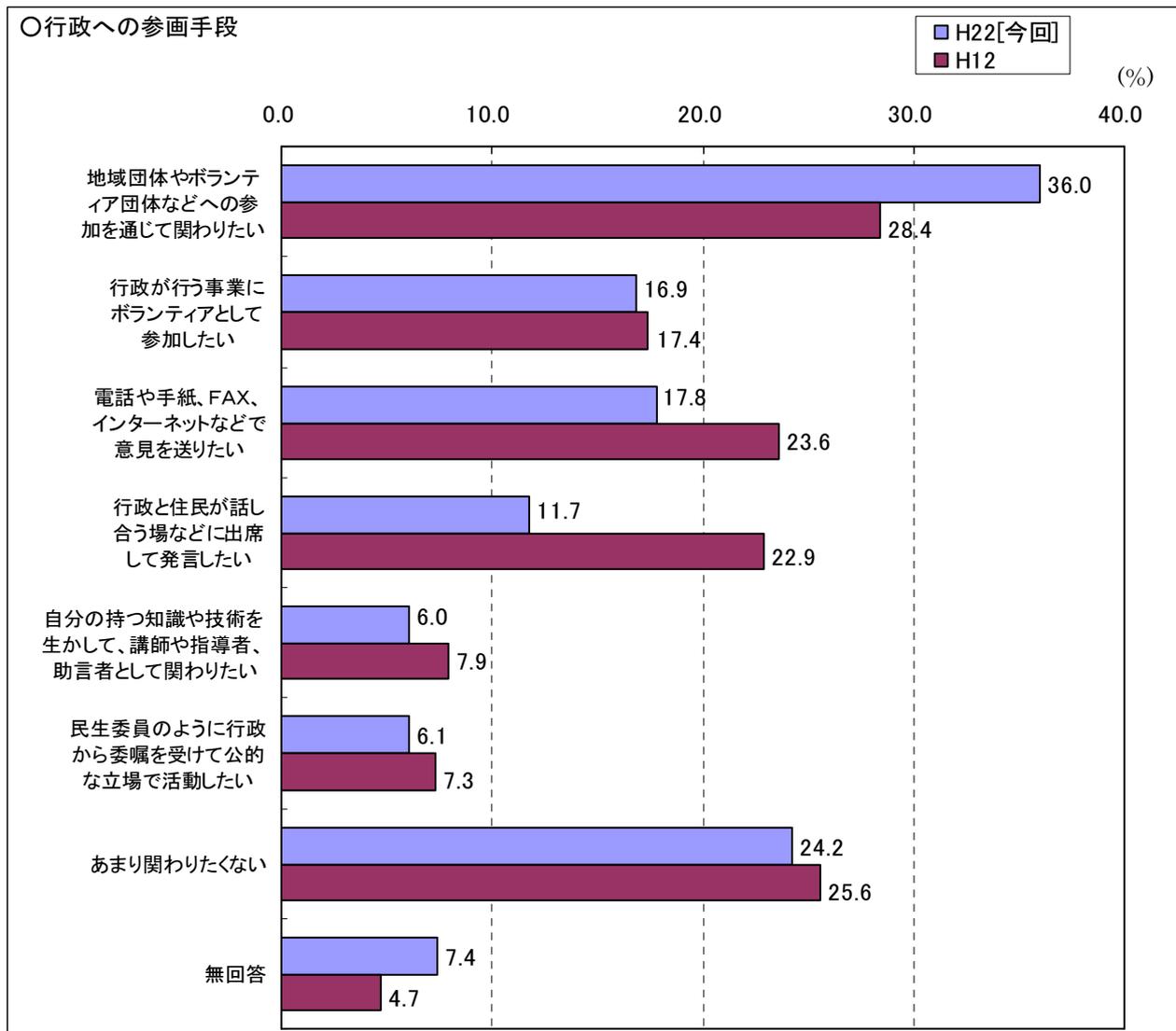
- 1 地域団体やボランティア団体などへの参加を通じて関わりたい
- 2 行政が行う事業にボランティアとして参加したい
- 3 電話や手紙、FAX、インターネットなどで意見を送りたい
- 4 行政と住民が話し合う場などに出席して発言したい
- 5 自分の持つ知識や技術を生かして、講師や指導者、助言者として関わりたい
- 6 民生委員のように行政から委嘱を受けて公的な立場で活動したい
- 7 あまり関わりたくない

- 「地域団体やボランティア団体などへの参加を通じて関わりたい」(36.0%)が3割半ばと最も多くなっているが、「あまり関わりたくない」(24.2%)も2割を超え、次いで「電話や手紙、FAX、インターネットなどで意見を送りたい」(17.8%)が続いている。
- 一方で、「自分の持つ知識や技術を生かして、講師や指導者、助言者として関わりたい」(6.0%)や、「民生委員のように行政から委嘱を受けて公的な立場で活動したい」(6.1%)などは1割を下回っている。



◆平成 12 年調査との比較

- 本県が平成 12 年に実施した県民意識調査の結果と比較すると、前回同様に「地域団体やボランティア団体などへの参加を通じて関わりたい」(36.0%)が最も多くなっているが、一方で「電話や手紙、FAX、インターネットなどで意見を送りたい」(23.6%→17.8%)と「行政と住民が話し合う場などに出席して発言したい」(22.9%→11.7%)では減少している。また、その他の項目については大きな差はみられない。



◆地域別

- 地域別でみると、「地域団体やボランティア団体などへの参加を通じて関わりたい」では、但馬(44.4%)が最も多く4割台半ばに達しているほか、いずれの地域も3割を上回っている。
- 「電話や手紙、FAX、インターネットなどで意見を送りたい」では、最も多い阪神北(20.7%)と、最も少ない但馬(7.9%)で12.7ポイントの差が生じている。一方で、「民生委員のように行政から委嘱を受けて公的な立場で活動したい」では、反対に但馬(9.5%)が最も多く、阪神北(3.6%)が最も少なくなっている。

◎行政への参画手段【地域別】

(%)

	1 地域団体やボランティア団体などへの参加を通じて関わりたい	2 行政が行う事業にボランティアとして参加したい	3 電話や手紙、FAX、インターネットなどで意見を送りたい	4 行政と住民が話し合う場などに出席して発言したい	5 自分の持つ知識や技術を生かして、講師や指導者、助言者として関わりたい	6 民生委員のように行政から委嘱を受けて公的な立場で活動したい	7 あまり関わりたいくない
全 県	36.0	16.9	17.8	11.7	6.0	6.1	24.2
地域別							
神 戸	36.0	15.1	20.2	12.1	5.9	6.6	23.2
阪神南	34.7	14.6	19.4	9.7	4.9	4.9	23.5
阪神北	35.4	21.0	20.7	11.5	5.6	3.6	23.6
東播磨	32.4	15.8	14.7	13.2	8.8	6.6	26.5
北播磨	39.5	20.7	14.5	12.2	6.6	7.9	26.0
中播磨	37.9	14.8	16.8	6.4	4.4	6.4	27.9
西播磨	37.7	21.1	14.9	18.5	7.5	7.1	23.4
但 馬	44.4	20.0	7.9	15.9	6.0	9.5	21.3
丹 波	32.4	24.1	14.7	17.1	7.0	6.0	22.1
淡 路	39.9	19.6	14.0	13.3	6.6	7.0	22.0
地域間の差	12.1	9.5	12.7	12.1	4.5	5.9	6.6

◆性別／性・年代別

- 性別では、「行政と住民が話し合う場などに出席して発言したい」で、男性(18.4%)が女性(7.0%)より多く、11.4ポイントの差が生じている。
- 性・年代別でみると、男性では、「電話や手紙、FAX、インターネットなどで意見を送りたい」で、最も多い30代(36.4%)に対し、80歳以上(6.9%)、70代(9.7%)、60代(11.1%)と、高い年代層で少なくなっており、女性でも同様に、30代(30.7%)が最も多く、80歳以上(6.8%)、50代(9.2%)、70代(11.6%)と、概ね高い年代で少なくなる傾向がみられる。

◎行政への参画手段【性別】

(%)

	1 地域団体やボランティア団体などへの参加を通じて関わりたい	2 行政が行う事業にボランティアとして参加したい	3 電話や手紙、FAX、インターネットなどで意見を送りたい	4 行政と住民が話し合う場などに出席して発言したい	5 自分の持つ知識や技術を生かして、講師や指導者、助言者として関わりたい	6 民生委員のように行政から委嘱を受けて公的な立場で活動したい	7 あまり関わりたくない
全 県	36.0	16.9	17.8	11.7	6.0	6.1	24.2
性別							
男 性	35.4	18.8	19.0	18.4	7.0	6.8	23.2
女 性	36.4	15.5	17.0	7.0	5.3	5.5	24.9
性別間の差	1.0	3.3	2.0	11.4	1.7	1.3	1.7

◎行政への参画手段【性・年代別、男性】

(%)

	1 地域団体やボランティア団体などへの参加を通じて関わりたい	2 行政が行う事業にボランティアとして参加したい	3 電話や手紙、FAX、インターネットなどで意見を送りたい	4 行政と住民が話し合う場などに出席して発言したい	5 自分の持つ知識や技術を生かして、講師や指導者、助言者として関わりたい	6 民生委員のように行政から委嘱を受けて公的な立場で活動したい	7 あまり関わりたくない
全 県	36.0	16.9	17.8	11.7	6.0	6.1	24.2
性・年代別							
男 性							
20代	31.5	18.0	23.0	7.7	9.7	0.8	28.4
30代	31.3	15.8	36.4	14.8	8.3	9.5	18.5
40代	39.5	18.7	29.7	7.9	6.0	3.9	18.1
50代	38.9	16.7	17.4	19.7	9.7	4.9	23.6
60代	38.3	19.0	11.1	20.3	6.3	10.5	24.9
70代	35.2	24.3	9.7	31.0	5.7	7.3	21.6
80以上	16.6	18.8	6.9	23.3	2.3	4.6	38.7
年代間の差	22.9	8.5	29.5	23.3	7.4	9.6	20.6

◎行政への参画手段【性・年代別、女性】

(%)

	1 地域団体やボランティア団体などへの参加を通じて関わりたい	2 行政が行う事業にボランティアとして参加したい	3 電話や手紙、FAX、インターネットなどで意見を送りたい	4 行政と住民が話し合う場などに出席して発言したい	5 自分の持つ知識や技術を生かして、講師や指導者、助言者として関わりたい	6 民生委員のように行政から委嘱を受けて公的な立場で活動したい	7 あまり関わりたくない
全 県	36.0	16.9	17.8	11.7	6.0	6.1	24.2
性・年代別							
女 性							
20代	41.1	15.9	19.7	5.0	4.9	0.8	28.6
30代	39.5	13.7	30.7	4.1	8.3	5.5	18.5
40代	35.9	11.8	25.8	7.6	10.3	7.6	24.2
50代	43.7	25.3	9.2	6.0	4.4	5.7	20.7
60代	39.8	17.1	12.7	7.8	3.2	7.9	29.4
70代	29.0	11.2	11.6	11.8	2.4	4.0	23.5
80以上	13.5	8.2	6.8	6.2	2.7	2.9	35.7
年代間の差	30.1	17.1	23.8	7.7	7.9	7.0	17.2

◆職業別

- 職業別をみると、「地域団体やボランティア団体などへの参加を通じて関わりたい」では、パート・アルバイト(41.0%)で最も多く4割を超え、次いで、自営業(38.3%)、主婦(主夫)(37.7%)、正規社員(職員)(36.2%)が続く。また、「あまり関わりたいくない」では、学生(40.0%)が4割を超え最も多く、自営業(18.3%)が最も少なくなっている。

◎行政への参画手段【職業別】 (%)

	1 地域団体やボランティア団体などへの参加を通じて関わりたい	2 行政が行う事業にボランティアとして参加したい	3 電話や手紙、FAX、インターネットなどで意見を送りたい	4 行政と住民が話し合う場などに出席して発言したい	5 自分の持つ知識や技術を生かして、講師や指導者、助言者として関わりたい	6 民生委員のように行政から委嘱を受けて公的な立場で活動したい	7 あまり関わりたいくない
全 県	36.0	16.9	17.8	11.7	6.0	6.1	24.2
職業別							
自営業	38.3	19.2	19.7	16.4	10.0	9.6	18.3
正規社員(職員)	36.2	15.9	23.3	10.8	5.9	4.4	24.1
会社等の役員	35.3	27.2	15.6	14.1	12.5	6.3	23.4
契約・派遣社員	34.9	17.0	27.8	16.4	7.1	6.4	19.1
パート・アルバイト	41.0	16.8	15.2	10.3	5.7	8.9	23.2
主婦(主夫)	37.7	15.1	16.7	6.4	4.4	6.1	25.7
学生	34.9	11.6	21.3	16.6	10.8	11.6	40.0
その他無職	31.3	17.3	12.2	13.8	4.9	4.5	26.6
職業間の差	9.7	15.6	15.6	10.2	8.0	7.2	21.7

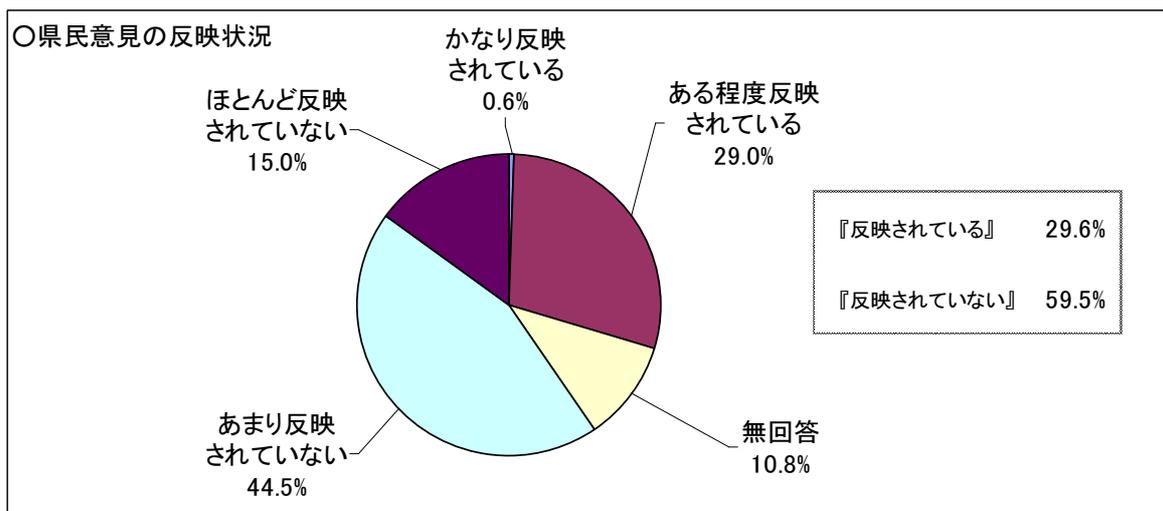
(2) 県民意見の反映状況

問 10 県民の意見の県政への反映状況について、あなたの考えに一番近いものはどれですか。次の中から1つ選んで番号に○印をつけて下さい。

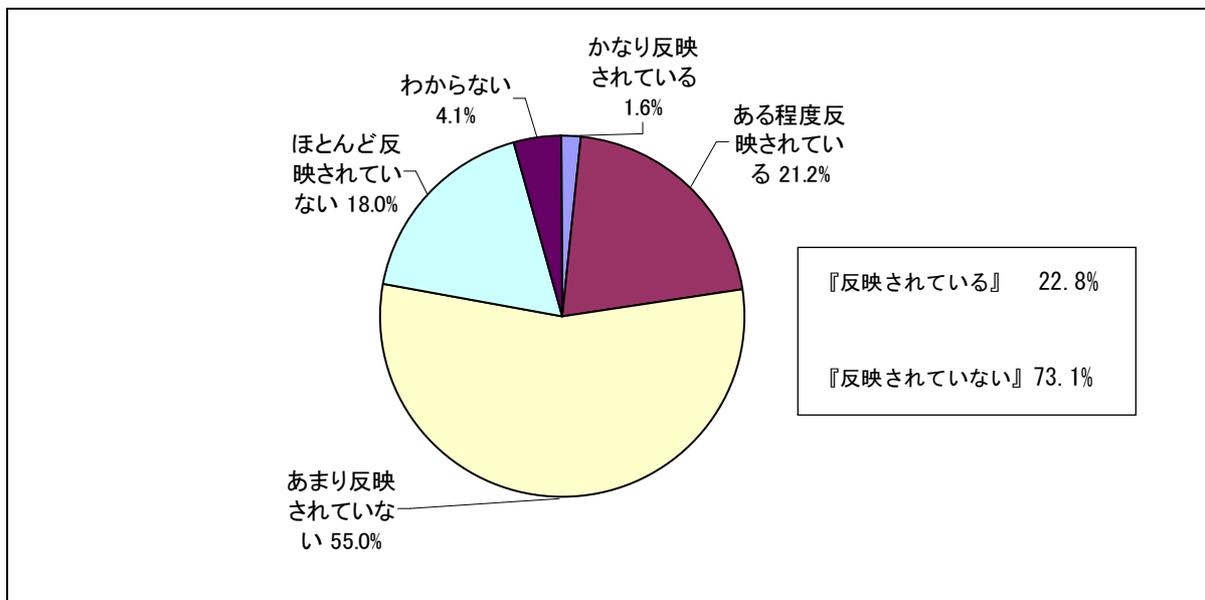
- 1 : かなり反映されている
2 : ある程度反映されている

- 3 : あまり反映されていない
4 : ほとんど反映されていない

○ 「かなり反映されている」と「ある程度反映されている」を合わせた『反映されている』(29.6%)が約3割となっており、H22.1月に内閣府が実施した国政に対する全国調査と比較して6.8ポイント上回っている。



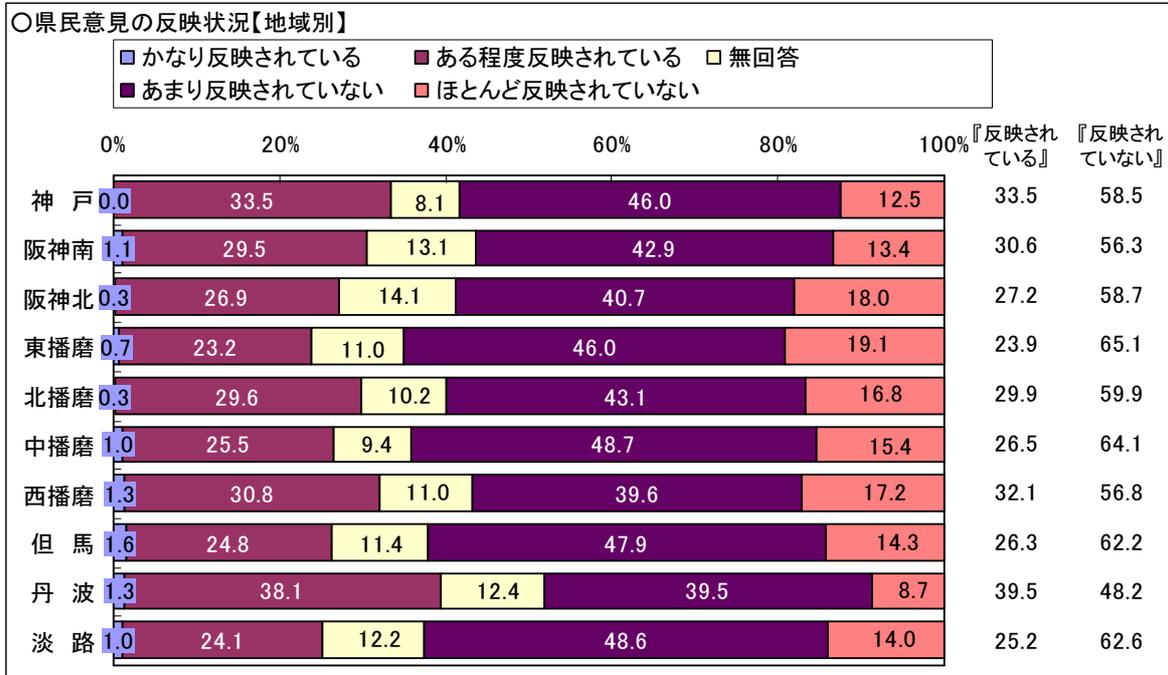
(参考：国政に対する全国調査)



出典：内閣府「社会意識に関する意識調査」(H22.1月)

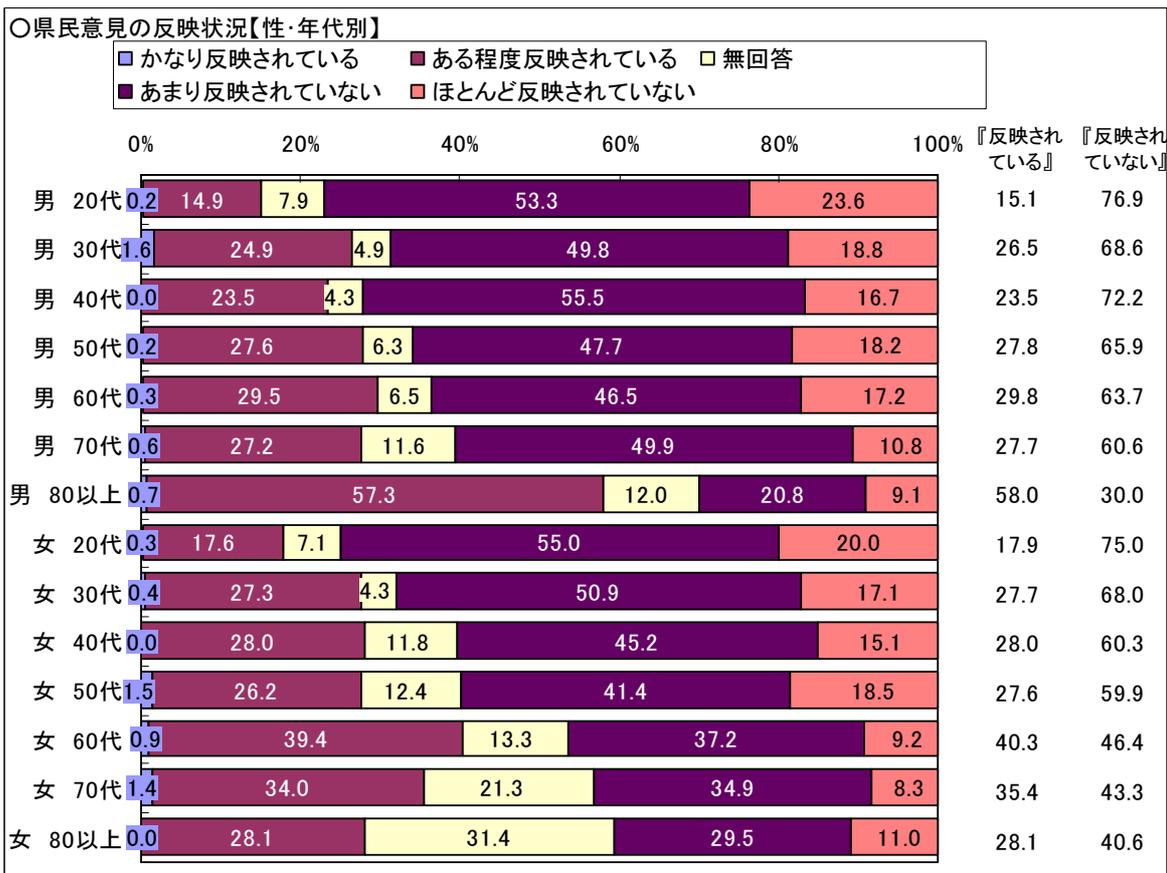
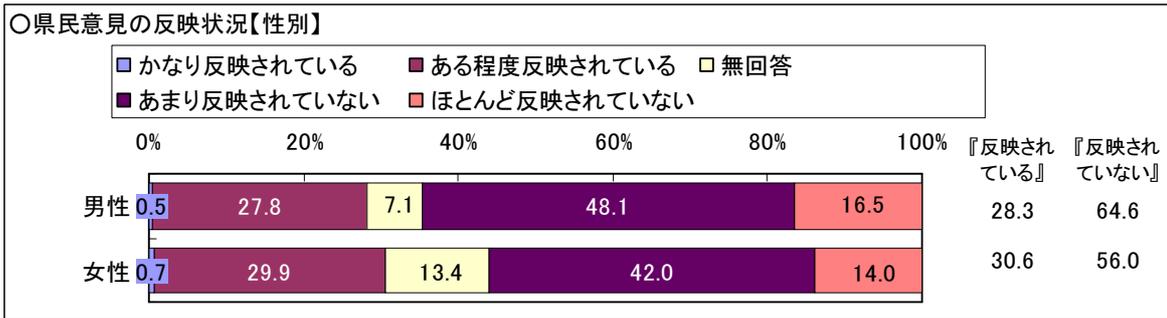
◆地域別

- 地域別でみると、『反映されている』で最も多いのは、丹波(39.5%)で、次いで神戸(33.5%)、西播磨(32.1%)、阪神南(30.6%)が3割を上回っている一方で、東播磨(23.9%)は最も少なくなっている。一方、『反映されていない』では、東播磨(65.1%)が最も多く、中播磨(64.1%)、淡路(62.6%)、但馬(62.2%)と続き4地域で6割を超えている。



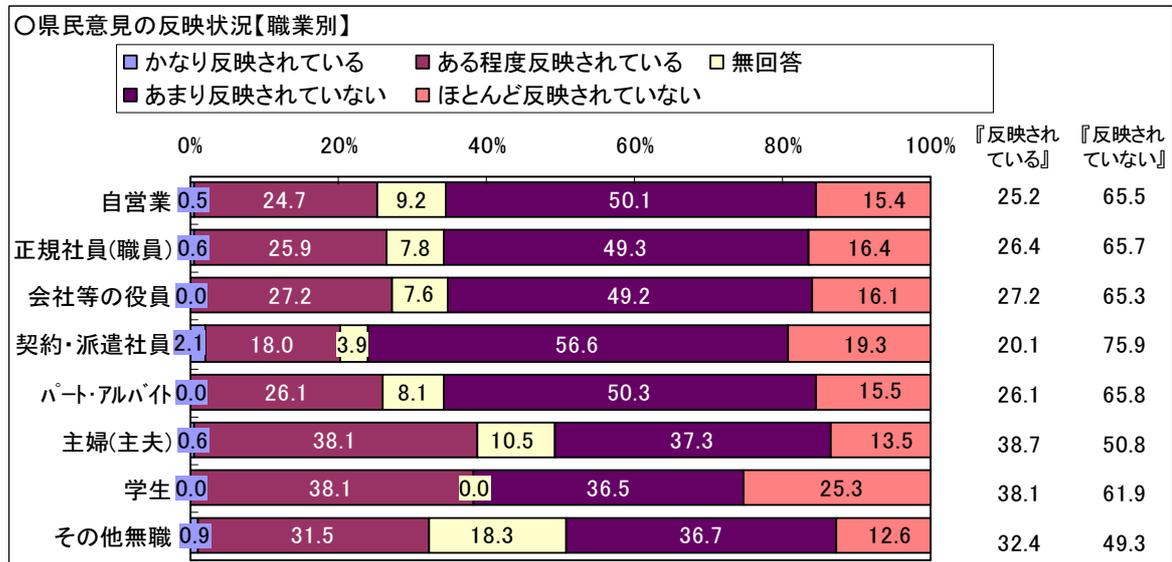
◆性別／性・年代別

- 性別で見ると、『反映されている』では、男性(28.3%)より女性(30.6%)の方が多く、反対に『反映されていない』では、女性(56.0%)より男性(64.6%)が8.6ポイント上回っている。
- 性・年代別で見ると、男性では『反映されている』で、80歳以上(58.0%)が最も多く、60代(29.8%)、50代(27.8%)、70代(27.7%)と続いているが、20代(15.1%)は2割に満たず、最も少なくなっている。一方、女性では60代(40.3%)が最も多く、70代(35.4%)、80歳以上(28.1%)と続き、男性と同様に、20代(17.9%)が最も少なくなっている。
- また、「ほとんど反映されていない」で見ると、男女とも20代(男23.6%、女20.0%)が最も多くなっており、2割を上回っている。



◆職業別

- 『反映されている』でみると、主婦（主夫）（38.7%）が最も多く、学生（38.1%）、その他無職（32.4%）と3割台で続いており、最も少ないのは契約・派遣社員（20.1%）で約2割となっている。一方で、「ほとんど反映されていない」でも、他の職業は1割台に止まっている中、学生（25.3%）のみ2割を超え最も多くなっている。

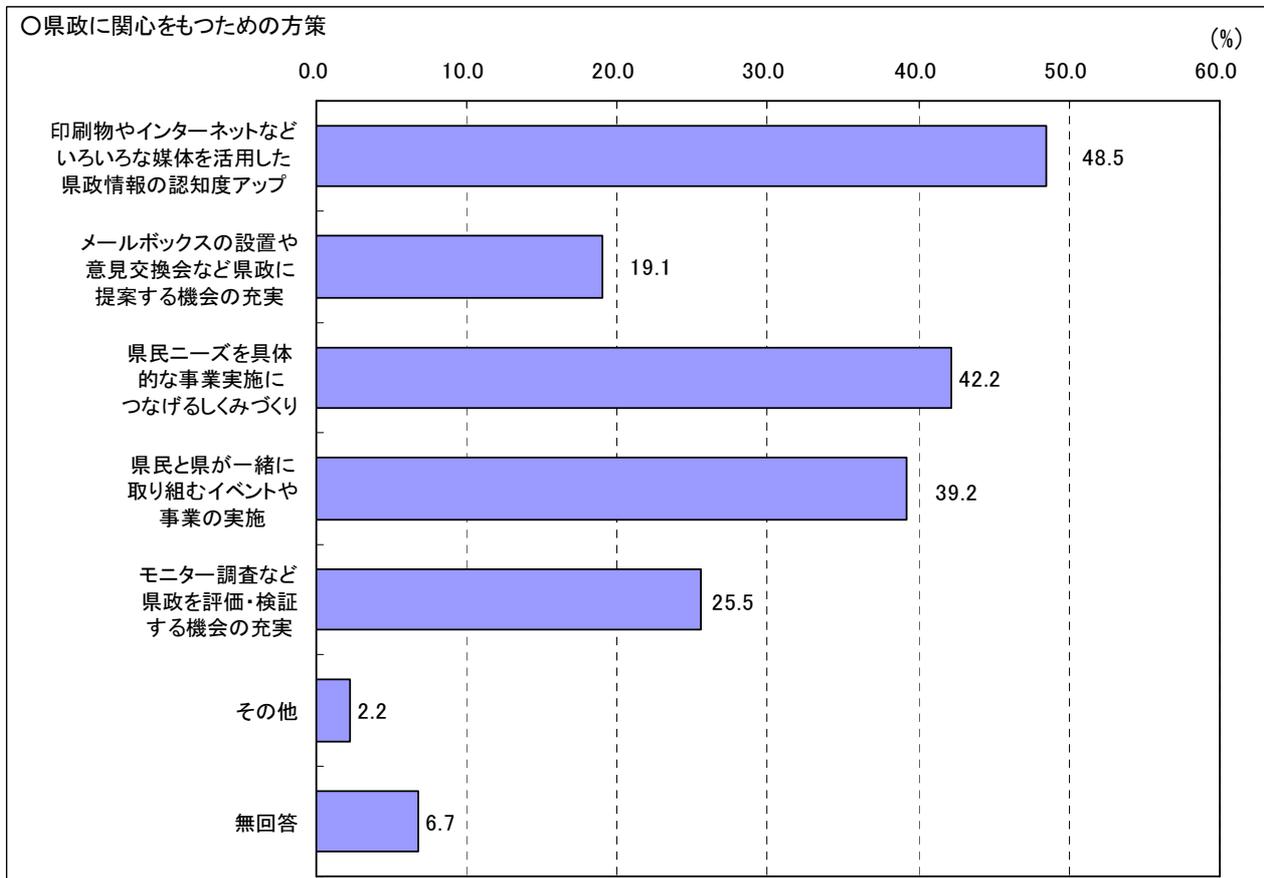


(3) 県政に関心をもつための方策

問 11 県民に身近な県政とするためには、どのようなことが必要だと思われますか。次の中から2つ選んで番号を記入して下さい。

- 1 印刷物やインターネットなどいろいろな媒体を活用した県政情報の認知度アップ
- 2 メールボックスの設置や意見交換会など県政に提案する機会の充実
- 3 県民ニーズを具体的な事業実施につなげるしくみづくり
- 4 県民と県と一緒に取り組むイベントや事業の実施
- 5 モニター調査など県政を評価・検証する機会の充実
- 6 その他 ()

○ 「印刷物やインターネットなどいろいろな媒体を活用した県政情報の認知度アップ」(48.5%)が最も多く、次いで「県民ニーズを具体的な事業実施につなげるしくみづくり」(42.2%)、「県民と県と一緒に取り組むイベントや事業の実施」(39.2%)と続いている。一方で、「メールボックスの設置や意見交換会など県政に提案する機会の充実」(19.1%)は2割を下回っている。



◆地域別

- 地域別でみると、「印刷物やインターネットなどいろいろな媒体を活用した県政情報の認知度アップ」では、阪神南(53.4%)が最も多く、次いで神戸(50.7%)も5割を上回っているが、最も少ない西播磨(39.9%)では4割を下回る。
- 「県民ニーズを具体的な事業実施につなげるしくみづくり」をみると、中播磨(47.0%)が最も多く、神戸(45.2%)、但馬(44.8%)、北播磨(43.8%)と続いており、最も少ないのは阪神北(37.0%)で4割りを下回っている。

◎行政の支援策【地域別】

(%)

	1 印刷物やインターネットなどいろいろな媒体を活用した県政情報の認知度アップ	2 メールボックスの設置や意見交換会など県政に提案する機会の充実	3 県民ニーズを具体的な事業実施につなげるしくみづくり	4 県民と県と一緒に取り組むイベントや事業の実施	5 モニター調査など県政を評価・検証する機会の充実	6 その他
全 県	48.5	19.1	42.2	39.2	25.5	2.2
地域別						
神 戸	50.7	16.5	45.2	40.1	27.6	1.5
阪神南	53.4	18.3	40.3	38.8	22.0	3.4
阪神北	45.2	24.3	37.0	33.1	31.5	2.6
東播磨	47.4	19.5	39.3	37.9	28.3	2.2
北播磨	48.0	20.4	43.8	43.1	22.0	1.0
中播磨	46.3	18.5	47.0	42.3	20.5	2.3
西播磨	39.9	24.4	40.6	40.3	25.0	2.6
但 馬	44.8	17.1	44.8	39.4	23.5	1.9
丹 波	42.5	17.4	42.1	42.1	19.1	2.7
淡 路	46.2	17.1	42.3	46.5	20.3	2.1
地域間の差	13.4	7.8	9.9	13.4	12.4	2.4

◆性別／性・年代別

- 性別では、「印刷物やインターネットなどいろいろな媒体を活用した県政情報の認知度アップ」(男 48.8%、女 34.4%)で 14.5 ポイントの差が生じ、「県民ニーズを具体的な事業実施につなげるしくみづくり」(男 42.8%、女 30.1%)でも 12.7 ポイントの差が生じているなど、全ての項目で女性より男性が多くなっている。
- 性・年代別では、男女ともに世代間の差がみられ、最も差が大きいのは男女ともに「県民ニーズを具体的な事業実施につなげるしくみづくり」で、男性では 30 代(51.4%)と 80 歳以上(24.5%)で 27.0 ポイントの差が、女性では 50 代(49.1%)と 80 歳以上(22.8%)で 26.4 ポイントの差が生じている。

◎行政の支援策【性別】

(%)

	1 印刷物やインターネットなどいろいろな媒体を活用した県政情報の認知度アップ	2 メールボックスの設置や意見交換会など県政に提案する機会の充実	3 県民ニーズを具体的な事業実施につなげるしくみづくり	4 県民と県と一緒に取り組むイベントや事業の実施	5 モニター調査など県政を評価・検証する機会の充実	6 その他
全 県	48.5	19.1	42.2	39.2	25.5	2.2
性別						
男 性	48.8	17.9	42.8	39.0	27.8	2.9
女 性	34.4	12.6	30.1	27.4	19.6	2.0
性別間の差	14.5	5.3	12.7	11.6	8.2	0.9

◎行政の支援策【性・年代別、男性】

(%)

	1 印刷物やインターネットなどいろいろな媒体を活用した県政情報の認知度アップ	2 メールボックスの設置や意見交換会など県政に提案する機会の充実	3 県民ニーズを具体的な事業実施につなげるしくみづくり	4 県民と県と一緒に取り組むイベントや事業の実施	5 モニター調査など県政を評価・検証する機会の充実	6 その他
全 県	48.5	19.1	42.2	39.2	25.5	2.2
性・年代別						
男 性						
20代	40.6	20.0	47.5	47.3	32.0	4.9
30代	42.0	22.9	51.4	45.6	30.2	0.2
40代	49.2	22.6	45.8	42.4	26.9	3.5
50代	52.8	17.2	46.5	36.5	30.5	1.9
60代	52.5	18.0	38.9	32.1	27.2	3.6
70代	43.0	14.0	38.2	39.8	26.2	4.2
80以上	64.7	3.5	24.5	38.6	18.6	0.7
年代間の差	24.1	19.3	27.0	15.2	13.3	4.7

◎行政の支援策【性・年代別、女性】

(%)

	1 印刷物やインターネットなどいろいろな媒体を活用した県政情報の認知度アップ	2 メールボックスの設置や意見交換会など県政に提案する機会の充実	3 県民ニーズを具体的な事業実施につなげるしくみづくり	4 県民と県と一緒に取り組むイベントや事業の実施	5 モニター調査など県政を評価・検証する機会の充実	6 その他
全 県	48.5	19.1	42.2	39.2	25.5	2.2
性・年代別						
女 性						
20代	45.4	17.7	49.1	52.1	29.6	1.8
30代	51.5	19.8	46.1	37.4	36.1	2.1
40代	46.3	21.4	42.6	47.3	29.0	1.8
50代	49.6	24.1	49.1	39.1	23.2	0.1
60代	53.0	21.8	45.6	35.8	19.7	2.2
70代	43.9	15.2	28.3	33.2	14.8	3.5
80以上	43.5	14.0	22.8	34.2	10.3	0.3
年代間の差	9.6	10.1	26.4	19.0	25.8	3.5

◆職業別

- 職業別でみると、全県集計で最も多かった「印刷物やインターネットなどいろいろな媒体を活用した県政情報の認知度アップ」では、契約・派遣社員(55.3%)が最も多く、主婦(主夫)(51.4%)が続き5割を上回っており、最も少ないのは正規社員(職員)(30.8%)となっている。
- 職業間の差をみると「県民と県と一緒に取り組むイベントや事業の実施」が最も大きく、最も多い学生(60.6%)と最も少ない正規社員(職員)(20.0%)との間で40.5ポイントの差が生じている。一方、「メールボックスの設置や意見交換会など県政に提案する機会の充実」では、反対に正規社員(職員)(41.6%)が最も多く学生(13.6%)が最も少なくなっており、28.0ポイントの差が生じている。

◎行政の支援策【職業別】 (%)

	1 印刷物やインターネットなどいろいろな媒体を活用した県政情報の認知度アップ	2 メールボックスの設置や意見交換会など県政に提案する機会の充実	3 県民ニーズを具体的な事業実施につなげるしくみづくり	4 県民と県と一緒に取り組むイベントや事業の実施	5 モニター調査など県政を評価・検証する機会の充実	6 その他
全 県	48.5	19.1	42.2	39.2	25.5	2.2
職業別						
自営業	49.9	16.2	43.3	37.9	26.7	3.3
正規社員(職員)	30.8	41.6	43.8	20.0	6.1	9.9
会社等の役員	49.1	26.1	45.1	31.1	19.6	5.6
契約・派遣社員	55.3	16.5	41.4	42.6	34.0	0.8
パート・アルバイト	44.9	24.8	41.5	44.1	26.4	1.4
主婦(主夫)	51.4	21.8	39.8	39.8	24.0	2.0
学生	42.3	13.6	40.6	60.6	30.3	8.7
その他無職	47.6	15.8	36.7	32.7	21.3	2.6
職業間の差	24.5	28.0	8.4	40.5	27.9	9.2